沖縄医療生活協同組合

健康と平和、いのち輝く社会をめざして50年
うまんちゅとともに未来をひらく

もくじ

あいさつ …… 2
祝辞 …… 5
創立記念に寄せて …… 8
50年のあゆみ ……11
前史～沖縄民主診療所開設まで ……13
沖縄民主診療所の医療活動 ……17
沖縄医療生活協同組合の創立
第1次長期10ヵ年計画と沖縄協同病院建設 ……20
沖縄協同病院の医療活動の前進と施設拡大 ……26
沖縄協同病院群構想と新沖縄協同病院の
新築・移転・6億円増資運動 ……31
組合員の要求に根差した施設展開 ……36
支部活動の前進と組合員活動 ……45
健康をつくる　平和をつくる
明るいまちづくり ……50
2013年からのあゆみ ……54
これからの展望
情勢の変化に対応して展望ある経営をめざして ……64
組合員活動の到達とこれからの展望 ……65
看護活動のまとめと展望 ……67
人材教育活動のまとめと今後の展望 ……68
50歳職員からのメッセージ ……70
未来へのメッセージ ……72
事業所紹介 ……76
わったぁ支部 ……93
資料・年表編 …… 118

無差別平等の医療と介護、憲法を守り平和な沖縄、いのち輝く社会づくりをすすめよう

沖縄医療生活協同組合
理事長　**上原　昌義**

「健康をつくる。平和をつくる。いのち輝く社会をつくる。」

これは沖縄医療生活協同組合がすべての方々にお誓いした大切な理念であり、お約束であります。復帰前後の沖縄では、医療機関数は全国平均の約 5 分の 1、病床数も全国の半分以下であり、医師・看護師の数も全国平均の 3 分の 1 以下と医療資源が乏しい状態でありました。全国平均を大きく上回る赤痢など各種感染症が蔓延する中、医療保険があっても給付範囲は県民の約 4 割と医療を受ける障壁は高く、現金がなければ受診できません。そのような厳しい情勢の中、1970 年 12 月私達の「むーとぅやー」沖縄民主診療所が開院し、患者の立場に立った医療、無差別平等の医療、患者と共にたたかう医療を合言葉に日々の医療実践を積み上げてきました。地域から熱望されていた 24 時間救急医療をはじめ、訪問診療や夜間診療、職業病認定や出張老人健診、患者会活動など様々な事業を展開し組合員の信頼を得てきました。また 2010 年から病気になってお金がなくても受診できる県内で唯一の無料低額診療事業も継続中です。無差別平等の医療と福祉の実現を目指し、今年で沖縄医療生協は創立 50 周年を迎えることができました。沖縄協同病院は地域の救急や高度急性期医療の要求に応え、中部協同病院、とよみ生協病院は急性期・回復期医療を拡充してきました。さらに私達は6つの診療所、訪問診療・看護、介護施設、各種保健予防活動等、総合的な医療介護の複合体として地域の福祉力向上に邁進してきました。

今後 2035 年まで中部南部医療圏の人口は増加し、医療需要の急増が予想されています。現在の医療水準を知る住民は 15 年後も同様に発展した医療水準を要求することが想定され、対応可能な医療介護体制の整備をしていく必要があります。現在、中長期経営計画・第5次長期計画の下で新とよみ生協病院建設が着工され、今後沖縄協同病院の東棟建設も実現させていきます。

これからも沖縄医療生協は、無差別平等の医療と介護を提供し、憲法を守り基地のない平和な沖縄の実現、いのち輝く社会づくりの運動を広げること、組合員 10 万人を達成させ、地域まるごと健康が実感できる沖縄医療生協の SDGs も発展させていく所存でありますので、今後ともご支援頂けますようお願い申し上げます。

誰一人取り残さない公正な社会の実現をめざして ～誰もが健康で居心地よく暮らせるまちづくりを～

沖縄医療生活協同組合
副理事長　**大城　郁男**

沖縄医療生活協同組合創立 50 周年を迎えるにあたり、皆様と共にお慶び申し上げます。今年は沖縄の本土復帰 50 年の節目も迎えました。沖縄県と沖縄医療生協は、困難な情勢のなかでも県民・組合員が主人公の歴史を刻んで発展してきたものだと感慨を新たにしています。復帰時の沖縄の医療事情が本土に比べて劣悪な状態のなか、医療生協を創立し今日までの礎を築いて来られた諸先輩方のご労苦に対し改めて心から感謝と敬意を申し上げます。

1972 年の沖縄医療生協設立趣意書に「本当に望んでいる医療機関」像が次のように述べられています。①家庭・地域の健康管理に協力、病気を未然に防ぐ役割、②営利主義でない、③緊急時は時間外でも診てもらえ、必要な往診、④親身になって治療や生活相談、⑤差別されず平等に、⑥医師はじめ医療従事者が親切で良心的、⑦みんなの意見や要望で診療内容がよくなり安心して、⑧さまざまの医療生活問題をみんなと一緒に考え行動を共にする。私たちはこれらの設立趣意の原点を忘れず、「わった一病院・診療所・介護事業所」の存立と発展を期すためにも、地域組合員と職員組合員が共にちからを合わせていく決意を新たにするものです。

新型コロナ禍で人々のくらしと健康づくりが一変しました。人と人とのつながりや交流も制限され、やーぐまいからフレイルへ、そして受診控え、生活苦・貧困格差の拡大など社会的不安が増大しています。とりわけ沖縄においては将来を担う子どもたちの貧困問題がより深刻です。そのためにも班・サークル・支部をはじめ地域ネットワークづくりをさらに促進していきたいと考えます。

沖縄においては、基地問題も大きな課題です。憲法で謳われた「平和的生存権」が蹂躙されています。「戦争する国づくり」を許さないためにも憲法を守り、日米安保と地位協定の抜本的改定を強く要求するものです。

医療生協の理念である「健康をつくる。平和をつくる。いのち輝く社会をつくる。」実現のために、県民の願いに寄り添いながら「沖縄医療生協 SDGs 宣言」実践、「誰もが健康で居心地よくくらせるまちづくり」を進めていきましょう。

50 年の歴史を確信に 新しい時代をきりひらく

沖縄医療生活協同組合
専務理事　**比嘉　努**

地域とともに歩んで 50 年、医療生協活動を支えた組合員及び地域の方々に心より感謝申し上げます。米軍占領下の劣悪な医療環境下、地域住民の医療要求が高まり 1970 年 12 月に沖縄民主診療所が誕生しました。民診誕生によって沖縄の地に民医連の基礎が築かれました。その後、本土復帰・施政権返還に伴い 1972 年 10 月に沖縄医療生協を設立し事業が継承されました。設立趣意書の文言一つ一つに組合員の願いや希望、夢が込められています。

以来、無差別・平等の医療と介護の理念の旗を掲げ、患者に寄り添い、組合員及び地域住民と協同して事業活動を展開してきました。また、政府が進める社会保障制度の抑制や戦争政策など、その時々の社会問題に対し、人権尊重、いのちの尊厳を守る立場で運動を広げてきました。こうして発展してきた沖縄医療生協の 50 年の歴史は、民医連運動と沖縄医療生協の理念の正しさを証明しています。

2021 年度時点の事業規模は、沖縄協同病院をはじめ 15 事業所を有し、事業収益が年間 147 億円、職員数 1,496 名、組合員数は 98,478 人、出資金は 19 億 5,132 万円の到達です。進行中の第 5 次長期計画は、2019 年度の新中部協同病院の開院に続き、2023 年度に新とよみ生協病院が開院予定です。その後に沖縄協同病院の増築工事を行います。第 5 次長期計画は 120 億円の投資を行う大事業です。そして、事業基盤を強化し将来に渡り事業を存続させるための計画です。

将来への展望は沖縄医療生協の歴史と教訓に学び、事業を豊かに発展させることです。高齢化社会への対応は、医療と介護、福祉をより一層充実させることです。沖縄医療生協は社会福祉法人沖縄にじの会と連帯し、医療と介護、福祉の複合事業体として発展させ、組合員と地域住民のいのちと健康を守り抜きます。

気候危機、コロナの感染拡大、辺野古の新基地建設など、今日的課題に対応しながら、沖縄医療生協の活動をより豊かに発展させ、いのち輝く、新しい時代をきりひらきましょう。

祝 辞

日本医療福祉生活協同組合連合会
代表理事会長理事　**髙橋　淳**

沖縄医療生活協同組合創立 50 周年おめでとうございます。
全国の医療福祉生協を代表し、心からのお祝いを申し上げます。

1960 年代の沖縄は病院・診療所数が全国平均の半分以下であり、医師・看護師数は 3 分の 1 以下、各種疾患や伝染病罹患も高率で多くの困難を抱えていました。そのような中、生活や健康に多くの不安を抱える地域の人々と協同して「患者の立場に立つ医療の実践」「無差別平等の医療」「患者・住民と共に闘う医療」を合言葉に、9 人の職員で 1970 年 12 月地域の人々と協同で「沖縄民主診療所」が開設されました。

その2年後の 1972 年 10 月、沖縄県復帰の年に「いのちと健康、くらしと平和を守るために」「いつでも、どこでも、だれでも良い医療が受けられるように」との県民の願いを出発点に、沖縄医療生協が設立され、今日まで「患者の立場に立つ医療の実践」「無差別平等の医療」を貫いてこられました。そして、地域の人々の願いや要求に寄り添い、「いのち」と「くらし」をまもり続けてこられました。50 年を経て、沖縄県にくらす方々にとっては、なくてはならない存在になっています。

貴生協が掲げる「つながりを大切に、健康づくり、まちづくりをすすめる」「無差別平等の医療と介護・福祉を実践する」そして、「平和憲法を守り、辺野古新基地建設を断念させるたたかいにとりくむ」という課題は、全国の医療福祉生協にとって大変重要な課題です。

全国の医療福祉生協は、2030 年ビジョン「誰もが健康で居心地よくくらせるまちづくりへの挑戦」をメインテーマに掲げ、健康づくり、まちづくりに取り組んでいます。貴生協とも手を携えてその達成に邁進していきたいと考えます。

創立 50 周年を迎えられた貴生協のご発展と、地域組合員・職員組合員の皆様のご健勝を祈念し、祝辞といたします。

祝 辞

沖縄県生活協同組合連合会
会長理事　**川越　雄一郎**

沖縄医療生協が創立 50 周年を迎えられたことに県内生協の仲間を代表して心よりお祝い申し上げます。

沖縄祖国復帰の 1972 年に設立された貴生協は、組合員9万8千人、職員数 1,600 人、事業所も3つの病院、6 つの診療所、5つの介護事業所へと発展されました。創立以来「地域のいのちとくらしを守る活動」に取り組んでこられた組合員と役職員の皆様の積み重ねに対し深く敬意を表します。

辺野古新基地建設においては、日本国土の 0.6% しかない沖縄に約70% もの米軍専用施設が集中している中で「辺野古が唯一」と、県民投票で示された埋立反対の民意を一顧だにせず、辺野古新基地建設の強行や県知事の辺野古埋め立て設計変更不承認を、国土交通相が取り消すなど、政府の姿勢は断じて許されるものではありません。

また世界では、正気の沙汰とは思えないプーチン大統領の核兵器使用の威嚇など、ロシアのウクライナ侵攻は緊張の一途をたどり、日本国内においては軍事力強化を求める意見や核共有論など到底容認できない発言も飛び交っています。

くらしを取り巻く環境は、コロナウイルスや異常気象、ウクライナ侵攻も重なり、ガソリン・食品・日用品などの値上げで、くらしはますます厳しくなっています。そのような中、私たち生活協同組合も、社会の一員として、誰一人取り残さない持続可能な社会づくり、SDGs課題のいっそうの推進が求められます。

新型コロナウイルス感染症は 3 年目を迎えていますが、沖縄が全国で最も高い感染状況にあり、未だに収束の見通せない状況が続いています。

沖縄協同病院は、新型コロナ重点医療機関として県の要請に応える以外にも、県内外の病院で発生するクラスターに感染対策部門の医師や看護師を派遣する幅広い支援にも取り組まれ、まさに「地域のいのちとくらしを守る活動」をすすめました。

沖縄医療生協のさらなるご発展を、県内の生協とともに心よりご祈念申し上げましてお祝いの言葉とさせていただきます。

祝 辞

全日本民主医療機関連合会
会　長　**増田　剛**

沖縄医療生活協同組合創立 50 周年おめでとうございます。

戦後、沖縄県民のいのちと人権を蹂躙したアメリカ軍政により、県民の暮らしは大きく破壊されました。民主診療所を求める切実な声に、全国からの支援も寄せられ沖縄民主診療所が誕生したのは 1970 年 12 月、いまだ米軍統治下の時代でした。当時、民主主義や日本への復帰、米軍基地の撤去を求めたたたかいと呼応した運動であり、そのどれもが県民の悲願であったことと思います。遂には米国を追い詰め、1972 年に施政権が返還され、同年 10 月にたたかいを受け継ぎ沖縄医療生活協同組合が結成されました。あれから 50 年、現在の沖縄医療生協は 3 つの病院と 6 の診療所などを運営し大きく発展しています。

一方、県民の悲願である米軍基地の撤去については、米国言いなりの日本政府が今日に至るまで背を向け続けていることに怒りを禁じ得ません。基地関連の事件や事故が頻発し、多くの県民のいのちが奪われてきました。自公政権は県民の民意を無視し続け、欺瞞を弄し、辺野古新基地建設を強行しようとしています。またロシアのウクライナ侵攻を口実に、敵基地攻撃能力や防衛予算の 2 倍化、ついには核保有まで言い出す始末です。近隣諸国との緊張が拡大して、万が一軍事衝突が勃発すれば、最も危険に晒されるのは基地が集中する沖縄です。憲法 9 条を生かした平和外交を徹底することが、日本が世界の平和に貢献できる唯一の道です。

またコロナ禍で痛めつけられた庶民の生活に、アベノミクスによる異常円安と物価高が襲い掛かっています。岸田政権は当初の主張を 180 度変更して、安倍政治の忠実な継承者に成り下がりました。自公政権では人々の生活は絶対に守れません。憲法 25 条に根差した、権利としての社会保障を実現させることが強く求められています。

今年沖縄は、同じく本土復帰 50 周年の節目の年を迎えています。平和と暮らしを守るため、憲法の理念を活かし奮闘する沖縄医療生協の役割と存在意義はますます大きくなっています。50 年のたたかいの伝統を力に、貴生協が益々発展することを祈念するとともに、基地の無い沖縄を目指し、ともに奮闘する決意を述べ、祝辞とさせて頂きます。

沖縄医療生協創立 50 年、いま思う事

社会福祉法人沖縄にじの会
理事長　仲西　常雄

沖縄医療生活協同組合創立 50 年は、沖縄の本土復帰 50 年でもあります。27 年間に及ぶ米軍占領下では、日本国憲法で保障された基本的人権、財産権、生存権、渡航の自由、自治権、裁判権、政治的市民的自由等が蹂躙されました。

復帰 50 年経った現在も、命どう宝、基地のない平和な沖縄、日本国憲法の下で暮らしたいという県民の思いは踏みにじられたままです。「核抜き、本土並み」とは裏腹に、復帰と同時に自衛隊も乗り込み、米軍専用基地は復帰時の 58.8% から 70.3% に増え、その上辺野古新基地建設を強行し、民主主義も地方自治も破壊しているのが現状です。

一方、復帰前の 1970 年 12 月 14 日に誕生した「沖縄民主診療所」は「民診友の会」を発展的に解消し、日本国憲法の下で 1972 年 10 月 1 日に沖縄医療生活協同組合を創立しました。

占領下の県民のたたかいは、島ぐるみの土地闘争を教訓に復帰運動を中心とした激しい運動を前面に、医療や年金、福祉等生活を守る課題は後回しにならざるを得ない状況でした。1966 年にやっと出来た医療保険も県民の 6 割は排除され、6 年間で 80 億円の黒字を出し「保険あって医療なし」という状況でした。医療供給体制も医師・看護婦は全国平均の 3 分の 1、一般病院・病床数は 2 分の 1 という 20 年遅れの劣悪な状況でした。

医療生協は、①命は平等、無差別平等の医療、②患者の立場に立ち、③ともにたたかう医療を掲げて医療活動を展開し、社会保障を良くする運動を行いました。1974 年 4 月第 2 回定期総代会で「長期 10 ヵ年計画」を策定し、500 床病院と 8 つの診療所建設計画を提起しました。当時の「沖縄タイムス」は社説で、住民主体の医療生協の運動を評価し、「医療生協の医療は、沖縄の医療史の中で画期的な役割を果たすだろう」と期待を込めて論評しました。その後、医療生協が率先して実践した組合員健診は自治体が行う住民健診に発展し、寝たきり患者の定期往診や訪問看護も制度化され、私たちが始めた夜間診療や夜間透析、24 時間救急医療も当たり前になりました。医療従事者と組合員の力を結集した医療生協の運動は沖縄の医療状況を大きく変え前進させました。

職員と組合員の協同のたたかいで 発展してきた沖縄医療生協

監事
山里　昌毅

沖縄民主診療所は朝から夜間診療まで連日患者さんがいっぱいで職員に対する信頼が厚く感じられました。先輩の赤嶺吉信さんと名嘉専務が間借り先に来て「病院建設を一緒に取り組んでほしい。卒業したらすぐにきてほしい。」と半ば強引に決意させられ 1974 年 3 月 25 日に就職しました。2週間ほどして真喜屋理事長から医療の現状が説明され、「職員と組合員が一緒になってたたかっていかなければ要求は実現しない。頑張ってほしい」と激励されると同時に医療生協の階級性を感じました。

第2回定期総代会で決定された長期 10 か年計画の沖縄協同病院建設は「いつでも診てくれる、安心して入院できる病院だ、みんなで協力して建設しよう」と組合員は大喜びでした。各地に立看板の設置、懇談会、活動者会議、決起集会等に多くの組合員が参加しました。職員も班会や組合員健診・結果返しに参加しながら病院建設の重要性を熱く語っていました。班長も必死に動き回り、「組合員を増やした、組合債を預かっているから取りに来てほしい」という電話が日増しに多くなってきました。組合員は、預貯金や、土地を担保に金を借りて組合債に充てる、県からの融資を実現させるための署名を短期間に集める等、大きな力となりました。中部では、診療所計画に対して組合員の討議によって病院建設へ変更し、現在の立派な中部協同病院へと繋がりました。

「くぬ病院（糸診）は、わったーがぬちゃーしーし造たる病院るやんどー」「中部協同病院を造るために土地探しや組合員増やしなどで嘉陽宗義（元県議）さん等と一緒に夜中まで歩き回ったよ」と嬉しそうに話していた患者さんの顔を思い出します。「わったー病院」という誇りに満ちた顔でした。

社会保障を守る闘いでも署名活動や決起集会に多くの組合員が参加しました。1983 年 11 月に開催した「医療保険大改悪反対　医療生協決起集会」には全県各地から 1500 名の組合員が参加、労働組合は協同病院から与儀公園までデモ行進で参加しました。

祖国復帰 50 年、沖縄医療生協創設から 50 年経った今、社会保障制度はますます改悪され格差が拡大し、米軍基地は機能が強化され、基地に由来する事件や事故、環境破壊はひどくなるばかりです。

9万8千人の組合員と職員の協同の取り組み、たたかいがますます求められています。長期計画も組合員に依拠して取り組めば大きく前進していくと思います。

沖縄医療生協創立50周年
更なる前進に期待

長嶺支部
賀数　藤子

沖縄医療生協創立 50 周年をむかえ、皆さんと共に心よりお祝い申し上げます。

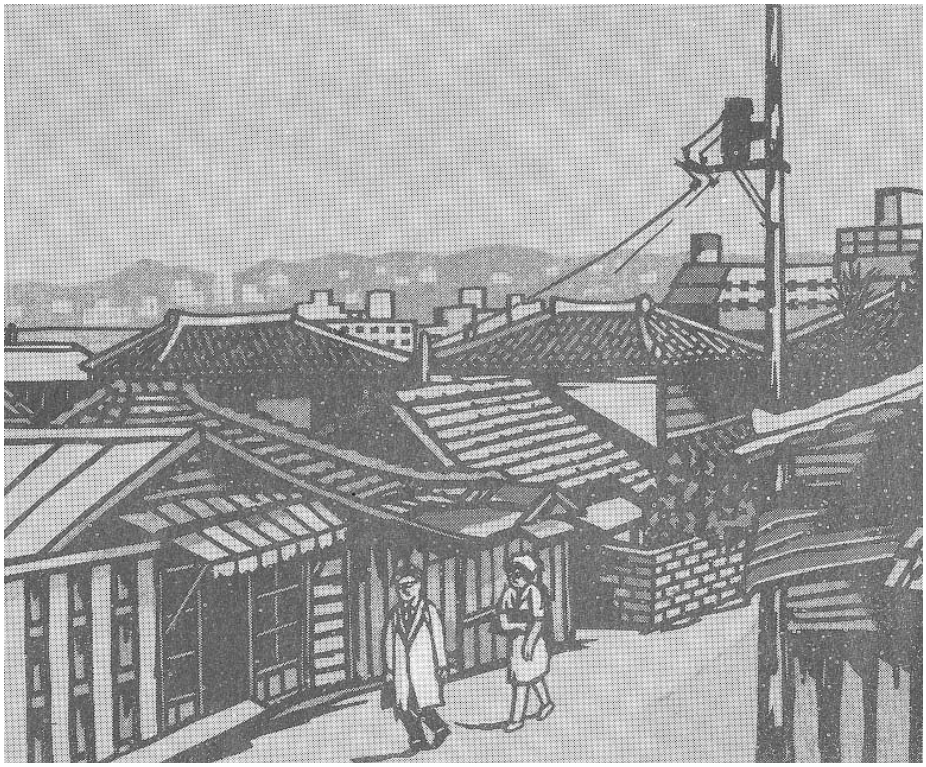
私も創立時から 50 年関われたことをとても嬉しく、誇りに思います。

沖縄民主診療所が開所したのは、1970 年 12 月 14 日でした。全国の仲間の支援を受け、松尾の木造 2 階建ての古びた建物を職員自らがペンキを塗り、開所お知らせのチラシを地域に配り、9 人の職員でスタートし診療をはじめました。

当時は米軍の占領支配下にあり、沖縄の医療状況は大変劣悪でした。長い間の社会保障制度の貧困の中で、病院にかかりたくてもかかれない人々が多くを占めていました。沖縄民主診療所の開所は、待ちこがれた人たちに希望を与えました。当時はドルで、初診料 50 セント、再診料 25 セントでした。お金がなくて治療費が払えない患者さんは滞納し、中断するので、事務長と一緒に市役所で生活保護の手続きをして、治療を継続する事例も多くありました。往診と老人診療も取り組まれ、地域に出かけての健診等で、民診の活動が広がり患者さんも増えていきました。1972 年 5 月 15 日、施政権返還で日本復帰が実現し、10 月 1 日には沖縄医療生協が創立されました。ドルから円に切り換えられ、友の会費も 2 ドルから千円になりました。診療所の医療活動も知れ渡り、人から人へと良い評価が得られ、組合員もどんどん増えていきました。そんな中で診療所では限界があり、「入院ベッドがほしい」「わったあ病院を作ろう」の声はますます多くなり、病院化に向けての取組みが始まります。預金をおろして出資金にまわすなど、組合員の全県的な動きも活発になりました。多くの皆さんの協力のもと、1976 年 3 月 22 日沖縄協同病院が真玉橋に開院しました。あれから 50 年、沖縄医療生協は理念を大切に、地域に根差し、組合員と共に成長し、大きな発展をしてきました。組合員の生協に対する思い、情熱は地域の中でひしひしと感じます。ひとりひとりの組合員を大切に、更に輪を広げ地域組合員、職員組合員が連携して、共に学び医療福祉生協のありたい姿を追求し、地域の中で、医療生協があって良かったと言えるように、知恵と力を出して、今後の活動を取り組み、更に前進することを期待します。

50年のあゆみ

前史～沖縄民主診療所
開設まで



第２次世界大戦・沖縄戦の悲劇

日本は 1941 年 12 月 8 日に真珠湾を奇襲攻撃した後、米英に宣戦布告しアジア・太平洋へと戦争を拡大していきました。しかし、連合国の圧倒的な戦力下で日本軍は壊滅的な打撃を受けました。1944 年の「10.10 空襲」で那覇市の市街地 90% が焼失し、琉球王朝時代の貴重な文化遺産も多数失いました。

沖縄戦で多くの住民が戦場にかり出され、中学生（今の高校生）以上も学校単位に鉄血勤皇隊、従軍看護隊として部隊に配備されました。住民は、日本軍によって「集団自決」の強制やスパイ容疑で殺害されたりしました。

県援護課の資料によると、日本で唯一住民を巻き込んで地上戦となった沖縄戦の戦死者総数は 200,656 人となっています。県民の戦死者総数は、県人口の約 20％ 122,200 人で、沖縄戦での全戦死者数の 61% にもなっています。負傷者も多数出ており、今でも心身の後遺障害が残っています。

米軍の占領支配と県民のたたかい

敗戦（1945 年）から 1972 年 5 月の祖国復帰まで、27 年間に及ぶ米軍による沖縄の占領支配が続きました。米軍は、国際法「ハーグ陸戦条約」に反し県民の土地を「銃剣とブルドーザー」で強制接収し、広大な米軍基地を形成し、沖縄を全面占領下に置き、県民の諸権利を剥奪しました。

県民は、「統一と団結」の力で「土地を守る会」や「沖縄県祖国復帰協議会」、「教公2法阻止県民共闘会議」の結成、主席公選、立法院議員選挙、那覇市長選挙の3大選挙で革新勢力の勝利など、県民のたたかいで大きく前進していきました。県民の不屈のたたかいで 1972 年 5 月 15 日に祖国復帰を勝ち得ました。しかし、基地機能は一層強化され、事件や事故、環境破壊など基地被害は後を絶たない状況です。

米軍占領下での沖縄の医療状況

戦時中の負傷者に加えて、戦後も不発弾での犠牲者の続発、栄養失調、結核、赤痢、マラリアなど伝染病や風土病などで連日死亡者が出る状況でした。医師や看護婦は沖縄戦で軍医、従軍看護婦として徴用され、1940 年に 163 人いた医師は、64 人に激減していました。占領下での沖縄の医療は、病院や診療所、医師の資格、家庭薬まで含めて米民政府の布令・布告によってすべて統制されていました。

1966 年 7 月に、公務員や一部労働者（県民の 40％）を対象にした本人 7 割給付、家族 5 割給付の医療保険制度が実施されましたが、医療費償還制度で現金がなければ診てもらえない状況でした。給付申請も煩雑で、多くの人々が受給権を放棄し、復帰時点で約 85 億円の黒字となっていました。農漁民や自営業者が医療保険の適用を受けたのは祖国復帰した 1972 年からでした。

米軍占領下での劣悪な生活環境と医療状況の中で、誰でも安心して診てもらえる医療は、県民の切実な願いでした。

激増する労働災害
那覇軍港
かえりみられぬ社会保障
生命無視して労働強化
コレラ 沖縄に侵入
植民地支配が生んだ疫病の
患者が二万四千人も
入院 四十六
いに死亡者も
者二人も出る
高熱出したが手当せず放置
月二百人が負傷

全日本民医連の指導と援助で
沖縄民主診療所建設

劣悪な医療状況下で、1960 年から民診建設の検討がされています。しかし、医師の確保が厳しく長い間宙に浮いた状況でした。

1965 年 1 月「民主診療所建設委員会」を立ち上げ、全日本民医連と連絡を取り、指導を受けながら検討を進めました。

全日本民医連理事会の呼びかけで、1968 年 5 月に沖縄出身の医師、看護婦を中心に愛知県で「民主医療研究会」を結成し、同年 6 月に開催された民医連第 16 回総会で「空白県への民診建設が特に重要な意義を持っている」とし沖縄での民診建設を強調しました。1969 年 6 月に開催された第 17 回総会では、「1970 年に向かって祖国復帰闘争が激しく闘われている沖縄への民診建設は特に重要」と強調し、医療スタッフ確保に全力をあげています。1969 年 10 月に東京で「沖縄民診建設協力者会議」を開催し所長人選や看護婦、薬剤師の人選の検討と、沖縄出身医療関係者で「沖縄民診協力者会」を結成し、民診建設のとりくみを強化していきました。

全日本民医連は、1970 年 1 月から 2 月にかけて、沖縄に派遣する医師に島袋博美、看護婦に照屋（賀数）藤子、島袋時子氏らを決定しました。更に山里将進、石原昌清、仲西常雄医師らを島袋医師の補佐として 1 年交代で派遣すること、4 月に友寄（川平）節子薬剤師の派遣も決定しました。

1970 年 3 月に「沖縄民診建設発起人会（代表：真喜屋武氏　他 17 人）」を発足し、「沖縄民主診療所設立趣意書」を作成して県民に支援と協力を訴えました。5 月の発起人会で、民診を那覇市泊（160 坪）に建設することを決定しました。法人形態は社団法人とすることも確認されました。

全日本民医連は、沖縄への民診建設を成功させるために高橋実会長名で「沖縄民診建設カンパについての要請」文を各県連会長と各院所長宛に発送し、全国からの支援を呼びかけています。

沖縄民主診療所の開設

当初予定していた泊では民診建設の準備が間に合わず、那覇市松尾在の旧波平産婦人科で開設することになりました。全日本民医連からの派遣スタッフ 5 人が 1970 年 10 月から次々と沖縄入りし、現地採用の當真嗣隆検査技師、島袋（真境名）政子看護婦、小松（仲田）兼子事務職らと一緒に診療所開設の準備を進めました。

（医師：島袋博美）

（看護師：照屋（賀数）藤子）

開設準備を進めながらも「医療懇談会」を各地で精力的にとりくみ、医療問題や民主診療所

の役割、患者の立場に立った医療活動など積極的に訴えました。懇談会は150回開催し、約2,000人が参加しています。懇談会に参加した人たちは、これまでの医療機関との対応の違い「患者の立場に立った親切で良い医療」をするための診療所建設ということに深い感銘を受けたと感想を述べています。

沖縄民主診療所は、全国からのカンパ2,101,480円、首里農協から借入1万ドル、沖縄県内からのカンパで、念願の働く者の診療所を開設することができました。

沖縄民診協力会（準備会）ニュース

No 1
1970・2・1

事務局
東京都豊島区
西池袋1−10−2
民医連内

昨年末、沖縄民診協力会準備会がひらかれ、沖縄県出身者を中心に、協力会への参加をよびかけています。
現地、沖縄でも、事務長予定候補者がきまり、建設世話人会の結成をめざして、とりくみがすすみつつあり、本土でのとりくみのテンポもいっそう早める必要がうまれています。
そこで、愛知でのとりくみをおしらせして、各県での活動の参考にして頂きたいと思います。

愛知（名古屋）における協力会準備会の背景

現状・今後の方向・課題　（文責K・M）

① 愛知における準備会の背景・現状

昨年5月の段階で沖縄現地側（瀬長氏）から民医連中央への沖縄民主診療所（病院）設立に関する要請を事務局の峠氏を経て愛知での沖縄関係の卒後の医師に伝わり、その人を含めて43・44の医師各1人と保健婦の計4人で最初に話し合うことになった。その時点での話しは、沖縄出身の医師、あるいは医療従事者として各個人どう受け止めるかという形で始ったが、各人必ずしも民医連そのものをよく理解、あるいはその実践活動に全面的に参加しているものでもないため階級性の問題や、住民運動の問題など論じ、医療独自の運動としてとらえる必要があるなどとの議論をし、沖縄に民医連を作るには本土の民医連の綱領を現地でどう生かしてゆくかなどや、状況の違う沖縄で本土の民医連そっくりのものでよいかどうかなどの議論もあった。又、沖縄で働くためには、本土での経験のある人が必要ではないかなども話されたが、それらのことはどちらかというとすぐにも民診（病院）が出来て自分達がそこで即座にも働く様な形での議論の性格が強かったが、当時としては、その時点ですぐにも民診あるいは病院が設立できるとい

（全日本民医連の呼び掛け文）

沖縄民主診療所の医療活動と「友の会」結成

スタッフ９人　1971 年新年の朝陽をあびて

命の平等をかかげ、患者さんに寄り添う

沖縄民主診療所は、1970 年 12 月 14 日に医師 2 人、看護婦 2 人、保健婦 1 人、薬剤師 1 人、検査技師 1 人、事務 1 人、事務長の 9 人の職員で診療を開始しました。

当時は米軍占領下で、県民の人権、医療は無視され多くの人たちが医者にもかかれず死んでいくような状況でした。

診療所という名称は県民になじみが薄く、「本当に住民の立場に立つ医者がいるだろうか」と半信半疑でみられ、「ヤブ医者」ではないかとも言われていました。

診療所周辺に「開所お知らせ」のチラシを配り、夜は懇談会で民診の医療活動を紹介し多くの人たちと対話してきました。開所初日の患者数は 6 人、2 日目 10 人、3 日目は雨の影響もあって 0 人という状況で、12 月の 1 日平均患者数は 8 人でした。

「患者の立場に立った親切で良い医療」は、地域での「医療懇談会」や往診、訪問看護、出張老人健診、夜間診療の実施、「診療所だより」の発行や民診の宣伝ビラの地域配布、老人医療無料化を求める街頭宣伝、診療費領収書の発行などで、「ヤブ医者」とうわさしていた住民にとっては、診療所の活動は目を見張ることばかりでした。こうした活動が地域住民へ浸透し、1971 年 1 月の平均患者数は 20 人前後まで増えました。

往診、訪問看護

民主診療所の活動は人づてに広がり、往診依頼も増えてきました。当時は往診している病院がなく診療所の往診活動は口コミで広がり、那覇市内全域や豊見城、糸満まで広がりました。入院させたくても金がない、せめて一度でも往診で診てもらいたいとの要望は強く、死亡診断書を書くための往診も多くありました。ライトバンに「往診中」の立て看板をかけての往診は名物となっていました。

往診と同時に、「治しきる医療」をめざして看護部の訪問看護も始められました。訪問リハビリも試行錯誤で学習しながら、みんなで相談し進めてきました。自宅での運動などは金物屋で滑車を買い家族で取り付けたり、手すりの設置など職員も大工なみに一緒になってやりました。各事例を担当制にし、競争するかのごとく一生懸命でした。訪問リハで 2 年ぶりに歩けた患者さんや、その他の回復した症例など学会でも発表し、緻密ながらも何もない所からのとりくみが皆の自信となりました。

組合員健診、老人健診

老人健診では、那覇市での実施人数の半数の 500 人を診療所で実施しました。院所での健診や各地の公民館を借りての出張健診など、友の会や班の協力も得て広がっていきました。豊見城村からの依頼は、公民館を利用して多くの健診を実施しました。

今では自治体が住民健診などをしていますが、当時は診療所が精力的に働きかけ、健診活動は広く知られることになりました。

労災職業病のとりくみ

「職業病第 1 号出る」「業務上の疾病と認定」

と大きくマスコミでも取り上げられ、民診のとりくみが報じられました。米軍基地で働いていたHKさんは、手首、首筋、肩の激しい痛みや腫れで箸も持てない状態で、知人の紹介で民診を受診しました。「頸肩腕症候群」と診断され、1973年沖縄で初めて「労災職業病認定」を勝ち取りました。

1973年印刷労働者の鉛健診が始められました。初めてのとりくみで福岡民医連・千鳥橋病院の医師・看護婦を招き、指導を受けながら沖縄タイムス、琉球新報の印刷労働者の健診が実施され、何年も続けられました。1971年から被爆者医療相談も始めました。県内の被爆者がどういう状況にあるのか色々な情報を取り寄せながら訪問し、健康状態をチェックし診療所での相談活動に結びつけました。

医師会加盟と当直輪番制

沖縄民主診療所は、開所と同時に医師会への入会を希望していましたが、なかなか認めてもらえませんでした。

1973年に医師会への入会が認められ、救急当直が実施されるようになりました。月に1回救急当直輪番制があり、夜間外来に続き、午後7時から0時までの当番は大変な状況でした。

患者さんは、那覇市内や南部、中部からも来所し、毎回100人余の受診でした。入院を要する患者さんには、入院施設の少ない当時、市内の全病院に電話がけしてベッド探しをする状況でした。

救急を通して、多くの県民に民診が知られるようになり、患者数も増え、平均120人と廊下まで立ちつくしている状況でした。

「沖縄健康文化会」と「友の会」の結成

沖縄民主診療所の「患者の立場に立った親切で良い医療」「働く者の医療機関」としての医療の実践＝往診、訪問看護、老人健診、労災職業病、被爆者訪問等のとりくみは県民に大きな信頼を広げていきました。患者数の増加と共に、民主診療所開設当初から予定していた「とまり病院」建設の要求も日増しに強くなっていきました。

民診建設発起人会は、「民診友の会」を結成し、法人組織を「沖縄健康文化会」としました。1971年3月「友の会」の最初の班が那覇市国場に結成されました。その後次々と班が結成され、医療生協の班組織の基礎を築きました。

1971年2月の「沖縄タイムス」夕刊は、「民主診療所が開業」『働く者の病院「友の会」で金出し合う』「将来は組合組織に」という見出しで、『「民主診療所友の会」会員600人が1口2ドルの出資金を出して運営する会員組織。将来は組合組織に持っていきたいという』と紹介されています。

民主診療所が開業
那覇市松尾
「返還闘争」を協議
スタッフ九人
将来は組合組織に
患者の身になって……

沖縄医療生活協同組合の創立
第１次長期 10 カ年計画と
沖縄協同病院の建設

法人組織を生活協同組合へ

1971 年 10 月、沖縄民診建設発起人会は、民診の法人組織について「社団法人か、共同組織法人か」について検討しました。1972 年 5 月に施政権が返還され、消費生活協同組合法が適用されるので、民診建設発起人会は、1971 年 12 月に民診の法人形態を「医療生活協同組合」方式にすることを決定しました。「生協法人」にすることは、民診の医療活動、社保活動の前進で、患者さんをはじめ県民の多様な医療要求に応えていくために多くの県民を結集していくことも 1 つの目的にしていました。

医療生協設立準備会で 9 回討議を重ねた上で、1972 年 8 月 12 日に 25 人の発起人によって、第 1 回発起人会を開催し、創立総会を 10 月 1 日に開催することを決定しました。発起人会は、設立趣意書、定款及び諸規約、出資金・組合債計画、事業計画、賛同署名と懇談会をとりくむ等を確認しました。第 4 回発起人会で最終確認を行い設立総会に臨みました。発起人会は、設立総会成功をめざして、全県各地で懇談会を開催し、創立総会前日までに沖縄医療生協設立の賛同署名を 2,285 人分集めています。

沖縄医療生活協同組合創立

沖縄医療生活協同組合の創立総会は、1972 年 10 月 1 日に開南会館で 1,302 人（本人出席 208 人、委任出席 1,094 人）の参加で開催しました。総会に提案された「とまり病院の建設」や「3,000 名の組合員ふやし」等すべての議案は満場一致で採択し、理事 13 人、監事 2 人を選出し総会を成功させました。沖縄医療生協の創立は、多くの県民、団体から期待され、来賓挨拶やメッセージが多く寄せられました。

10 月 13 日に沖縄県に沖縄医療生活協同組合設立の申請を行い、11 月 29 日付で県から認可されました。当時の「沖縄タイムス」の社説に「医療生協の医療は、沖縄の医療史の中で画期的な役割を果たすだろう」と記述されています。

沖縄医療生協の創立に伴い「民診友の会」の会員は、会費 1ドルを 360 円換算（当時の為替レート 1ドル＝ 305 円）し 1 口 2ドルに 280 円を追加して、1 口 1,000 円の出資金に変更し、沖縄医療生協の組合員への移行手続きを進めました。

1972 年 11 月 3 日付で「医生協だより」第 1 号が発行され、1973 年 1 月 15 日付の「医生協だより」第 2 号で「組合員は、現在 1,350 名です」と報告されています。

長期 10 カ年計画と沖縄協同病院建設

①病院建設用地を豊見城村真玉橋に変更

不在だった専務も民診事務長兼任で名嘉功和氏に決まり、理事会は、泊の病院建設予定地の測量に入りました。しかし土地は 110 坪で、入院ベッドも 20 床までという事が判明し、医療要求に応えていくことができないということで、総合病院の建設できる土地探しを組合員に呼びかけしました。

1973 年 6 月に豊見城村真玉橋の村有地 3,300 坪の土地を 8 月の理事会で決定し、病院建設用地として借用申請しました。9 月から豊見城村各地で医療懇談会を開催し組合員ふやしと「病院建設誘致要求署名」をとりくみ、11 月 27 日に村民 1,000 人の署名を添えて村民代表が又吉一郎村長に陳情書を手渡しました。12 月 3 日正式に豊見城村から決定通知が出されました。

②長期 10 カ年計画を策定

理事会は、豊見城村との話し合いと並行して、総合病院建設の検討に入り、豊見城村の借地決定通知を受けて 1973 年 12 月に長期 10 カ年計画を発表しました。そして第 1 期工事を 1974 年に着工するとしています。1973 年 12 月 15 日付「医生協だより」4号に「沖縄医生協病院・豊見城村真玉橋へ建設」「第1次計画S 49 年着工めざす」「130 ベッド7億円で」「将来は7階、500 ベッドの総合病院へ」と大きく掲載されています。10 カ年計画が発表されると組合員や県民から大きな期待がよせられました。医療生協創立 1 周年で組合員も 2,000 人を突破しています。

1974 年 4 月 28 日第 2 回総代会で長期 10 カ年計画を決定し、第 1 期病院建設成功のために、「計画の学習と地域や職場で医療要求を取り上げて活動すること、働く者の病院建設の必要性を訴えること、班活動の強化と 5,000 人の組合員（当時の組合員数 2,700 人）、出資金ふやし、組合債集め」を呼び掛けています。

病院建設成功のために 1974 年 4 月に職員を新たに 10 人採用し、玉城勝治事務長を専任で配置、看護師 5 人、組織部 3 人、事務 1 人、また研修中の山里将進医師が帰任しました。1974 年 5 月に民医連本部から 2 人の調査団が、病院建設計画の状況把握と援助のために来県しています。

③在本土医療関係者の集い開催

本土では、沖縄県出身の医師、医学生を中心に「沖縄の民医連病院の建設を進める医師、医学生医療従事者の集い」を 3 月 2 日、3 日に京都山崎の宝寺で開催しました。

「集い」には県出身の医師 21 人、医学生、看護婦、検査技師、理学療法士、その他含めて 30 人が参加しました。名嘉功和専務と島袋博美所長が、沖縄の医療情勢と長期 10 カ年計画の説明と計画を進める上で医療従事者の確保が重要な課題だという事を訴え、深夜まで熱心に討論しました。

参加者は、長期的に活動できる「協力会」を組織して協力の輪を広げることを誓いあい、医師を始め、医療従事者の確保に大きな役割を果たしました。

沖縄協同病院の建設と
組合員の果たした役割

本土復帰したとはいえ県内の医療状況は、医師や看護婦、入院ベッドは本土の平均の半分以下という劣悪な医療状況で、沖縄協同病院建設は組合員の切実な願いでした。理事会は、

全組合員の力を結集し、1974 年に着工しようと那覇市、豊見城村、南部地域を中心に毎晩のように懇談会、活動者会議を開催しました。

復帰後物価が上昇し、建設資金も高騰しました。理事会は必死になって組合員拡大と組合債の募集を呼びかけました。1974 年 2 月に沖縄県医療福祉事業団と国の年金福祉事業団へ融資を要請しました。

理事会は、県からの融資を求める署名を組合員に提起しました。当時の民診事務長の玉城勝治氏（2 代目専務）は「沖縄県医療福祉事業団（理事長屋良県知事）の理事一人の妨害によって融資決定が難航した。それを知った組合員は融資を決定させるために短期間で 7,000 筆余の署名を集め、事業団に要請し融資を実現するために大きな力を発揮した」「このような活動は老健施設かりゆしの里の建設運動にも引き継がれ、組合員の医療・福祉への熱い思いが実を結んだ」と語っています。

建設資金としての自己資金 2 億 5 千万円の組合債の呼びかけに対しても、農協や銀行の預金を引き出して、医療生協の組合債へと積極的に応募してくれました。

1975 年 3 月に県医療福祉事業団が 4 億円の融資を決定し、待ち望んでいた沖縄協同病院の起工式が 1975 年 4 月 20 日に 900 人余の組合員の参加で盛大に行われました。起工式には、屋良朝苗知事代理の新垣副知事、平良良松那覇市長、大浜方栄県医師会長、知花英夫社大党委員長、瀬長亀次郎日本共産党県委員長など 50 人余の来賓も列席し激励の挨拶を頂きました。

大浜県医師会長は「このような地域住民総出の起工式を拝見致し、誠に感激の至りだ」とあいさつで述べています。1975 年 10 月に国の年金福祉事業団も病院建設費用 5 億円の融資を決定しました。

起工式を大きく成功させた理事会は、協同病院建設をみんなの力で成功させようと①組合員拡大と組合債のとりくみの強化、②地域や職場で班の結成と班活動の積極的とりくみを呼びかけています。病院建設成功のために那覇、豊見城を中心に南部一帯で活動者会議や懇談会、班づくり等が積極的におこなわれました。1975 年末の組合員数は 4,680 人となり、組合債は、目標 2 億 5 千万に対し 1 億 2 千 5 百万円となりました。開院に向けてこれらのとりくみの強化を呼びかけています。沖縄協同病院の開院を間近にひかえた 1976 年 3 月 3 日に 5,000 人の組合員を達成しています。

沖縄協同病院開院

沖縄協同病院開院に向けて職員の採用も進み、研修に派遣していた医師、歯科医師、看護婦、歯科技工士等も帰沖し、現地採用も含めて約 114 人の職員で 1976 年 3 月 22 日に開院を迎えることができました。

4 月 20 日に 2000 人余の組合員と屋良知事、大浜県医師会長、知念沖縄振興開発金融公庫副理事長、瀬長衆議院議員、平良那覇市長、佐藤次郎全日本民医連副会長等も列席して盛大に落成式が行われました。

「わったー病院」に大きな誇り

待ちに待った「わったー病院」沖縄協同病院の開院は、内外の注目を集め組合員にとって大きな喜びと誇りとなりました。

「くぬ病院や、わったーがぬちゃーしーしどぅつくたる病院どぅやんどー」という事も多くの組合員から聞かれました。利用者は、那覇や中南部は勿論、北部、離島等からも訪れています。

開院後の最初の組合員健診は国場班が協同病院で実施し 196 人が健診を受けました。

協同病院が豊見城村に建設されたことで、島尻地域を中心に、豊見城村、南風原村、大里村などで活動者会議を精力的に開催し、組合員も 3 カ月で 1000 人増え、1976 年 6 月 21 日に 6,000 人となりました。

沖縄協同病院の開院 1 周年記念で、1977 年 4 月 3 日に第 1 回健康まつりを豊見城高校グラウンドと体育館で開催しました。「まつり」には、全県各地から 3,500 人の組合員が参加し、19 人の組合加入と 51 人の増資で、35 万 1 千円の出資金が集まりました。組合員は 7､500 人を突破しました。

あゆみ

医療生活協同組合創立総会ひらかる

生協だより
第1号
発行所
[illegible]

生活と健康を守る トリデの建設めざし

340名が参加した創立総会

「開う医療」をめざして

真斎 [illegible]

民診を県全体に広げよう

[illegible]

民生協の設立を喜ぶ

[illegible]

沖縄協同病院の
医療活動の前進と施設拡大

初年度の医療活動

沖縄協同病院が開院した初年度の医師体制は、内科医 8 人、外科医 1 人、小児科医 1 人、歯科医 2 人の合計 12 人と山梨勤医協からの外科医 6 カ月間の応援を受けてのスタートでした。

外来診療は、午前、午後の診療の他、夜間診療を 18 時から 20 時までやっていました。夜間診療後も、24 時間救急患者の受け入れを実施し、気管支喘息重積発作、急性腹症などの患者を受け入れていました。

病棟は北病棟が内科、南病棟が外科と小児科、病床数は 139 床、職員数は開院時 114 人、年度末 130 人でした。外来患者数は開院 150 日目の 8 月 18 日には、1日 200 人を超えました。入院患者数も 100 人を超えました。

在宅患者の往診と、まだ制度化されていない訪問看護も開始しました。医師の体制が厳しく、往診単位を確保するのが困難で、やむを得ず日曜日の午前中に往診するようになっていました。

日曜日毎に地域に出張しての組合員健診も実施し、地域のあらゆる医療要求に積極的に応えるという意気込みがあふれていました。

医療活動展開の特徴

沖縄協同病院のその後の医療活動展開の特徴は、県民の医療要求に積極的に応えることを基本に据えた間口の広い総合的な医療活動でした。①組合員の健康管理に寄与すべく、一

次予防として班会での生活習慣改善啓蒙活動、②２次予防としての年１回の組合員健診の実施、③慢性疾患活動、④夜間診療・夜間透析、⑤在宅患者の往診や訪問看護活動、⑥救急医療、⑦高齢者医療、⑧リハビリテーションなど総合的な医療活動を実践してきました。それを進める為の医療機器や医療技術の積極的な導入を長期計画に基づき行いました。

患者の立場に立つ良い医療の実践

在宅患者の往診や訪問看護活動は民主診療所時代から先駆的に実践し、訪問看護の制度化(1988年)を実現しました。県内では初めての、夜間透析を1978年4月から実施し、透析患者が社会復帰したいという願いに応えてきました。高血圧や糖尿病など働き盛りの慢性疾患患者の要求に応える午後8時までの夜間診療も沖縄では先駆的な実践でした。高血圧・糖尿病など慢性疾患の管理数は4000件を超えています。

歯科医療の実践

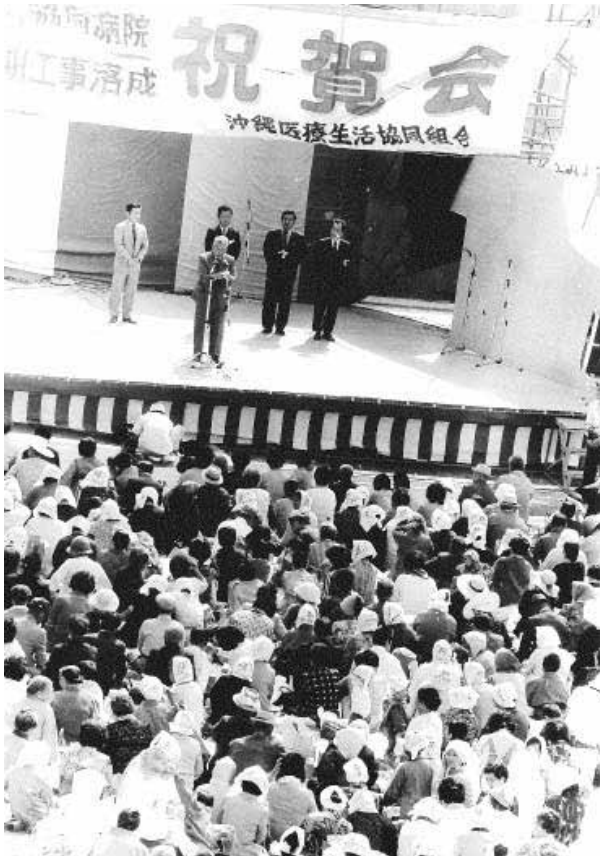
「保険で良い入れ歯を」の願いに応え

協同病院開院時、沖縄の歯科医師数は人口比で全国平均の2分の1以下でした。保険でよい入れ歯をという県民の要求に応え、殺到する患者への対応に苦慮することになりました。早朝6時から、新患受付に並ぶのを解消すべく、抽選による対応や、はがきによる申し込み制度など、さまざまな工夫が必要でした。夏休みには、子どもたちを対象にした特別な体制をしいたり、「歯の健康まつり」には多くの親子づれが参加し大盛況になりました。

第2期増築による診療科の拡大と医療内容の充実

1980年3月第2期工事が完了し、8階建ての病院に変身しました。しかし、1979年6月の南部徳州会病院、1980年3月豊見城中央病院、5月那覇市立病院の開院という大型病院新築ラッシュと重なり、看護婦確保が困難を極めました。365床オープンまで5年を要することになり、莫大な累積赤字をつくることになりました。前原秀子総婦長を先頭に看護婦確保に奔走し、県に看護婦養成の要請活動を民間病院婦長会を組織して行い、情勢を打開しました。

1980年3月から183床となり、5月には5階病棟にICUを併設し、9月には産婦人科を開設、11月に全身用CTを導入し診断能力が飛躍的に向上しました。



1981年4月に201床となり、5月に心臓血管外科・眼科・皮膚科を開設、7月救急告示指定病院、9月には1日平均外来患者数が500人を超えました。1981年度の那覇夜間救急センターからの2次患者の入院受け入れ数が全体の23.4%を占め、県立那覇病院を上回って第1位になり、那覇・南部地域の地域医療確保になくてはならない存在になりました。1982年6月には、246床となりました。

1983年1月シネアンギオ装置が導入され、4月には沖縄で初の急性心筋梗塞の血栓溶解治療（PTCR）に成功し、6月には心臓血管拡張術(PTCA)にも成功しました。1984年1月には、臨床病理科が開設され診断能力に厚みが増しました。1984年4月神経内科、7月脳神経外科が開設されました。1985年9月に病棟改修を終え365床フルオープンになり、累積赤字解消の目途が立ちました。1986年9月整形外科が

開設され、医療の質・量ともに充実し、4 億 7 千万円の累積赤字を克服し、中部協同病院開設の展望を切り開きました。

診療科の拡大と医療内容の充実のために、専門研修に積極的に医師を派遣し、基本的には計画的に自前で専門医師を養成してきたことが特徴です。

電子カルテの開発と普及

1976 年開院以来、待ち時間対策が大きな課題でした。その対策として 1994 年 11 月に導入されたのが、オーダリングシステムでした。受付・診察・薬局・検査・会計の院内の連携が迅速になりました。実践の中で、伊良波肇医師から紙カルテをやめて、診療記録もすべて電子化してはどうかという提案が出されました。

1999 年の第 32 回定期総代会で決定された第 3 次長期計画で「情報のネットワークづくりと診療支援で独自の電子カルテの開発をめざす」としています。1999 年 9 月には沖縄協同病院独自に開発した外来電子カルテが導入されオーダリングシステムと連結されました。外来での医師の指示は、オーダリングシステムで行われ、患者さんの待ち時間の短縮、業務の合理化が図られました。

2003 年 3 月には画像システムの導入がなされ、レントゲン写真の画像が診察室や病棟の端末から直接見ることが可能になりレントゲンフィルムなしの状況になりました。

2006 年夏をめざし独自に開発したオーダリングシステムと電子カルテを一緒にした統合型電子カルテの開発を進め、2007 年夏に完成させることができました。外来においては完全にペーパーレスになりましたが、病棟での運用は医師の記録に限られていました。これらの未開発の部門を解消し完全ペーパーレスの電子カルテを目指して新病院建設と合わせ統合版電子カルテの一段のバージョンアップの開発がすすめられ、2009 年 6 月の病院開院に間に合わせることができました。

現在では外来・病棟をはじめすべての検査においてもペーパーレスの電子化がなされています。2005 年 6 月からは株式会社メディコープおきなわとの業務委託により沖縄協同病院を中心に開発された電子カルテが全国 60 の病院に普及されています。

沖縄民医連のセンター病院としての機能と役割

後継者養成として、1978 年から新卒医師の初期研修の受け入れを実施し、自前での医師養成にとりくんでいます。2000 年からは厚生省指定の臨床研修指定病院として、多くの初期研修医を受け入れています。1982 年から新人看護研修制度をスタートさせ、患者の立場に立った臨床看護師の養成に努力しています。開院以来、毎年夏に医系学生を対象にした「夏期講座」や病院実習を受け入れてきました。医学生の病院研修、高校生の医師・看護1日体験の受け入れなど積極的にとりくんでいます。

1989 年から離島医療支援のため、ヘリコプターによる急患移送に協力病院として登録され医師のヘリ添乗に協力しています。1994 年から那覇市医師会立看護専門学校の臨床実習病院として看護師養成に協力し、地域医療発展のために大きな役割を果たしています。

1996 年に医療事故の予防・再発防止対策ならびに発生時の適切な対応など、医療安全体制を確立し、適切かつ安全な質の高い医療サービスを提供するため、医療安全整備委員会の活動開始。2002 年に医療安全管理委員会とし、2009 年急性期病院へ移行とともに医療安全管理部門が立ち上がり、医療安全管理責任者が配置されました。

臨調行革、医療法改悪と
病院の機能別再編へのたたかいと対応

1983 年からの社会保障制度の連続改悪、医療法改悪、医療機関の機能別再編が強引に推し進められる中で、患者の医療を受ける権利を守るたたかいがとりくまれました。

1986 年「国民医療を守る沖縄県連絡会」を結成し、仲西常雄沖縄協同病院院長が会長に、県医労協から事務局長を出し、医療法改悪など「中間報告」反対 1000 万人署名をとりくみました。

このとりくみが、後に「沖縄県社会保障推進協議会」に発展しました。

1992 年 4 月の診療報酬改定では、慢性疾患指導料を廃止することで病院の機能別再編を強引に推進してきました。門前診療所や、医薬分業への対応など、抜本的な医療経営構造の転換が迫られました。沖縄医療生協は 1993 年公認会計士による経営診断を受け、民医連統一会計基準に基づく会計処理と、院所別独立会計・部門別独立会計のとりくみ、同時に 1997 年「経営・医療・組織活動改善大運動」を実施し、第三次長期計画の展望を切り開きました。長計の中で、沖縄協同病院のサテライト診療所建設と本館のリニューアルが大きな課題になりました。

沖縄協同病院群構想と
新沖縄協同院の新築・移転・
６億円増資運動

第３次長期計画と沖縄協同病院の施設展開方針

医療生協の第３次長計（1999 年～ 2004 年）では「医療構想の改革で 21 世紀の新たな医療」の中で協同病院の目標として「1．地域に根ざした第一線医療機関として、総合的医療活動の展開 2．民主的医療の強化、患者会活動の強化 3．高齢者医療・福祉の展開 4．医療生協・民医連のセンター病院としての機能強化 5．教育・研修病院としての機能強化、研修指定、教育病院の取得 6．技術の保持と技術建設の積極的展開 7．情報のネットワークづくりと診療支援 8．療養環境づくり 9．施設のリニューアル」の９つの目標を掲げていました。その中でも医療情勢への対応と医療活動の前進のために慢性疾患外来と透析外来の移設が急がれる課題でした。

慢性外来の移設と古くなった透析棟の建て替えのため、また、専門研修から帰任する先生方の外来設置のためにも土地探しが行われました。土地探しが困難の中で、病院敷地内での建て替えも検討されました。

ＪＡ経済連の土地購入と沖縄協同病院移設

2003 年２月に古波蔵のJA経済連の 3300 坪の購入と県有地 700 坪の借り入れができ、合わせて 4000 坪の土地の確保ができました。そのことを機会にこれまでの慢性疾患外来・透析移転より病院を移転させるべきではないかとの意見が管理会や医局の中で大きくなっていきました。管理会や医局会議等で討議がなされた結果、病院移転を優先させる意見が大勢となりました。

2000 年に導入された介護保険も施設拡大が必要とされていましたので歯科医療と介護関連事業を進めるために沖縄協同病院群構想の第一次施設展開として、2005 年５月新病院敷地内に協同にじクリニックを開設しました。

沖縄協同病院群構想
～「21 世紀に羽ばたく医療生協づくり」

新病院建設は「21 世紀に羽ばたく医療生協づくり」、医療・経営構造転換をはかり、いかなる情勢の下でも盤石な経営を築くことを目標に進められました。

2000 年に国は、急性期病院と慢性期病院の機能分化と診療報酬上の差別を設け医療機関の再編を進めました。

沖縄協同病院は急性期から慢性期まで医療を行う長期の入院患者も多く、在院日数も長い状況で、急性期と慢性期が混在した医療構造でした。患者負担を減らし、経営を強化するためにも急性期病院としての構造転換が求められていました。

議論の中で外来機能や病棟機能の分離をはかり、新病院は救急外来と急性期入院患者を診る急性期病院と慢性疾患を中心に診る総合外来に分ける、現病院は透析医療と慢性リハビリを行う慢性期病院とした３施設展開にすることにしました。３つの施設はそれぞれが機能を高め、患者さんに質の高い医療と安全医療を提供するとともに医療情勢にも対応できる機能にしました。

2004 年４月の医療生協臨時総代会で新沖縄協同病院群（案）を決定し、同年６月の理事会で病院建設プロジェクト委員会を発足させ、そのもとに「医療構想委員会」、「組織活動委員会」、「経営計画委員会」、「人事・業務改善委

員会」、「IT構想委員会」の設置を決めました。そして、開院目標を2006年12月に定めました。

「基本構想」案は、沖縄協同病院の職員だけでなく中部協同病院、各診療所の職員、各支部組合員、医療生協の運動を支えてくれた団体のみなさん、定年退職した先輩職員、青年職員など、多くの職員、医療生協組合員の中での討議を重ねました。また、日本生協連医療部会や全日本民医連の九州・沖縄地協での討議等もなされました。

理事会は、「医療・経営構造の転換をはかる21世紀に羽ばたく医療生協　・3施設展開の成功　・すべての院所での黒字化をめざす6億円増資と1万人の組合員の確保」を決定し実践しました。

3施設展開から2施設展開へ

2006年度の診療報酬改定で急性期病院の条件としての紹介率条項が緩やかになったことで総合外来の見直しが中堅医師を中心に出され、議論が行われました。

理事会は、みんなの意見を踏まえ、総合外来を急性期病院に統合して急性期病院で総合外来を行うこととし、新病院は総合外来と急性期に合体し、慢性期の病院はそのままにする2施設展開を確認して、2006年9月に臨時総代会で新沖縄協同病院の建設を決定しました。

新沖縄協同病院建設と竣工

臨時総代会の決定を受け、3施設から2施設への設計の変更を急いで行い、2007年12月には古蔵中学校体育館で500人の組合員の参加で盛大に起工式が行われました。2009年4月に竣工し、6月1日の開院を迎えることができました。

新病院は漫湖公園に接し恵まれた環境で、ゆったりとした外来空間、診察室を大幅に増やし待ち時間の短縮をめざしました。また、初診・

救急患者と慢性疾患の外来を分け、機能分化をはかりました。

病棟は漫湖の見える病室で、30%を個室にして、民医連・医療生協の方針である差額料をとらない個室としました。機能的には各病棟にリハビリ室を設け、急性期からの病棟リハビリを実現しました。各ベッドには電子カルテと共有できるテレビの配置を行い、患者の療養環境の改善と患者さんと情報を共有できる新しい電子カルテシステムを独自に開発しました。

沖縄協同病院の新築と6億円増資運動

新病院建設費用は、病院全体を移転した場合約60億円、土地代を含めると70数億円で、投資額が大きくいかに費用を削減するかが課題でした。

2005年の2月と5月の2回の医療部会の施設拡大検討会議で「投資額に比べ出資金が少ない」との指摘を受け、出資金額を病院開院までの3年間で6億円集めることが2005年の組織委員会で決定されました。

職員に対しては定期増資（基本給の3%目標）、組合員にレインボー増資よびかけました。初年度の2005年は1億3543万円、2006年度は1億6059万円、2007年度は1億6854万円、2008年度は1億7384万円となり4年かかりまし

たが目標とした6億円を集めることができました。組合員が地域で沖縄協同病院の活動の紹介と新病院建設の意義について、宣伝用のビデオなどを活用して話し合いを旺盛にもちました。単に出資金を集めるだけでなく、地域支部の結成、大きな支部の分割、班会開催の推進など組織活動改善も同時に行われました。

急性期病院としてのスタートと医療活動での大きな前進

2009年5月17日1,100人の組合員・職員の参加で盛大に落成祝賀会が古波蔵中学校体育館で行われ、6月1日に組合員、職員の期待に応えてスタートしました。

新型インフルエンザの流行と重なり最初から大忙しさの中での医療活動でした。管理部を中

心とした職員の頑張りもあり、医療活動の目標としていた救急車受け入れ年間3000件、入院患者月間600人、在院日数12日、ベッド稼働率97%をクリアーしただけでなく、2011年度は2008年度比外来患者数115.4%、入院患者数117.0%、収入では外来105.5%、入院109.1%と大幅な増加になりました。

特に外来患者が増え、外科系の手術件数も増えて収入も大幅に増えました。外来・入院とも旧病院にくらべ大変忙しくなりましたが、医療活動としては急性期医療に構造転換することができました。

新沖縄協同病院は、急性期病院として地域医療連携を強め、那覇・南部地域になくてはならない病院として、新たな前進をめざしています。

とよみ生協病院の医療活動の展開

33年経ったこれまでの沖縄協同病院は改装され透析医療、回復期病棟と慢性リハビリ、一般健診を中心とした病院に生まれ変わり、病院名も「とよみ生協病院」として再スタートしました。古くなった透析棟は、2012年度建て替えの計画が進み、透析医療の新たな前進が期待されています。

また、6階に会議室、7階にデイサービスとよみと組合員利用室、8階に医療生協本部を設置しました。

研修指定病院取得と医師養成

沖縄協同病院開設以来、医師養成は大きな課題でした。特に90年代半ばから医師研修が臨床研修指定病院を中心に行われるようになりました。1998年医師団会議で沖縄協同病院の臨床研修病院の取得を決め、準備が始まりました。当時、県立中部病院院長の宮城征四郎先生のご指導と援助もあり2000年3月に沖縄県で、民間としては初めて臨床研修指定病院の取得をしました。

2003年3月には2004年から始まる初期医師研修義務化に向けても宮城征四郎先生をセンター長として県内主要6つの民間病院を中心に初期臨床研修プロジェクト「群星」を立ち上げました。「群星」は「沖縄・日本のよき臨床医を育てる」をはじめ、7つのコンセプトで医師養成を行い、毎年全国から60数人の研修医を受け入れ育てるなど、全国的にも知れ渡る研修プロジェクトになりました。沖縄協同病院も2004年

度から毎年 8 ～ 10 人の研修医を受け入れてきました。このことが新沖縄協同病院群構想を支える大きな力になりました。

組合員の要求に根差した
施設展開

健診車「かりゆし１号」全県かけめぐる

1977 年 6 月 2 日に古波蔵の農協会館で第 5 回定期総代会を開催し、沖縄民主診療所の移転、南部地域への診療所建設、健診車購入について決定しました。

胸部と胃部が同時に撮影できる装備を持つ健診車を購入することになり、3000 万円の増資運動をとりくみました。1978 年 2 月 25 日に健診車「かりゆし 1 号」が届き、3 月 4 日から糸満を皮切りに、北部は大宜味村喜如嘉、離島の伊江島、久米島まで組合員健診でかけめぐりました。へき地や離島住民から大変喜ばれました。かりゆし 1 号は、1989 年1月までに 10 年間で延べ 2 万人の健診を行い、組合員健診や職場健診で大きく貢献しましたが、古くなり、1994 年 9 月 14 日に 2 号へ後継しました。

糸満協同診療所

南部地域への診療所決定に真っ先に立ちあがったのは糸満地域の組合員で、理事会も糸満に建設することを決定しました。

診療所建設にあたって、1977 年 8 月に班長を中心に「建設準備会」が結成され、市内全域にポスターや立て看板を張り出しました。また、土地や建物探し、懇談会や班会を精力的にこなし、組合員ふやし、増資のとりくみを強化しました。組合員の厚意により、市役所近くの 3 階建ての建物を借用することになり、1978 年 2 月から改築工事に入りました。

1978 年 5 月 1 日にみんなの期待をになって 10 人の職員で糸満協同診療所が開所しました。

診療開始に先立って 4 月 23 日に「自分たちの病院」の完成を祝うために糸満文化会館で、500 人が参加して「落成祝賀会」を開催しました。開所準備や祝賀会のとりくみ等で、組合員を 661 人増やしています。

健康を守る活動では、各字単位の組合員健診、市場での健康チェックなど、地域住民と共に診療所を支えてきました。

老朽化した診療所は、雨が降るたびに所内に水がたまり移転を余儀なくされ、1996 年 5 月の第 28 回定期総代会で移転を決定し、1998 年 4 月に糸満漁港の近くに移転しました。市場にも近くなり、利用者も大きく増えていきました。

沖縄県民主医療機関結成

沖縄民主診療所と沖縄協同病院が単独で全日本民医連に加盟していましたが、糸満協同診療所が開設されたことにより、3 院所が県連単位

で活動していくことが望ましいということで、1978年8月4日に沖縄県民主医療機関連合会を結成しました。会長に山里将進医師、事務局長に名嘉功和専務を選出しました。同年8月に開催された全日本民医連第1回評議員会で満場一致で加盟が承認されました。沖縄民医連は、沖縄医療生協と沖縄健康企画の各事業所、メディコープ沖縄の3法人が加盟し、構成員は1,400人を超える大きな組織となりました。

県内で社保活動や平和活動などの重要な役割を果たしています。全日本民医連の平和ツアーの受け入れなど、民医連の職員育成にも大きな役割を果たしています。

民主診療所の移転と城岳盆踊り
～地域住民と共に歩んで

沖縄民主診療所の建物が老朽化していることや民診一帯が那覇市の公園化計画で移転を迫られているなかで、1977年6月の第5回総代会で診療所の移転を決定しました。

移転にあたって、組合員・職員みんなの力で成功させようと、民診地域の班長・組合員、職員等で1977年12月に建設準備委員会（委員長　新城均造氏）を結成し、土地や建物探しに取りかかりました。建設準備委員会は、1978年7月26日に活動者会議を開催し、「診療圏内の1割の所帯を組合員にする、組合債1,000万円を集める、増資を訴える、各地に班をつくる、盆踊りを開催する」等を確認しました。

建設準備委員会は、班づくりを旺盛にとりくみ、移転までに22班を結成しました。また、組合員と職員、地域住民の交流を深めるために1978年8月に「盆踊りの夕べ」を城岳公園で開催し、1,000人余の組合員や地域住民が参加して盛大に開催されました。「盆踊りの夕べ」は、参加者から大変喜ばれ、自治会や各種団体なども加わり、地域の年中行事として2～3千人規模で毎年開催されています。

1978年10月に那覇市泉崎の旧新田家具店の4階建ての建物を買い取り、改修工事が急ピッチで進められました。

1970年12月に開設した沖縄民主診療所は、1979年1月5日に泉崎に移転しました。そして移転と同時に「那覇民主診療所」へ名称を変更しました。同年2月3日に那覇市民会館で組合員700人が参加して落成祝賀会を開催しました。

1987年10月に3階を改修して「那覇民診健康文化ホール」を開設しましたが、1994年10月からデイケアを開設したことによって廃室となりました。1998年9月訪問看護ステーション、1999年5月那覇市在宅介護支援センターを開設、訪問診療の実施等で、介護関係も重視してとりくみました。

古くなった診療所は、元沖縄民主診療所の近くに新築・移転の準備を進めています。

中部協同病院

中部地域にも診療所建設をという声が日増し

に強くなってきました。理事会は、1983 年度強化月間方針「医療生協の強化月間と中部の院所建設に向けての組織拡大について」で、中部地域への院所建設を早めに実現するために、中部地域で医療生協の拡大を本格的にとりくむ」として、中部地域を重視した組織拡大の目標を設定してとりくみました。

「協同病院は中部から遠い、中部には診療所でなく病院を建設してほしい」という強い要求で、理事会は、病院建設を決定しました。中部地域病院建設推進委員会を結成し、1984 年 3 月 10 日に美里農協ホールで「中部協同病院建設促進決起大会」を 250 人の組合員の参加で開催しています。

1985 年 5 月の第 16 回定期総代会で中部協同病院建設の決定と 1986 年春の着工を発表しました。4 人の職員が配置し市町村別の決起集会と懇談会を連日開催し、班づくりも急速に進みました。86 年 5 月までの 1 年間で集会が 6 市町村で 540 人、懇談会が 61 回 599 人の参加で開催されました。

1986 年 5 月 18 日に 1,500 人の組合員の参加で起工式を大きく成功させました。

建設は順調に進み、1987 年 3 月 22 日に落成祝賀会、同年 4 月 1 日に開院しました。

開院から 15 年経った後でも、中部協同病院の患者さんが、「この病院をつくるために、組合への加入や資金集めのために夜遅くまで地域廻りしたよ」と誇らしげに話しているのが聞かれました。

同年 10 月に組合員と職員、患者さんの交流、及び強化月間の成功をめざして 600 人の参加で「大観月会」を開催しました。観月会は毎年開催され、2001 年から「健康まつり」に名称を変えて実施しています。

病院や診療所建設で大きな保障となった組合債は 4 億 522 万円集まり、中部協同病院の建設が完了したことによって、1987 年 5 月 31 日の「第 18 回定期総代会」で組合債募集の終了を決定しました。

赤字構造から黒字構造への転換

中部協同病院は 1987 年の開院以来、厳しい経営状況が続きました。中協開設の翌年に中部徳洲会病院の開設、中頭病院も同年に施設拡大し、県立中部病院などの大病院に取り囲まれている状況にあります。診療報酬の改悪、厳しい法定医師数の確保など、医療情勢の変化へ

の対応で一部療養病棟への変更を余儀なくされました。しかし外来患者や新入院患者、手術件数の減少などによって経営は厳しくなる一方でした。

2003 年から大改修工事に着手し、経営改善をめざしました。診療報酬対応も進め、療養病棟

を特殊疾患療養病棟の許可を受け 2005 年度決算で開院以来 2 度目の黒字となりました。2004 年6月に改修工事が完了し、12 月に透析室の設置、更に運動療法室や健診室も設置し、中部地域組合員の健康づくりや医療要求に応えていきました。

しかし、2006 年の診療報酬改定では「療養病棟ショック」といわれるマイナス改定があり、大きな経営的打撃を受け、経営の立て直しを求められました。

中部地域における医療機関の中でどのような役割を担い、どのような医療を展開していけばいいのか、そして、目指す医療を行うために何を努力すればいいのかが大きな課題でした。

中部協同病院が急性期 3 病院に囲まれた所に位置することや、病床数・職員確保の状況などを考え、一般急性期・亜急性期医療の役割を担う方向を決定しました。

新入院患者数の増加をめざし医療連携の強化、人工透析や健診、訪問診療などの医療活動の量的・質的前進、各部署の分析に基づく職員の増減での適正配置、等の努力と亜急性期病床の導入（亜急性期 30 床、急性期 84 床）、療養（障害者）病棟の一般病棟への転換などの工夫を凝らしました。

医療活動の活発化と医療連携の強化により新入院患者が増えました。さらに、2008 年の診療報酬改定で亜急性期病床設置基準の緩和があり亜急性期病床を導入し、病棟稼働率を下げることなく平均在院日数をクリアし、病棟転換が可能となりました。

こうした努力と工夫の結果、経営は大きく改善し、病棟転換を果たした 2008 年度に再び黒字化し、2010 年度は過去最大の経常利益を出し、経営改善が進んでいます。

中部協同病院は、中部地域の組合員を始め地域住民のいのちと健康を守る沖縄医療生協・沖縄民医連の拠点病院として前進しています。

首里協同クリニック

1989 年 5 月に開催した「第 20 回定期総代会」で第 2 次長期計画が提起され、1990 年 5 月の第 21 回定期総代会での討議を経て、1991 年 3 月に「第 22 回臨時総代会」で第 2 次長期 5 カ年計画を決定しました。

理事会は、第 2 次長計の具体的検討に着手し、1992 年 5 月の「第 24 回定期総代会」で診療所を首里石嶺に建設する、健診車を買い替える（1994 年 9 月納車）、健診棟を建設する、老健施設等の高齢者施設の建設は今後 1 年かけて検討する、これらの事業を成功させるために組合債 2 億 5 千万円を募集することを決定しました。

首里支部の上江洲智春支部運営委員長は、「診療所建設促進大運動」を開始すると決意を述べています。地域での懇談会や班会で診療所建設のとりくみを進めながら、診療所建設委員会を結成し1992年10月に第1回建設委員会（14人）を首里公民館で開催し、建設委員長に上江洲智春支部長を選出しました。建設事務所に上江洲支部長、名嘉功和副理事長など6人が常駐し、多くの組合員で立看やポスター貼り、チラシ配布、アンケート活動などを実施し、組合員・地域住民の要求を取り入れた診療所建設をめざしました。

1994年7月に起工式・祝賀会を400人で開催しました。そして1995年1月8日に落成式・祝賀会を700人で開催し、9日に待ちに待った首里協同クリニックが開設しました。

浦添協同クリニック

1993年に結成された浦添支部は、結成当初から浦添に診療所を誘致したいという声が多く聞かれました。1995年4月の支部総会で「浦添市への診療所誘致決議」を採択し、同年5月17日に玉城勝治専務を訪ね、決議書を手渡しました。

玉城専務は、「地域組合員からの具体的な要求と運動が医療生協運動発展の力です」と、理事会で検討することを約束しました。同年8月に地域に設置する初めての支部事務所を浦添市宮城に設置しました。

1996年4月の支部総会で「診療所を誘致する会」を結成し、21人の役員体制を確立しました。

誘致運動は各班で積極的にとりくまれ、阪神大震災の救援活動、地位協定見直し要求、国保料引き下げ、介護保険問題など医療生協の魅力を語りながら、組合員ふやし、出資金ふやしの目標を一気にやりあげています。1997年5月25日の定期総代会で、「浦添支部の活動の前進を基礎に、組合員の要求実現と更なる運動の発展をめざし、浦添市に98年度内の開設をめざし、無床診療所の建設をめざす。」と位置づけています。1997年10月22日に起工式が行われ、1998年10月1日に浦添協同クリニックが開所しました。9月27日に浦添市長、市医師会長などの祝辞や周辺自治会長も招待し、570人の組合員の参加で、祝賀会を開催しました。

沖縄健康企画は、浦添協同クリニックの開設に合わせて、10月1日に「うらそえ虹薬局」を開設しました。

介護老人保健施設「かりゆしの里」

1992年4月の診療報酬改悪は、医療機関の

経営を一層圧迫するものとなりました。65 歳以上の高齢者が 60% 以上入院している病院は老人病院に格下げされるために、全国の多くの病院で高齢者の追い出しが始まりました。組合員からも終の棲家となれるような施設をつくって欲しいという切実な要望も出されるようになりました。

1993 年 5 月 23 日の第 25 回定期総代会（後期）で「高齢者医療の前進のために」と、老健施設建設のために「医療法人」「社会福祉法人」づくりが提起されました。「別法人」結成の検討を進めている中で、医療部会から医療生協でも「老人保健施設」の建設が可能だという情報が入り、老健施設建設の検討に入りました。

1995 年 5 月 28 日の 27 回定期総代会（後期）で建設用地の購入を決定し、同年 12 月に南風原町の 1,000 坪の土地を取得しました。

1996 年 8 月に 25 人で建設委員会を発足し、土地購入資金 2 億円の出資金集めと、老人保健施設建設の知事認可を得るために 3 万筆の署名を提起しました。

1997 年 1 月 29 日と 5 月 31 日に 21,312 筆を添えて県生活福祉部長へ「老人保健施設の建設認可要請書」を県に提出しました。

県当局は、「南部地域の老健施設は満床」だと否定的でしたが、署名や要請行動で老健施設の配置基準を見直し、1998 年 2 月に老健施設 75 床の建設を許可しました。

1998 年 10 月 15 日に「かりゆしの里」の起工式が 460 人余の組合員の参加で盛大に行われました。1999 年 5 月に完成し、5 月 30 日に 850 人余の組合員の参加で盛大に祝賀会を開催しました。1993 年 5 月の総代会で建設を決定して以来、6 年間の運動が実り 6 月 3 日に開所することができました。

元理事長の仲西常雄建設委員長は、建設経過を振り返って、「第 1 の山は、全国の医療生協の運動と実績によって生協法人にも認めさせた（1993 年 12 月）、第 2 に、建設用地の確保は、組合員の出資で確保できた、第 3 に 2 カ月で 23,000 筆の署名を集めて県知事に要請したこと」と語っています。

協同にじクリニック

2004 年 2 月 21 日に開催した第 37 回臨時総

代会で「新沖縄協同病院群建設構想（案）と第1次施設展開計画」が決定され「21世紀に羽ばたく沖縄医療生協」をみんなの力でつくりあげることを確認しました。同年5月の第38回定期総代会で第1次施設建設の予算2億5千万円が決定されました。2月に「計画」が決定されて以来「基本構想（案）」の説明会を県内12会場186人が参加して開催され、組合員の要求を反映した施設展開を進めました。

同年9月13日に協同にじクリニックの起工式が行われ、2005年2月1日に5番目の診療所で訪問診療、歯科、デイケア、デイサービス、訪問看護ステーション、ホームヘルプサービス等を備えた「協同にじクリニック・生協総合ケアセンター」が開所しました。3月27日に見学会と落成祝賀会を250人の組合員が参加して開催しました。

やんばる協同クリニック

沖縄協同病院が開設された1976年から北部の組合員は、中部を超えて沖縄協同病院を利用していました。1日でも早く北部にも「わった―病院」をつくりたいというのは、組合員の強い願いでした。

やんばるに「医療生協の診療所」建設をめざし、4つの班をつくって1999年8月14日に名護支部を結成しました。組合員数が300人弱ということもあって組合員ふやしと班づくりに力を入れました。また、辺野古への新基地建設が計画されていることに対して、「ヘリ基地反対協」に加盟して、平和を守るたたかいも医療生協の大事な課題としてとりくみました。

北部への診療所建設は、診療所建設の指標となる組合員数が伸びないことや診療報酬改悪で厳しい経営、特に診療所群の経営が厳しいなかで理事会も建設計画を立てることができませんでした。各診療所で訪問診療を強化することによって全診療所が黒字化を達成できるようになりました。

2009年6月に新沖縄協同病院が開設と診療所経営に見通しがついたことで、2010年6月第45回通常総代会で名護への診療所建設を決定し、2011年4月1日に長い間待ち続けたやんばる協同クリニックが開所しました。3月27日に500人余の組合員が参加して盛大に祝賀会を開催しました。名護市長は、来賓祝辞を述べた後も最後まで参加されていました。

クリニックは厳しい経営状況が続いていますが、訪問診療など利用者から大変感謝されています。

介護保険制度の実施と
介護事業・高齢者施設の展開

高齢化社会の進行によって介護問題は深刻な社会問題となっています。沖縄医療生協では、組合員の介護問題の要求に応えていくために、那覇民主診療所で1995年12月1日にデイケアを開設してから次々と各事業所でも開設していきました。また、在宅介護支援センターも1999

年５月那覇民主診療所に、同年９月中部協同病院に開設しました。

政府は、国民の介護要求に応えていくことを名目に、「介護保険制度」の導入を打ち出しました。国がめざす介護保険制度は、医療保障制度の改悪をすすめ「自立・互助」を柱に医療保険とは別に介護保険料の徴収と利用料の一律負担など利用者にとって大変厳しい介護保険構想です。

国の社会保障制度改悪に対して、安心できる介護保険制度を求めて署名活動やシンポジウムなど全国で大きな運動がとりくまれました。沖縄でも各支部や県社保協を中心に糸満から名護まで、医療生協の支部のある自治体でシンポジウム、学習会を開催し、署名活動や自治体交渉の大きな力にしました。

2000年４月から実施された介護保険制度に対しては、各事業所でも多くの介護事業を申請し、組合員や地域住民に応える介護事業所を展開しました。

支部活動の前進と
組合員活動

組合員活動の模索と支部づくり

「友の会」から引き継いだ医療生協の「班」は、病院建設や組合員の健康を守る活動に大きな役割を果たしました。組合員健診や老人健診等は、「班」のある地域を中心に実施されました。また、健診を通して班づくりもされました。

理事会は、自主的な班活動をめざして、1978年3月19日に第1回班長会議の開催、4月1日から第1期保健大学（6カ月で14講座）を開講しました。定員80人に対して120人が申込、抽選で選び、1カ月後に第2期保健大学を開講しました。

1994年4月13日に、健康やくらし、平和についての活動を担う「くらしの相談員」育成のために第1回社保学校（8講座）が開催されました。

1987年の第18回定期総代会で初めて支部づくりも提起され、10月に沖縄医療生協で最初となる糸満支部が結成されました。1988年3月に沖縄市支部、具志川支部、那覇支部、1989年2月に豊見城支部が結成されました。その後も各地に結成され、1996年に自主的な支部活動をめざして支部運営委員長会議を開催しましたが、不定期となりました。

1998年3月に担い手育成をめざして「第1回医療生協学校」を南部教室と中部教室で並行して開催しました。

理事会は、自主的な班・支部活動をめざして保健学校や社保学校、平和学校、生協学校、更に班長・活動者会議や支部運営委員長会議、支部運営委員・班長・総代宿泊研修会等の開催、通信教育受講の推進など、組合員の担い手づくりをとりくんできました。

保健学校修了者は、地域で尿や血圧チェックを実施し、病院での受診を勧めるなど健康を守る活動をとりくみました。社保学校や平和学校受講者は署名活動や集会参加呼びかけなどの役割を果たしました。

しかし、班活動や支部活動は組織担当者に頼りきりで自主的な活動としての前進がなかなか見られませんでした。

日本生協連医療部会の組織診断結果と沖縄医療生協のとりくみ

1999 年 8 月沖縄医療生協は日本生協連医療部会運営委員会の組織診断を受けました。これは、沖縄医療生協の組織活動の到達状況と問題点、課題を明らかにし、活動を前進させることを目的に実施されたものです。

診断の結果は、支部の規模が大きすぎて支部として機能しきれていない。医療部会の「支部づくり方針」に基づき 1000 人規模に分割すること。班が少なく、組合員の班組織率も 2.2%であまりにも低い。班会の開催数も少ない。機関誌活動は手配りが少ない。組合員の 50 ～ 60%の手配りが必要。出資金比率が 10%と低く 20%を達成し、剰余金も含めた自己資本比率 30%をめざす。

理事会の課題は、非常勤理事が少なく運営の中心が常務理事会にあると見受けられる。支部活動をささえている非常勤理事の比率をもっと高めることが必要である。その他、診療所の課題、職員教育の課題等が報告されました。

そして、第一に着手すべきこととして、支部づくりと支部の活性化。第二に支部を活性化させるためには、機関紙配布網の確立・手配り者をふやすこと。第三に理事会の強化。第四に教育。通信教育と各種学校の開催。第五に診療所は診療圏で 2000 世帯の組合員にし、機関紙の届く組合員を 3000 世帯にしていく。第六に班活動と健康チェックを継続的に行っていくことが必要だと提起し、同時に沖縄医療生協の活動の前進のために積極的に援助していくことも述べられました。

組織診断の結果を受けて、理事会、組織委員会、組織部、支部運営委員会は組織活動の改善に向けて活動をすすめてきました。

支部活動の前進をめざして生協学校の開催をはじめ、組合員活動交流集会、支部運営委員・班長・総代研修会、支部運営委員長研修会、職場班班長・総代研修会、支部が主役の保健・医療・福祉のネットワークづくり「夢マップづくり講習会」、支部財政（会計）担当者学習会、そして、班会テーマ・班活動発表会など多くのとりくみをつくりだしました。

変化をつくる転機となった「ジャンプ 2000 大阪虹のつどい」

“人が好き　まちが好き　みんなでつくろう　夢のシナリオ”をスローガンに、2000 年 6 月に大阪城ホールで開催された「ジャンプ 2000 大阪虹のつどい」は「全国の活動を交流し 21 世紀を元気に迎えよう」と医療部会が企画したもので、全国から 1 万人の組合員が参加し支部、班活動をはじめ、医療活動、社保・平和活動などについて交流しました。

沖縄から９１人が参加し全国の仲間と交流し学びました。多くの組合員が直接全国の仲間と交流するのは初めてでした。21 世紀を迎え、これからの医療生協運動の展望を切り開く「つどい」になりました。

「つどい」の状況や感想は支部や全体の報告

集会で報告され、沖縄医療生協の支部活動に大きな変化をつくりました。

支部や職場では派遣費用の財政づくりにバザーや医療部会が準備したエプロンやTシャツ・ノートなどのグッズ販売を旺盛にとりくみました。この財政活動は、その後の、九州・沖縄ブロック交流研修会へ多くの組合員参加を可能にし、支部活動を大きく前進させる契機となりました。

九州・沖縄ブロック組合員交流研修会へ 50 人規模の参加

1998 年奄美で開催した交流研修会には 10 数年ぶりに 2 人を派遣し、1999 年佐賀県唐津で開催した交流研修会には、2001 年の沖縄開催に向けて 6 人（職員 3 人、地域組合員 3 人）の参加でした。「ジャンプ 2000」の経験は、九州・沖縄ブロック組合員交流研修会のとりくみに変化をつくりだしました。これまで、医療生協の全額援助で派遣していた「研修会」は、「ジャンプ 2000」を契機に、派遣費の半額を支部の財政活動で集め、毎回 50 人規模の組合員派遣を可能にしました。

2001 年 6 月九州・沖縄ブロック組合員交流研修会が沖縄で開催され、360 人が参加しました。沖縄からは支部で財政活動をとりくみ多くの組合員が参加し九州の仲間と交流を深め、支部活動を前進させる契機となりました。沖縄医療生協は運営要員や平和ガイド、文化行事など多くの組合員が担当し「研修会」成功のため奮闘しました。

2009 年に沖縄で開催した第 32 回九州・沖縄ブロック組合員交流研修会は 400 人（沖縄から 230 人）の参加で大きく成功しました。

支部づくり・支部活動の前進と班活動

創立30周年（2002年）以降10年間で26,953人の仲間をふやし、組合員数は76,643人に到達しました。出資金は69,880万円増やし142,242万円に到達しました。班数は150班から324班となりました。「医療生協だより」の手配りふやしは6,247部から11,688部に増え、手配り者も594人から979人に増えました。医療部会の通信教育受講者数は2001年度の121人（地域組合員26人、職員95

人）から2011年度は316人（地域組合員103人、職員213人）の受講となっています。支部は新たに21支部が結成され33支部になりました。

この 10 年間、支部分割・支部づくり、支部の自主的なとりくみを中心に多くの組合員参加の社保活動や平和の活動、健康づくり、学習教育活動など、沖縄医療生協の活動に大きな変化をつくりだしました。この 10 年間で支部は約 3 倍になり、組合員参加の支部活動が前進しています。

組合員参加による民主的な支部運営をめざして、この間、日本生協連医療部会の方針を学び、部会の援助を受けながらとりくみをすすめてきました。

支部長を中心とする支部運営会議の自主的な運営、支部三役の配置、一人一役の役割分担。特に支部財政担当者の配置、全支部で多くの組合員参加の支部総会の開催など、大きく前進しました。

各支部では、ピクニックや盆踊り、健康まつり、観月会、平和のつどい、みかん狩り、グラウンド・ゴルフ大会、新春のつどいなど多面的な活動がとりくまれました。

明るいまちづくりのとりくみでは、支部のたまり場づくり（石川支部、那覇南支部、与勝支部）と食事会やふれあい活動。組合員と地域住民の要求実現をめざすとりくみでは、名護支部のヘリ基地反対協でのとりくみや「産業廃棄物最終処分場建設計画に反対するとりくみ」（読谷支部）、「救急ヘリの継続をもとめる市長と市議会議長への要請」（名護支部）、「豊見城市地域防災計画の見直しを求める陳情」（座安支部）など、地域の顔・沖縄医療生協を代表して、支部の活動をすすめてきました。

2008 年 12 月に沖縄医療生協で初めて豊見城支部を市内 6 つの小学校区に分割し、6 支部が誕生しました。約 5000 人の支部を 800 人～1000 人の支部に分割することにより、地域組合員の顔が見える支部活動に変化しました。豊見城支部の分割は沖縄医療生協の支部分割の契機になり、新たに小禄支部、浦添支部、那覇支部、真和志支部、糸満支部、具志川支部が支部分割を行い、与勝支部、大宜味支部結成などで組合員活動も前進しています。

健康をつくる
平和をつくる
明るいまちづくり

誰もが安心して
くらせる社会保障制度をめざして

社会保障制度は、80 年代から始まった「臨調行革」路線の下で連続的に改悪されてきました。「負担と給付の公平」「自立・自助」「医療費の抑制」を掲げ、社会保障費を大きく削減し国民・利用者負担を押し付けてきました。

沖縄医療生協は、創立以来「いのちは平等」を掲げ、往診や訪問看護、訪問リハビリ、夜間診療、労災職業病、被爆者相談、生活保護の相談活動などをとりくんできました。また、2010 年 10 月から「無料低額診療事業」の開始、新沖縄協同病院での個室病床での差額ベッド料を徴収しないなど、誰もがかかりやすい医療の実践をとりくんでいます。

1983 年から連続的に改悪されている国民健康保険や健康保健の改悪、老人医療有料化反対の署名活動や決起集会、自治体への要請行動をとりくみました。

2000 年介護保険制度や、2007 年スタートした後期高齢者医療制度では、各支部単位や県社保協で署名や街頭宣伝、シンポジウムの開催、自治体要請などを実施し、誰もが安心して利用できる介護保険制度の確立や、後期高齢者医療制度の廃止をめざす世論形成に大きな役割を果たしました。

国民健康保険、国保制度の改善をめざして「豊見城の国保をよくする会」を豊見城支部も参加して 2001 年 3 月に結成しました。「よくする会」は国保なんでも相談会や短期保険証の改善、県内で「国保法 44 条」の適用を初めて勝ち取りました。

名護支部は「乳幼児医療費無料化制度の国への要請」を新婦人の会と共同で市に要請し、2001 年名護市議会が全会一致で可決しました。

「乳幼児医療費の小学校就学前（6歳）まで実施すること」を求めて、県社保協（沖縄医療生協も加盟）は 2003 年 12 月に県へ要請しました。県社保協が毎年実施している自治体キャラバンには該当する支部から参加しています。

介護保険ステッカー「介護保険 110 番」を作成し介護申請や相談の宣伝活動、那覇市の「敬老パス」を求める署名（2003 年）をとりくみました。

「夢マップ」づくり講習会は、支部が主役の「保健・医療・福祉のネットワークづくり」で明るいまちづくりをめざして、桜井泰平医療部会事務局長を講師に開催（2002 年 3 月）しました。講習会を受けて、首里支部、南風原支部、知念支部、沖縄市支部、豊見城支部、糸満支部が「夢マップ」づくりをとりくみました。

軍事基地のない

平和な沖縄・日本をめざして

2度と悲惨な戦争を繰り返させない、戦争につながる一切の軍事基地の撤去は県民の切実な願いです。新基地建設反対、普天間基地の即時閉鎖、オスプレイ配備反対は沖縄県民の総意となっています。

沖縄医療生協は設立以来、米軍による県道104号線を封鎖しての実弾砲撃演習や原潜寄港への抗議行動、土地の強制収容反対、日米安保条約廃棄と地位協定の改善、平和行進や原水爆禁止世界大会への代表派遣など、県内の諸団体と共同してとりくんできました。

普天間基地の即時閉鎖・撤去と辺野古への新基地建設に反対するとりくみを県民と一緒に積極的に参加しています。2004年5月と2005年5月に2度にわたってとりくまれた普天間基地の包囲行動に参加し、沖縄国際大学への米軍大型輸送ヘリコプター墜落・炎上事故(2004年8月)で理事会は「米軍ヘリ墜落事故に抗議し、普天間基地の即時無条件全面返還を求める決議」を採択し内閣総理大臣、外務大臣、防衛大臣、県知事宛てに申し入れを行いました。2004年9月に3万人が参加して開催された宜野湾市民大会や新基地建設反対海上パレード(2005年12月)、キャンプシュワブ基地包囲行動(2007年)、5.13嘉手納基地包囲行動(2007

年)、2010年4月の普天間基地移設反対県民大会など普天間基地の即時閉鎖・撤去を求め、辺野古への新基地建設を許さないとりくみに支部を中心に多くの組合員が職員とともに参加しました。名護支部はヘリ基地反対協に参加し積極的にとりくんでいます。また、各支部でローテーションを組み、2004年11月から辺野古へ、2007年7月から東村へのヘリパット建設に反対する座り込み行動を継続してとりくんでいます。

沖縄戦の「集団自決」から軍の関与を削除修正させた2007年の歴史教科書の書き換え問題や八重山での育鵬社版「公民」教科書採択問題、首里の旧日本軍第32軍司令部濠を紹介する説明文から「住民虐殺」や「慰安婦」の文言を削除するなど次々と沖縄戦の歴史の事実を隠ぺいする策動が強まっています。2010年「国民投票法」が施行され、いつでも憲法改悪の提案が可能になるなか、改憲勢力は憲法改悪の動きを強めています。

2007年9月に開催された教科書検定意見書の撤回を求める県民大会に各支部からも参加し、総勢で11万人が参加しました。

支部での平和集会、平和の夕べ、戦跡めぐり

や夏休み親子平和バスツアーをとりくんできました。戦争体験記「あなたへの伝言～戦火をくぐりぬけた人々」の発行、沖縄市支部の「9 条の会」の活動や支部での学習活動など憲法改悪をゆるさず再び戦争をくり返さない活動をとりくんでいます。

「核兵器全面禁止のアピール署名」や原水禁世界大会への代表派遣、平和行進に各支部、事業所がとりくんでいます。2010 年に開催されたNPT（核不拡散条約）再検討会議へ代表を派遣するなど核兵器廃絶をめざしてとりくんできました。

日米両政府は沖縄県全市町村の反対決議、沖縄県民の反対を押し切って、墜落を繰り返している欠陥機MV 22 オスプレイの普天間基地への配備を 2012 年 10 月に配置されました。国民の生命財産を危険にさらし、アメリカと交渉もできない日本政府に対し、これでは「日本はアメリカの従属国だ」、「安保条約があるために拒否できないのであれば、安保条約を無くすべきだ」と怒りが広がっています。

オスプレイ配備を許さず普天間基地の即時閉鎖・撤去、日米安保条約廃棄の実現をめざすとりくみが求められています。

2013年からのあゆみ

2013 年

◇介護事業所開設

中北部に介護事業所を開設してほしいとの地域の要望に応えるため、組合員の力をお借りし、2013 年 2 月に小規模多機能型居宅介護「小規模多機能ホーム　石川にじの家」を開設しました。開設当初は1名の利用者登録で、職員 7

名体制から開始し、半年後には利用者 8 名まで増えました。2016 年 5 月には、3 周年記念文化行事を開催し、事業所利用者・地域組合員・職員・地域住民が 191 名参加しました。地域に根ざした事業所を目指し、地域での祭り出店や保育園との交流、防災訓練等に参加し、交流を深めています。今後も、うるま市の高齢者の在宅生活（通い・宿泊・訪問）を支え、住み慣れた地域での生活が継続できるように職員一同頑張っていきます。

◇沖縄にじの会設立から「かりゆしの里移管」にあたって

社会福祉法人沖縄にじの会は、無差別・平等の医療と福祉を実現するため、沖縄民医連と各法人の協力のもと 2013 年 7 月に設立されました。設立の目的は特別養護老人ホームの運営です。入院治療が完了した高齢者が在宅生活に復帰していく際に介護力不足や専門的な介護の提供が必要などの理由で在宅での生活が困難となっている場合があります。そこで利用料の減額制度が適用となる特別養護老人ホームの整備は大きな課題となっていました。沖縄県の介護事業計画に基づき整備法人の公募に参加し、

2015 年度に特別養護老人ホーム知花の里を開設し、那覇市においても特別養護老人ホームゆがふ苑を 2016 年に開設しました。

沖縄民医連の地域包括ケアの構築に向けて、医療分野は沖縄医療生協が、介護福祉分野は沖縄にじの会が推進していく方向性が確認されました。地域を支援していくため双方が役割を明確にし、車の両輪の如く事業を推進していく構図が出来上がりました。中部協同病院内で運営していた「高齢者在宅支援センター」が「地域包括支援センター中部北」として沖縄にじの会が引き継ぎました。

また、協同にじクリニックの事業転換にあわせて「デイサービスにじ」を特養ゆがふ苑内に移動しました。軽度者の住まいの提供を継続していくため「有料老人ホーム美里ハウス」を事業

移管しました。更に那覇市地域でも軽度者の住まいの提供を整備していくために 2022 年 4 月に「地域密着型複合施設わらてぃーだ」を那覇市国場に開設しています。

様々な疾患を患う高齢者を支援していくには医療と介護の連携が不可欠です。そのために沖縄民医連内の医療と介護の連携強化と介護事業の拡大を目的として介護老人保健施設かりゆしの里を 2021 年 4 月に事業移管しました。これで医療からリハビリそして施設・在宅介護までの連携構築が実現したことになります。また、在宅介護の強化として 2022 年 1 月に訪問リハビリテーションかりゆしの里を新規で開設しました。

沖縄医療生協では今後も医療の拡大が計画されています。医療と介護が横断的に提供できることと、様々な介護ニーズに対応ができる仕組みづくりに大きな前進をすることができました。今後は介護の質を高めていくことが課題です。入院期間の短縮に伴い医療ニーズの高い方の受け入れが増加傾向となっています。介護施設における一定の医療的な処置や健康管理の徹底が今後は更に求められています。その他にも認知症ケアや高齢者の人権尊重の教育など課題は山積していますが学習と議論を重ねながら前進していきます。

◇とよみ生協病院透析棟開所

現在の透析棟は計画から開所まで時間は掛かりましたが、2013 年 10 月に開所しました。1978 年に開設された旧透析室は 35 年を経過したことで老朽化や雨漏りもが多く、新透析棟の建設は患者さんおよび職員からも大きく期待されていました。透析室は開設当初からプレハブでの診療で、いつかは病院本館内へ移設するということも検討されたようですが、病院本館内ではありませんが別館という形で新透析棟が開所となりました。新透析棟は、これまでの透析ベッド 50 床より 30 床増えて 80 床でパントリーも設置されて快適な建物となっています。

2014 年

◇ブロック運営のスタート

新たな支部づくりを積極的にすすめる中で毎年複数以上の新支部が誕生し、36 支部となったことをふまえて、2014 年、自立した支部活動の推進と効率的な運営体制を図ることを目的に、

県域6つのブロック制がスタートしました。支部が中心となった参加と運営をすすめることで、ブロック内の地域や組合員を把握すること、ブロックの課題はブロック内で解決していく活動をめざしています。「支部間の意思統一がしやすくなった」「行事や交流がしやすくなった」「地域との距離が身近に感じる」などの前進面がありました。同時に多くの地域で組合員の高齢化がすすんでいることから担い手を広げていくことが課題です。

地域ブロックと組合員数	
①北部ブロック(5 支部)	3,195 人
②うるまブロック(4 支部)	6,309 人
③中部ブロック(8 支部)	19,803 人
④那覇ブロック(10 支部)	34,395 人
⑤豊見城ブロック(6 支部)	10,460 人
⑥南部ブロック (9 支部)	20,008 人

ブロック体制のない地域と組合員数	
北部地域	1,151 人
中部地域	1,718 人
南部地域	0 人
離島(久米島含む)	991 人
100 人未満市町村計	448 人

※宮古、八重山については現在、離島ブロックを検討中

2015 年

◇第 1 回沖縄医療生協子ども健康まつり

「子どもの健康こそ沖縄県長寿復活の鍵」「親子の生活習慣を見直そう」をスローガンに医療生協子ども健康まつりが始まりました。

沖縄県の平均寿命は、男女ともに順位が低下傾向にあって、深刻な状況です。特に生活習慣との関連では、車社会による運動不足、アメリカ型の食生活による脂質の摂り過ぎ、夜型社会で飲酒量の多いことなどの問題が指摘され、特に働き盛りの脳出血、糖尿病、肝硬変などが増えつつあります。

このことは当然、子どもたちの健康にも大きな影響を与えています。肥満が増え、糖尿病も心配されています。そのため地域や家庭で健康で長生きするための「生活習慣」を乳幼児期から身につけることを目標に「子ども健康まつり」を開催してきました。まつりでは子供達の体力測定をはじめ、読み聞かせ、シーサーづくり、紙飛行機などの遊び。そして食事、お口の健康、薬、こども医療相談などの催しを行いました。沖縄のヒーロー、琉神マブヤーショーも大人気でした。

第 1 回沖縄医療生協子ども健康まつり（2015 年）800 名参加で沖縄市県総合体育館、第 2 回（2016 年）1700 名沖縄県立武道館。第 3 回（2017 年）3000 名豊見城市体育館。第 4 回（2018 年）3,500 名豊見城市体育館。第 5 回（2019 年）からはコープおきなわと共催となり名称も生協子ども健康まつりに改称 3,800 名豊見城市体育館で成功裏に終えました。第 6 回も

コープおきなわと共催で開催する予定でしたがコロナの為延期のままで今日に至っています。

参加者は年々増加の一途にあり、子ども健康まつりは子ども達や若い親達のニーズにあった企画であると確信できます。そして、マスコミでも報道がなされるなど沖縄医療生協の宣伝にも大きく貢献しています。まつりに参加している皆さんとサポートしている職員、地域組合員も目を輝かせて参加していることがこの運動の核心だと感じています。

2016 年

◇まちづくり推進部の発足

2016 年 10 月、沖縄医療生協らしい地域包括ケアシステムを作り上げていくことを目的に、組織部と介護事業部を統合して「まちづくり推進部」が発足しました。国の地域医療構想のもと、病床を削減し入院患者を病院から在宅・介護の現場へ誘導してすすめられる地域包括ケアに対して、権利としての社会保障と健康の自己主権論にもとづき、「協同の力でつくる無差別・平等の地域包括ケア」を基本方針としました。組合員活動と介護保険サービスの充実を図りくらし続けられる地域づくりをめざして、医療福祉生協連の 3 つのつくろうチャレンジ（つながりマップ・居場所・支部づくり）、通所型サービス補助金事業、デイサービス事業（那覇市）、自治体と提携した地域見守り活動（那覇市、豊見城市、糸満市）、子ども食堂・子ども無料学習塾（那覇市、北谷町）、組合員主体の認知症サポーター・フレイル予防リーダー養成などに取り組んできました。活動内容は地域、利用者から喜ばれ、意欲的な地域組合員活動にもつながっています。さらに地域のニーズに応え、活動の幅を広げていくことが求められています。

同時に、あらたなチャレンジはまだ始まったばかりでもあります。厳しい介護事業経営が継続していること。組合員活動と介護活動との連携による双方の有意性や専門性を発揮すること。ボランティアや自治体、他団体との連携を含めた地域での自主的活動づくりが、今後のおもな課題となります。

2017 年

◇島しょでの支部誕生

2017 年に八重山支部、2018 年にみやこ支

部が結成されました。空白地域での支部づくりをめざす中、事業所のない離島での支部誕生は、いのちと健康を守る医療生協の組合員活動を広げていく上で励みと推進力になっています。島しょ初の支部となる八重山支部の結成総会は2017年11月19日、石垣市の大濱信泉記念館で開催されました。

島の組合員数は約200名。雇用をはじめ医療、年金、介護などの将来不安やミサイル基地配備問題を抱える中で、平和と安心を次世代につないでいこう、健康なまちづくりをすすめていこうと基本方針が確認されました。同島出身の伊泊広二沖縄協同病院副院長（当時）も参加して「全国比で高い八重山の脳出血死亡率の改善につなげよう」と、記念講演でエールを送りました。

続けて2018年3月18日に、みやこ支部の結成総会が宮古島市中央公民館研修室にて開催されました。292人の組合員で構成されます。総会では、慢性的な医療従事者不足やミサイル配備問題がある中で、医療や介護体制の充実と、安心して暮らせる宮古島をめざして支部活動をすすめていこうと基本方針が確認されました。また、沖縄協同病院小児科の尾辻健太医師より食物アレルギーをテーマに記念講演が器材を使用した実技とともに行われ、大きな関心を集めました。八重山、みやこ両支部の結成にあたって、名嘉沖縄民医連事務局長、川越コープおきなわ専務理事にもご参加いただき、激励のご挨拶がありました。

なお、島しょ支部については新たなブロック設置が検討されています。

2018年

◇沖縄協同病院外来機能、協同にじクニックへ移管

「協同にじクリニック　医科」は、2018年11月12日に、これまで沖縄協同病院にて、通院していた「内科慢性疾患外来の患者様」の定期通院先として開設しました。

当クリニックは、担当医が19名の完全予約制の診療所です。総合内科・糖尿病・循環器・消化器・呼吸器・小児（アレルギー）の診療科目とし職員には、糖尿病認定看護師、糖尿病療養指導士がおり、糖尿病予防指導や透析予防指導など、患者様の健康管理を行っております。

移管をしたことによって、患者様の特徴を捉えた看護支援が出来ていると感じる日々でありま

す。また医療相談として、医療ソーシャルワーカー（MSW）による、介護保険に関する相談や無料低額診療（無低診）の相談を行い患者様の取り巻く環境ニーズに応えた医療活動を行っています。1 日に 130 名前後の患者様が診療し年間 5000 人近くの患者様が定期通院しています。その為、かかりつけの診療所としては、受診に待ち時間を要してしまい、患者様へ負担をおかけしています。やや特殊な環境のクリニックでありますが、上原和博所長を筆頭に、毎日医療活動に励んでいます。

2019 年

◇とよみ生協病院 外国人透析患者受入れ

2019 年度より 2 年間、外国人患者・台湾透析患者の受入れ基盤整備プロジェクトが開始されました。このプロジェクトは、沖縄県の補助金を活用した取組みで、特に外国人観光客の 6 割を占める中国圏を意識したもので、沖縄医療生協としては人口比世界一である台湾の透析患者への旅行透析を支援することも目的にプロジェクトへ参加しました。しかし海外透析患者への受け入れ実績が無いことや語学対応、院内表示、コミュニケーション力が課題としてあり、海外医療機関等とのネットワークづくりと医療現場視察、院内への多言語表示整備、中国語講座を実施し、とよみ生協病院では透析患者の家族旅行中に透析治療をおこないました。

◇新中部協同病院の建設について

創立後 30 年を経た中部協同病院の今後の医療展開を考え、沖縄市内に新病院の土地の確保を目指しました。しかし、適当な土地が見つからず、現地建て替えの方針にしました。その際、①建て替え中の医療活動をどうするか、②敷地を拡張するためにどうするか、ということが課題となりました。医療活動の継続は、新築移転後の旧中頭病院を借りることで、敷地の拡張は病院裏にあった沖縄市の公園を、病院すぐ隣の当院の敷地に新公園を作ることで土地の交換を行い、解決することができました。新病院は、個室が多く院内感染対策上大いに役立ち、将来の発展のため大きく作った7階はコロナワクチン接種会場として活用しています。また、ドライブスルー外来を設置し、新型コロナ感染症に対する不安感をもっている多くの地域の皆さんの要望に応えています。

2020 年

◇とよみ生協病院敷地購入

とよみ生協病院のある土地は、豊見城市との土地賃貸借更新契約書にて 1974 年から賃貸借契約を行っていましたが、今後の新病院への建替えに伴う土地の購入について豊見城市と協議

してきました。2020 年 3 月 2 日の豊見城市議会定例会義にて沖縄医療生協への土地の売却が全会一致で可決され、豊見城市から 8,897.65 ㎡の土地の購入をおこないました。

◇新型コロナパンデミック

新型コロナウイルス感染は 2020 年 2 月から国内でひろがり、「三密」の励行や「緊急事態」・「蔓延防止」の諸策など生活様式や社会活動を大きく変えました。4 回目の接種が始まった寄稿中の今も今後が明らかではありません。第 1 波が終わる 4 月から沖縄協同病院が新型コロナウイルス感染重点医療機関として病床（最大 28 床）を確保しました。ウイルス検査機器も手に入りにくい第 2 波の 8 月に院内感染が発生し、県内外からの支援、感染症科・感染対策職員、DMAT、多くの職員の力を結集して対応を行いました。この経験をもとに、法人内事業所のみならず、県内外の医療・介護施設に対して感染制御支援の職員派遣を行うようになりました。地域の発熱初療体制が整わないなか、2020 年 8 月から中部協同病院が発熱外来を率先して開設し、多い月には 3,300 件を超える診療（2021 年 8 月）を行い地域の大きな役割を果たしました。

診療所では、第 3 波に先立つ秋から首里協同クリニック、やんばる協同クリニック、浦添協同クリニックが発熱外来を開設し、以後体制を整えながら那覇民主診療所、糸満協同診療所も対応しました。第 3 波の 2021 年 2 月からの予防接種は、病院・診療所ともに取り組みました。特に沖協、中協では特別体制をとり、各々多い月で 3,000 件、1 年で 45,000 件を超える接種を行いました。

強行されたオリンピック会期中から増加したデルタ株による第 5 波は、感染者数の急増と高い重症化率によって、発熱外来にもコロナ病床にも大きな負荷となりました。

2022 年 1 月からのオミクロン株による第 6 波は、沖縄では米軍基地内の感染が先行する形が明らかとなりました。感染スクリーニングの体制が整ってきた時期ではありましたが、強い伝染性により病院・介護事業所ともに感染が広がり、利用者・職員ともに気の抜けない苦しい時期となりました。

コロナ 2 年間の現場では、職員の感染や濃厚接触による休業が、残る職員の業務負荷を増し、業務の維持にも支障となりました。運用病床の縮小や外来、通所介護サービスの制限など経営にも大きな困難がもたらされました。

組合員活動は停止が余儀なくされ、班活動や支部の会議、健康づくりの活動の停止、さらに総代会まで縮小体制で開催する事態となりました。一方で理事会や支部へのタブレット端末の配布や Web 会議の開催、SNS での情報発信、

地域ラジオでの医生協活動の紹介、健康づくり体操の動画配信など新しい取り組みもスタートしました。フードパントリーの取り組みなどコロナ禍に苦しむ地域の人々とのつながりを作る活動も行いました。

また、2020 年度は医療生協を支える出資金増やしが 2 億円を超え過去最高となったり、支部からの事業所への差し入れ、事業所近隣の学校や建築現場から職員への応援メッセージが届けられたりと、私達が「頑張って」と声を掛けていただける地域の社会基盤であること、そして声をかけてくださる地域の人々がいることを改めて気づかせてくれました。

2021 年

◇第 5 次長期計画（2018 ～ 2022）

第 53 回通常総代会で決定した第 5 次長期計画は、沖縄医療生協の理念と 4 つの目標（2022 年ビジョン）をめざして「ありたい姿」を描きました。しかし、2020 年に起こった新型コロナウイルス感染症の拡大により事業計画は一時中断せざるを得ませんでした。2018 ～ 2020 年度の 3 年間の投資金額は協同にじクリニックの改修工事、新中部協同病院建設資金、とよみ生協病院の土地購入等、48.2 億円を投じました。

2021 年度は第 5 次中長期計画 4 年目の年でした。2020 年から続いている新型コロナ感染症は全世界で猛威をふるい収束には程遠い現状です。日本でも緊急事態宣言が長期にわたり、飲食店の時短や外出自粛などで地域社会へ与えた影響の大きさは測り知れません。また、病院・診療所・介護施設の患者・利用者が大幅に減少し、事業収益は予算を下回りました。このような経営状況の中、とよみ生協病院の建設計画は 2021 年 3 月に議論を再開し、2022 年 8 月に本体工事を着工しました。

2022 年 4 月から中部協同病院は地域包括ケア病床 28 床を追加し、病床運用にあたります。中部協同病院は立地条件を強みとして急性期病院と病院連携を強化しながら地域の亜急性期の中小病院として役割を発揮します。また、この増床でより中部地域の医療活動に貢献し、地域から選ばれる医療機関として整備します。一方で緊急の課題として医師、看護師などの人材確

保が必要となるため、現状の医療提供の体制に重大な影響を与えないように人材確保に取り組みます。とよみ生協病院も開院予定の 2024 年 2 月から地域包括ケア病床 52 床を追加します。南部医療圏で不足している回復期機能の受け入れを増やし、地域貢献に努めていきます。

これからの展望

情勢の変化に対応して展望ある経営をめざして

経営企画部長　外間　貞明

今日，世界を取り巻く社会情勢は，日々めまぐるしく変化しており，特に 2020 年に新型コロナウイルス感染症の世界規模の感染拡大が経済社会の変化や国民の生活の不安定化を引き起こしました。また、経営においても度重なる社会保障改悪での診療報酬引き下げをはじめとする医療制度改革の影響を受け、病院経営を取り巻く環境は厳しい状況にあります。

1）沖縄医療生協 2022 年 10 月に節目の 50 周年

沖縄が本土復帰を果たした 1972 年に創立され本年で 50 年を迎えます。この 10 年間、沖縄医療生協は 2011 ～ 2015 年の第 4 次長期計画は地域・職員組合員と共に事業活動を推進してきました。2013 年 2 月に小規模多機能ホーム石川にじの家の開設。同年 10 月にとよみ生協病院の透析棟オープン。2014 年 1 月に那覇民主診療所（有料住宅老人ホーム 40 室含む）移転。同年 10 月に糸満協同診療所（有料住宅老人ホーム 40 室含む）を開設しました。そして 2018 ～ 2022 年の第 5 次長期計画は 2018 年 11 月に協同にじクリニック改修。2019 年 12 月に新中部協同病院開院。2010 年代から現在まで沖縄医療生協の事業活動においてはスピードが飛躍的に増したことを実感できた 10 年でした。

2）事業計画（2018 年～）

協同にじクリニック改修工事（2018 年 6 月着工、2018 年 11 月完成）。沖縄協同病院の外来混雑緩和と慢性疾患医療の充実を図りました。新中部協同病院建て替え建設（2018 年 3 月着工、2019 年 12 月開院）中部地域の亜急性期医療を担う病院としての地域医療に貢献しました。亜急性期医療の強化で 2022 年 6 月より地域包括ケア病床 28 床増床により地域包括ケア病床は合計 112 床となり、県内最大のベッド数を有してポストアキュートとサブアキュートの両方に対応しています。新とよみ生協病院建て替え建設（2022 年 8 月着工、2024 年 2 月開院予定）。外来機能の拡充、糖尿病性腎症、整形外科、脳外等の開始。透析医療の強化。健診者数の拡大。入院は回復期機能を有する地域包括ケア病床を 52 床増床します。
今後は沖縄協同病院東棟増築（2026 年 4 月運用予定）を計画しています。

3）経営状況

2011 ～ 2021 年度までの経営について経常利益黒字は 8 年、赤字 2 年でした。この間、累積赤字が続き、厳しい経営状況でした。2020 年度末時点で累積赤字が△ 4.6 億円あり、純資産は 15.4 億円と出資金額を下回る額となっていましたが、2021 年度に経常利益 13.8 億円の大きな利益を確保したことにより、累積赤字から累積黒字 6.3 億円に転換しました。今後の新とよみ生協病院建設および沖縄協同病院東棟増築の大型投資を控え、利益の確保と安定した

収益構造と強固な財務基盤を築いていきます。

経営課題して介護事業所の赤字克服です。経営的に事業継続が可能であるか、事業所と理事会の認識を一致させ、早急に結論を出す必要が求められます。介護事業については沖縄民医連の社会福祉法人沖縄にじの会と連携を強化し、議論を進めます。

今後、10 年、20 年、沖縄医療生協の事業の発展を役職員と地域組合員と力をお借りしながら厳しい情勢の中でも安定した基盤、財務を構築していきます。

組合員活動の到達とこれからの展望

まちづくり推進部長　**香村　英俊**

本土復帰前、県内の医療保健をめぐる状況は、医師や看護師の数は全国比で半分以下、皆保険制度も遅れ、医療費は償還払いで家族に病人が出ると、畑や家を売却して入院費をつくる例も珍しくない状況でした。劣悪な医療情勢と人々の切実な要求を背景に 1960 年に民診建設準備会が作られ、1970 年 12 月、9 名の職員で那覇市に沖縄民主診療所が開設されました。その 2 年後、本土復帰の 1972 年 10 月 1 日「ひとりは万人のために　万人はひとりのために」の協同の理念をかかげて組合員 1,521 人で沖縄医療生活協同組合が創立されました。

わったぁ病院づくりと組織拡大

創立直後から「わったぁ病院をつくろう」の熱い要望のもと、組合員ふやし、出資金集めが旺盛に取り組まれました。そして 1976 年に沖縄協同病院（2 階建て・114 床）を開設、1980 年には 8 階建て 365 床となり、当時の民間病院で最大の病床数でした。夜間診療は人々に喜ばれ、県内初の夜間透析や労災認定、常に上位の救急車受け入れ件数など、地域医療の中軸を担うようになりました。

2021 年度末現在、3 病院（419 床）、6 診療所、11 介護事業、44 支部、組合員数 98,500 人の組織となっています。

沖縄医療生協の歴史的特徴は、創立から短期間で大病院を建設できたことです。住民の医療要求と医師確保、医療の民主化を求める運動、地域組合員活動の広がりと支えがあって実現できたと思います。

組合員活動の展開と到達

沖縄医療生協は、出資金 19 億 5,132 千万円、事業高 148 億円（2021 年度末現在）と県内有数の事業体へと成長しました。毎年目標を定めて取り組んでいる全国四課題（加入、増出資、班づくり・班会開催、担い手ふやし）は、医療生協の組織、経営基盤の土台づくりの活動です。この取り組みを職員組合員、地域組合員が協同してすすめてきたことが組織づくりと医療生協運動前進の礎となりました。

組合員活動は「支部を単位に、班を基礎に」健康づくりや明るいまちづくりをすすめています。最初の支部結成は 1987 年の糸満支部でした。1992 年度末に 5 支部となり、2002 年度末 12 支部、2012 年度末 35 支部と支部づくりがすすみました。2022 年 3 月末で支部数 44 と県内市のある自治体すべてに支部ができました。班数は 355、手配り者数 1,020 名ですが、ともに増減をくり返す状況が続いており、とくに班活動の強化が求められています。

この 10 年間の取り組みの中では 3 点の特徴点がありました。2014 年、新たな支部が増えていく中で 6 つのブロック制としたこと。2016 年 10 月、沖縄医療生協らしい地域包括ケアシステムを作り上げていくことを目的に、組織部と介護事業部を統合して「まちづくり推進部」が発足したこと。2017 年に八重山支部、2018 年にみやこ支部結成と、島しょに支部が誕生したことです。

ゆるやかな協同で未来を拓く力に

沖縄医療生協がこれからありたい姿は、平和で持続可能な「誰も取り残さない社会づくり」を、ゆるやかなつながりの中ですすめていることです。もうひとつは組合員・県民にとって頼りにできる存在であり続けることです。多様性がすすむ社会の中で医療生協活動の果たす役割も広がりつつあります。多世代参加型の組合員活動へ力を注ぎます。そのためにも組織づくりの基本である全国四課題へ引き続き旺盛に取り組み、とくに班づくり・班会活動、担い手ふやしを着実に前進させる必要があります。

また、全国の医療生協とともに「2030 年ビジョン」の中心テーマである、「誰もが健康で居心地よくくらせるまちづくりへの挑戦」に取り組みます。医療生協に関わることで健康になれること。楽しくなれること。くらしに役立つこと。このような「あってよかった、入ってよかった」実感を地域につくり出していくことが求められます。

ここまで支え成長させてきた多くの先輩組合員のあゆみを引継ぎ、私たちはこれからも「健康をつくる。平和をつくる。いのち輝く社会をつくる」日常の事業と活動に取り組みます。それが、沖縄医療生協の未来を切り拓く力になっていくと思います。今後 50 年の展望にむけてあらたな一歩をともに踏み出しましょう。

看護活動のまとめと展望

看護部長　大城　恵

沖縄医療生協の看護部は、1970 年、那覇市松尾に開設された「沖縄民主診療所（現：那覇民主診療所)」3 名の看護師から、病院・診療所・介護施設と看護師の活動の場が増え、現在、約 600 名の大所帯となりました。めまぐるしく変わる情勢の中で、日本看護協会より、看護職としてのキャリア継続の支援が推進され、この 10 年間は、離職防止、職場定着促進、看護の質の向上を目指してきました。院内保育園開設、沖縄協同病院の 2 交代制勤務導入、認定看護師養成、入職 3 年目看護師の教育システムの制度化を進めてきました。今後も、これからの 50 年に向け、さらに医療生協が発展していくためにも、人材確保、個々の質向上支援、長く働きつづけられる職場づくりを進めていきます。

看護師確保・定着

1．看護師確保対策として、沖縄県出身の県外学生の奨学生受け入れ、県内高校、看護師養成校の訪問、期中正規職員採用、職員紹介制度導入をしてきました。また、コロナ禍では、初の「オンライン高校生看護体験」を実施し、病院紹介や看護師の仕事を動画紹介しました。今後は、ホームページ等を活用した看護活動の発信、対外的な対策を強化し看護師確保（奨学生）に努めていきます。

2．入職後 3 年目の看護師離職防止として、2017 年に入職 3 年目の教育システムを制度化しました。また、2013 年から議論してきた 2 交代制勤務を、学習会を重ね、2021 年 1 月に沖縄協同病院の一部の病棟で導入しました。新卒看護師からの問い合わせや 2 交代制勤務を希望する現場の看護師の要望に応え、念願の導入でした。引き続き、職員の声を聞きながら評価していきます。

3．2013 年に院内保育園「生協にじっ子保育園」を開設しました。1976 年に開設された「しらさぎ保育園」が諸事情により 2005 年に閉園しましたので、8 年ぶりの開設です。子育てで一旦、キャリアが中断されることなく働き続けられることは、職員にとっても職場にとっても大きなメリットがあります。多職種が利用し、育児休暇明けの職場復帰の時には、「安心して仕事ができる。」と喜ばれ、職場定着にも貢献しています。特に新型コロナ感染症が蔓延したこの 2 年は、認可園の待機で困っていたお子さんを速やかに受け入れ、職場復帰を支援して地域医療を守ってきました。

質の向上

1．4 分野 4 名の認定看護師から、この 10 年間で 8 分野 16 名まで育成してきました。
（感染管理、認知症、集中ケア、慢性心不全、糖尿病、緩和ケア、皮膚排泄ケア、脳卒中）
生協だよりや FM なはラジオ放送「沖縄医療生協にじのひろば」で､医療講話をしました。
また、新型コロナ感染症蔓延時には、感染管理認定看護師を中心に行政からの要請等による法人内外のクラスター発生施設へ職員派遣し、感染対策支援を行いました。

2．認定看護管理者研修受講
部署運営の立場にある師長や今後の管理者育成の為には、マネジメント能力を学ぶことのできる不可欠な研修ですので計画的に育成していきます。
・ファーストレベル終了者　10 年間で 22 名　2000 年度から受講推進し、36 名終了
・セカンドレベル終了者　　10 年間で 2 名　　2005 年度から受講推進し、6 名終了

展望

2024 年 2 月、とよみ生協病院は 137 床（52 床増床）で新病院開院しますので、看護師確保が重点課題です。現状として、夜勤や交代制勤務、長時間勤務、子育てや家事との両立が厳しいという理由で退職していく職員がいます。辞めさせない支援も重要となります。研修ナースから大事に育ててきた人材を失わないためにも、健康で安全に専門職としてやりがいをもって働き続けられる職場環境づくりをすすめます。また、入職してきた職員は、みな「理念に共感した！」と言います。多忙な日常の医療活動のなかで、専門職としてのキャリアアップ支援はもちろん、地域組合員と協同して、どう理念を教育していくか、後継者づくりの大きな課題です。人事教育部と連携して強化していきます。

人事教育活動のまとめと今後の展望

人事教育部長　**玉城　全一郎**

沖縄医療生協は「無差別平等の医療」「患者･住民と共にたたかう医療」を合言葉に医療･介護･福祉の実践をすすめてきました。この活動を実践するための人材確保については、毎年 100 人近い職員を採用してきました。また、人材確保と合わせて重要課題が教育活動です。医療生協の職場で働く職員として必要不可欠である組織の理念・ビジョン、組合員活動への参画

は重要です。私たち組織は医療福祉生協の 2030 年ビジョン、医療生協の理念を柱に SDG s の推進と重ね合わせながら 10 年後のありたい姿を明確にし、さらに医療生協が発展するための経営、人材確保、育成を重点課題と捉え取組を進めていきます。

事業活動と医療生協を支える人材確保

人材確保として今後重視して取り組むべき課題は看護師確保です。医療現場では医師、薬剤師、看護師等の奨学生の確保や対外的な対策の強化と同時に、職員組合員、地域組合員への職員紹介の協力を呼びかけました。併せて労働環境の改善や民主的で働きやすい職場づくりをすすめました。

今後の展望として沖縄県の基準病床数整備計画において中部協同病院は既存の 3 病棟 114 床から、142 床へ増床することが出来、今後はとよみ生協病院を既存の 2 病棟 85 床から 3 病棟 137 床へ増床する計画です。

強い組織をつくるための職員養成

職員養成について沖縄医療生協に入職する職員は医療生協の理念や民医連綱領を学びながら、無差別平等の医療と介護、患者中心のチーム医療を実践していきます。職員養成の課題では専門的な分野の教育はもとより、階層別の教育活動など職員全体のスキルを高め強い組織を目指していきます。また、生協という他にはない特色を持った組織であることから、医療生協の理念に基づいた地域組合員との明るいまちづくり、健康づくり、基地のない平和で豊かな沖縄をめざした取組みへの参加など職員一人一人が地域に根ざすような人材養成を行います。職員がいきいきと働き続けられる働きやすい職場をめざし、人事交流、研修会による職員のスキルアップを図ります。職員の健康を守るうえでも、労働環境の改善や労働時間の管理、メンタルヘルスやハラスメント等の対策をすすめながら、組織の理念や方針を全職員へ伝え、共に考え実践していきます。

50歳職員からのメッセージ

沖縄協同病院
看護師
玉城　淳子

私と沖縄医療生協の出会いは、看護学生時代に友人に誘われて協同病院の看護体験に参加した時でした。職員同士和気あいあいと明るく会話をしている場面が今でも思い出されます。沖縄医療生協は、民間では県内で初めて 24 時間救急外来を行なったり、夜間透析や訪問診療など県民の健康、生活を守る先駆的な取り組みをしている事に感銘を受けました。

入職後は、色々な部署でたくさんの学びをさせていただき、今後は沖縄医療生協の更なる発展のために少しでも貢献したいと思います。

那覇民主診療所
介護福祉士
新垣　幸則

私は入職して 7 年目、現在は那覇民主診療所で介護福祉士として勤務しています。

沖縄が本土復帰の年に沖縄医療生協も誕生し、早 50 年の節目を迎えたことは、私自身も同じ歳として本当に誇りに思います。

これまで支えてきてくださった地域の方々や、多くの先輩職員の努力があったからこそ大きく発展してきたのだと痛感いたします。

現在、コロナ禍で厳しい情勢の中、生活困窮している方々やこの先不安を抱えている方が安心して生活が送れるよう、沖縄医療生協の一職員としてお手伝いできる事もまた誇りに思います。

今後も地域の皆さまに寄り添い、安心してくらせる社会をめざして頑張って行きたいと思います。

とよみ生協病院
事務
渡嘉敷　博和

沖縄医療生協での経験を経て

本土復帰 50 周年、沖縄医療生協創立 50 周年、奇しくも私の年齢の 50 歳という部分では色々考えてしまう。これまでの職員生活 24 年のことを振り返ると長くもあり短くもある。若い頃は医療生協の仕組みもよくわからずに働いていたがそのコンセプトを理解し目的目標を理解すると働きがいのある組織で 24 年の歳月はあっという間であった。健康まつりやことども健康まつり、組合員健診、班会への参加と色々な経験で組合員さんの存在の大きさを感じ今後の医療生協の役割と地域社会への貢献などを考えると夢はつきない。今後も多くの職種の知恵を集めて組合員と地域の健康に貢献する組織を作りたいと思う。

本部　まちづくり推進部
事務
大城　雅美

1972 年、沖縄が本土復帰して 50 年、沖縄医療生協も 50 周年目の節目の年となりました。無差別・平等の医療を目指し理念のもと、那覇民主診療所の開院を足がかりにし、沖縄医療生協の歴史が始まりました。

県内で初めての夜間外来診療や地域健診などに取組み、組合員を増やし、一緒になって医療活動や地域活動を行ってきました

今年は、新とよみ生協病院建設が始まります。組合員の期待もひとしおです。

今後も沖縄医療生協が地域医療に貢献できるよう、地域組合員、職員とともに頑張っていきます。

未来へのメッセージ

若手職員に10年後についてたずねました

❶10年後の理想の**医療生協**
❷10年後の理想の **私**

❶
患者さんを想い職種間で風通しがいいところ

❷
仕事を楽しみながら周りを思いやれる

沖縄協同病院・医師　久場弘子

❶
コロナ禍乗り越え手と手が取り合える医療へ

❷
認定士など自分の強みを持っててほしい

沖縄協同病院・ME　玉城真理

❶
急性～慢性期まで地域密着の一貫した医療を

❷
救急看護のスペシャリストとして頼られたい

沖縄協同病院・看護師　山田菜名

❶
職種関係なくみんなで支え合える働きやすい職場

❷
ワークライフバランスを保ち、楽しいと思える生活を送りたい

沖縄協同病院・PT　高良　錦

① 患者・職員・地域、みんなの QOL 向上！

② 沖協のがん医療に貢献！＆よき父親に！

沖縄協同病院・薬剤師　瑞慶覧長海

① 利用者が安心できる医療を提供する

② 家族と健康で笑って過ごせるように

とよみ生協病院・理学療法士　東江知代梨

① 職種の垣根がなくみんなが笑顔の職場

② なんでも聞ける人になってたらいいな

中部協同病院・歯科医師　上原新翔

① 一人ひとりの思いを共有し、チームで高めあえる組織

② 健康で楽しく、誰かの支えになれたらいいな

とよみ生協病院・看護師　中田啓斗

① 患者とその家族、職員の笑顔溢れる病院

② いつも明るく信頼出来る看護師になる

中部協同病院・看護師　渡邊桃加

① 地域住民に寄り添い、健康づくりの先頭に立つこと

② 医療生協の職員として、組合員に頼れる存在になること

那覇民主診療所・事務　照屋成加

① 他職種間でのコミュニケーションがとれ学び合う組織

② ワークバランスライフを保ち今以上に充実している

とよみ生協病院・管理栄養士　山内実優

① 患者や地域の方も含め、職種に関係なく元気にあいさつが交わされる組織

② 先輩達の様に、チャレンジを恐れず何でも吸収できる人になりたい

中部協同病院・作業療法士　田島 英

① 今よりも働きやすい職場づくりができる組織

② 健康で心豊かに毎日を過ごせるような人でいたい

糸満協同診療所・介護福祉士　西平晃

① 無差別平等の医療・介護・福祉の姿勢。SDGｓの実現

② 健康・HAPPY・生きる

浦添協同クリニック・介護福祉士　當間健作

① 安心・安全な医療・介護が受けられる環境を

② 利用者に対して、正しい知識を持って対応ができている

生協ケアセンター・介護福祉士　佐久田智美

① 人と人の繋がりを大切にする組織

② 心も身体も健康で笑って過ごせていたらいいな

やんばる協同クリニック・事務　仲間亜里沙

① 職種にとらわれず、今よりも地域に貢献でき、今よりも働きやすい環境に

② 健康で、人生をそれなりに楽しんでいる

首里協同クリニック・事務　名護貴彦

① 働きやすい環境で、利用者と笑顔で過ごせる

② 利用者にとって過ごしやすい環境を作れる人

グループホーム安謝・介護福祉士　菅原滝一

① 理想を描き向上心を持ち働き続けることのできる職場

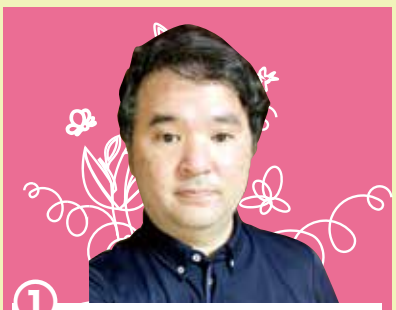
② 身体と心の健康管理ができている

本部・事務　上原ちなつ

① 老若男女問わず、たくさんの患者さんが安心して通える歯科を目指したいです

② 何事にも、進んで挑戦できるような人になりたいです

協同にじクリニック・歯科衛生士　渡久地楓



① 皆が笑顔で楽しく働きやすい職場

② 利用者にいつでも寄り添い頼られる存在になりたい

石川にじの家・介護福祉士　松島高徳

事業所紹介

あなたのまちにある医療生協事業所

★＝無料低額診療事業を実施しています

無料低額診療事業とは、「低収入で生活が困っているときに病気になり、経済的理由で医療を受けることができない」というときに、医療費の自己負担額について無料、または低額な料金で医療を受けられるようにする制度です。

那覇市

沖縄協同病院★
那覇市古波蔵 4-10-55
☎098-853-1200

入院・外来

協同にじクリニック★
那覇市古波蔵 4-10-10
☎098-855-6201

外来（内科予約）・歯科

那覇市地域包括支援センター古波蔵
那覇市古波蔵 4-5（1階）
☎098-855-6254

那覇民主診療所★
那覇市松尾 2-17-34
☎098-880-9620

通所リハビリ
有料老人ホーム
外来・訪問診療

生協グループホーム安謝
那覇市安謝 250
☎098-943-0878

グループホーム

首里協同クリニック★
那覇市首里石嶺町 1-147-3
☎098-884-4846

通所リハビリ
外来・訪問診療

名護市

やんばる協同クリニック★
名護市大北 5-3-2
☎0980-52-1001

外来
訪問診療

うるま市

小規模多機能ホーム石川にじの家
うるま市石川東山本町 1-19-18
☎098-989-9487

泊り、通い、訪問の機能が提供できます。

沖縄市

中部協同病院★
沖縄市美里 1-31-15
☎098-938-8828

通所リハビリ
訪問介護
居宅介護支援・透析
外来・歯科・訪問診療・入院

生協訪問看護ステーションなないろ
沖縄市美里 1-31-15
☎098-934-7555

中部協同病院内
訪問看護

浦添市

浦添協同クリニック★
浦添市宮城 3-1-5
☎098-870-8060

通所リハビリ
外来・訪問診療

豊見城市

とよみ生協病院★
豊見城市真玉橋 593-1
☎098-850-7955

通所リハビリ
訪問リハビリ
居宅介護支援
入院・健診
透析

生協ケアセンター
豊見城市真玉橋 593-1
訪問看護 ☎098-851-4715
訪問介護 ☎098-851-4716

那覇市リハビリふれあいデイサービス
豊見城市真玉橋 593-1
（6階）
☎098-856-2519

糸満市

糸満協同診療所★
糸満市潮崎町 2-1-10
☎098-992-3920

通所リハビリ
有料老人ホーム
外来・訪問診療

沖縄医療生活協同組合

沖縄協同病院

院長：**伊泊　広二**

開設：1976 年 3 月
許可病床数：280 床
従業員：829 名
所在地：那覇市古波蔵
4-10-55

沖縄協同病院は、2009 年 6 月に豊見城市真玉橋から移転し 13 年が経過しました。入院病床数は旧沖縄協同病院（現とよみ生協病院）365 床のうち 280 床を移し、高度急性期、一般急性期、救急医療に特化した医療活動を行っています。外来は一般、専門、24 時間 365 日救急医療を提供しています。2000 年より基幹型臨床研修指定病院として基本的診療能力を身につけることを第一の目標とし、患者を「一人の人間」として捉え、「患者の幸せ」を追求できる医師の養成を行っています。

移転後は入院患者数、救急搬送数等が大幅に増加し医療活動は大きく前進し職員数も 13 年間で約 200 名増えました。2020 年から世界的に感染拡大した新型コロナウイルス感染症に対しては重点医療機関として新型コロナ患者を受入ながら一般の救急医療を守ってきました。職員一丸となって地域に貢献した急性期病院としての役割を担ってきました。また無差別平等の医療の実践の一つとして、無料・低額診療事業を行い生活困難者への医療上、生活上の相談支援を行っています。

この間、医療活動が前進する中、救急医療の充実と安全かつ地域住民、組合員が満足できる医療を継続して提供することが以前にも増して望まれています。沖縄協同病院は増加し続ける医療介護需要を見据え、同時に研修医及び全ての職員がそれぞれの専門性を最大限に発揮できる環境を整え魅力ある病院へ発展させる必要があります。そのために手狭となった設備を改善させるため東棟建設・本館改修計画を進めていきます。

今後も「健康をつくる、平和をつくる、いのち輝く社会をつくる」理念のもと、地域の事業所や法人内事業所との連携を強化し那覇、南部地区の医療機関として急性期、救急医療の充実を目指し地域医療に貢献していきます。

とよみ生協病院

院長：**高嶺　朝広**

開設：2009 年 6 月
病床数：85 床
従業員：273 名
所在地：豊見城市字
　　真玉橋 593-1

とよみ生協病院は 2009 年 6 月 1 日に沖縄協同病院新築移転と共に開院しました。沖縄協同病院は急性期医療を担い、とよみ生協病院は回復期医療を担うとの構想の下に機能分離を行いました。とよみ生協病院は 85 床一般病棟 37 床（16 床は地域包括ケア病床)、回復期リハビリ病棟 47 床、透析外来・リハビリ外来と健康診断を担っております。

特に透析医療においては沖縄県内最大規模の透析室で 200 人以上の患者さんが治療を行っております。とよみ生協病院は築 48 年経過し老朽化が激しく耐震基準を満たさないため建て替えることとなりました。沖縄県は人口増加地域にあたり今後も医療需要が増えてくるため増床地域となり、2022 年 1 月 27 日にとよみ生協病院は沖縄県より 52 床の地域包括ケア病棟の増床が認められました。とよみ生協病院を 3 病棟 137 床の病院として新しく建て替えることになり、2024 年 2 月までに完成をめざし現在工事が進められています。新病院ではこれまで行っていなかった外来を開始し、建物だけではなく医療の質も新しくつくっていきます。組合員の皆様のこれまでの支援と職員の奮闘に心より感謝いたします。次の 50 年の基盤となる新病院を組合員の皆様と職員一同でつくっていきましょう。

中部協同病院

院長：**与儀　洋和**
開設：1987 年 4 月
病床数：142 床
従業員：292 名
所在地：沖縄市美里
1-31-15

1987 年 4 月開院の中部協同病院は、中部地域組合員から「中部地域にも診療所建設をとの声が日増しに強くなっていく中で、「中部地域にも私たち家族も安心してかかれる病院を建設してほしい」と切実な要求があり、これに応えるべく「七人の侍医師」が志高く名乗りを上げ、沖縄協同病院に次ぐ 2 つ目の病院として中部地域に開院し、今年で 35 年目を迎えています。多くの地域組合員、職員の協力と団結で中部地域の医療と介護･福祉を守り貢献してきました。これまで関わってきた方々に心より感謝申し上げます。

開院当初の病床数は 114 床、職員数は 103 人でしたが、事業活動の拡充に伴い 2019 年 12 月に手狭となった病院を建替え新病院として開院し、2022 年 4 月現在 292 人と増加しています。また、開院当初から診療報酬改定の度に施設基準の見直しなど対応を進め経営改善に努めてきました。沖縄県の医療構想・病床整備計画に沿って 2022 年 6 月 1 日付 28 床増床し、許可病床数は 142 床（一般病床 30 床、地域包括ケア病床 112 床）となりました。

この間、医療機能や施設の拡大を図り中部地域でのポジショニングを明確にしながら、県立中部病院、中頭病院、中部徳洲会病院の急性期病院や介護・福祉事業所と連携を強化し、亜急性期病院としての機能と役割を果たしています。また、2010 年には社会福祉法に基づき、沖縄県から指定を受け無料低額診療事業を開始するなど、理念・方針である無差別平等の医療と介護・福祉を実践してきました。

これからも「健康をつくる。平和をつくる。いのち輝く社会をつくる。」の理念のもと、10 年、30 年先も中部地域の医療と介護・福祉を守り抜く覚悟で、全職員一丸となり、地域組合員と共に発展させていきます。

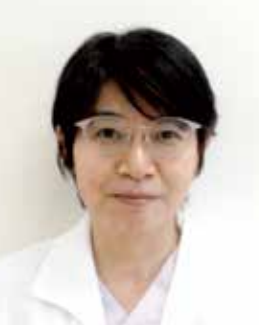
那覇民主診療所

所長：**嘉陽　信子**
開設：1970 年 12 月
従業員：37 名
所在地：那覇市松尾
2-17-34

那覇民主診療所は法人設立より遡る 1970 年米軍統治下の中で地域住民の要求により那覇市松尾に沖縄民主診療所が誕生しました。その後 1979 年には泉崎の地で医科・歯科併設診療所を経て、2014 年 1 月に設立の地である松尾の地に移転しました。現在は診療所として外来・在宅訪問診療を行うほか、定員 60 名の通所リハビリや有料老人ホーム 40 室を併設し職員 45 名で保健予防活動、医療、介護、看取りと地域住民の「いのちの営み」へ切れ目のないサービスを提供できる施設へ発展しています。

私たち事業所や法人の発展は職員の頑張りはもとより報酬制度が無い時代に訪問診療を行うなど、地域住民の命や生活に寄り添う活動があったからこそ、住民から支えられ現在の発展に繋がったのだと感じております。これからも医療・介護・併設型の有料老人ホームなどの切れ目のない医療・介護の強みを活かし地域に貢献し、沖縄医療生協の発展に寄与したいと思います。

糸満協同診療所



所長：**長谷川　千穂**
開設：1978 年 5 月
従業員：47 名
所在地：糸満市潮崎町
2-1-10

糸満協同診療所は 1978 年に開設し、今年で 44 年目を迎えました。職員は 47 名で、内科、整形外科、訪問診療、通所リハビリ、健診業務を行っています。また有料老人ホームを併設し、約 40 名の方が入居されています。外来患者数は 1 日平均 34.6 名、組合員利用率は 95.1％で地域の組合員に支えられている診療所です。

超高齢化社会は糸満地域も同様で、高齢者医療は重要な課題となっています。外来診療だけでなく様々な理由で通院が困難となった患者さんの訪問診療にも力を入れています。また、高齢者に多い、糖尿病、高血圧、脂質異常症、肥満症などの生活習慣病の治療にも糖尿病・内分泌の専門研修を行なってきた経験を活かしてスタッフと共に取り組んでいます。

食べることは、生きることに直結します。基本的な栄養指導、運動指導、薬物療法を含め、生活習慣病を上手くコントロールして合併症を防ぐ事がとても重要です。また、徐々に体力が落ちて動作が不安定になる、嚥下能力が落ちて誤嚥の危険性があるといった老年症候群に対しても外来診療や通所リハビリにて対応していきます。

慣れ親しんだ地域で、安心して生活が継続し「命と暮らしを守る」診療所になれるように、努力していきたいと考えています。

首里協同クリニック

所長：**新垣　安男**
開設：1995 年 1 月
従業員：13 名
所在地：那覇市首里石嶺町
1-147-3

当クリニックは 1995 年 1 月医療生協の 3 番目の診療所として誕生しました。1980 年沖縄協同病院の増築、1987 年の中部協同病院の開設等で医療生協の厳しい経営状況でしたがその後、経営改善が進み、医師体制も改善して、第 2 次長計で新たな診療所展開が決まりました。診療所建設は首里地域の組合活動の急速な広がりで組合員拡大（4700 名）につながりました。診療内容は内科、小児科、夜間診療に新たな分野として通所リハビリ、在宅診療など高齢者の医療・介護に積極的に取り組みました。経営的には赤字傾向が続いていましたが訪問看護の導入で黒字化へと転換しました。現在、診療所の地域は高齢化が進み患者数の減少、高齢者介護料の引き下げ等で経営的に厳しい状況にあります。そのような中で地域での高齢者医療、介護を守り安心して暮らせる地域社会を目指し、組合員さんと一緒になった新たな活動が求められます。

浦添協同クリニック

所長：**嘉数　健二**
開設：1998 年 10 月
従業員：13 名
所在地：浦添市宮城 3-1-5

浦添協同クリニックは 1998 年 10 月 1 日に開設して 24 年を迎えました。職員は 13 人で外来診療、健診、訪問診療、通所リハビリを行っています。

1992 年に開催された第 1 回浦添地区新春のつどいから当クリニック建設の動きは始まり、1997 年 5 月の第 29 回定期総代会で建設することが決定し、1998 年 10 月 1 日に開院となりました。新型コロナウイルス感染症発生後は、必要な医療提供と感染拡大防止を目的に一般外来と並行してドライブスルー方式での抗原検査、ワクチン接種を行っています。

コロナ禍が原因で生活が困窮し医療に掛かれない方が増加しています。アウトリーチ活動を強化し、当法人において 2010 年 10 月から開始された無料低額診療の案内、その後、公的制度に繋げるよう努めます。当面の課題は、訪問診療および通所リハビリ患者・利用者数が計画に届いておらず早急に改善しなければなりません。全職員の力をあわせ、地域に必要な医療・介護活動を行っていきます。

協同にじクニリック

所長：**上原　和博**
開設：2005 年 2 月
従業員：48 名
所在地：那覇市古波蔵
4-10-10

協同にじクリニックは 2005 年 2 月に開設し、2022 年で 17 年を迎えました。これまで在宅医療や在宅介護、歯科外来を主とした医療活動から、デイケアやデイサービス事業を開始するなど地域住民の要求に応える様々な医療活動を展開してきましたが、2018 年に沖縄協同病院の慢性疾患外来を移設し、現在は医科の慢性疾患外来と歯科外来を併設した事業所として医療活動をおこなっています。毎月約 5,000 人（医科約 3,000 人、歯科約 2,000 人）が当クリニックを利用しており、診療所としては規模の大きな医療活動となっています。医科は沖縄協同病院などから医師を派遣してもらい専門性に特化した指導管理を進め、歯科も治療ユニット（治療チェアー）が 10 台あり、近隣の歯科医院と比較しても患者数の多い歯科外来として地域住民や組合員の要望に応えられる様に日々努力を続けています。近年は患者の知識や意識が向上したことも相まって保険外の治療要求（インプラントやホワイトニングなど）にも応えられるように力を入れているところです。今年度は通院が厳しい在宅や施設で療養している患者への訪問歯科治療を本格的に開始します。

やんばる協同クリニック

所長：**島津　光邦**
開設：2011 年 4 月
従業員：7 名
所在地：名護市大北 5-3-2

多くの組合員さんの念願であった北部地域の事業所建設。やんばる協同クリニックは開設 11 年になります。現在の職員は、医師 1 名・看護師 3 名・事務 3 名の合計 7 名で、島津所長を先頭に医療活動や保健予防活動に務めております。

当クリニックは、外来・在宅・保健予防活動を中心に診療を行っています。外来診療では、問診や検査を通して慢性疾患を管理し、1 日平均 21 名（2021 年度実績）を診察し、訪問診療では、自宅や入居施設へ 1 日平均 7 名（2021 年度実績）を、訪問診療や往診を通して医療活動をすすめています。保健予防活動では、特定健診・長寿健診・事業所健診等の各種健診、また各種予防接種を実施しています。この名護地域では、訪問診療や往診をする医療機関が少なく、地域が在宅医療を希求していたことと私たちが行う地域医療活動が合致し、急性期医療を担う県立病院や地区医師会病院の他、今では県内外からも多くの在宅患者様を引き受け、9 ヶ所の訪問看護ステーションや介護支援専門員と連携をとり訪問診療を行っています。

これからも地域の要望に応えられるよう、全職員で日々奮闘していく所存です。

生協グループホーム安謝

所長：**又吉　毅実**
開設：2009 年 10 月
従業員：16 名
所在地：那覇市安謝 250

2009 年 10 月に住宅型有料老人ホーム、同年 11 月に通所介護、2012 年 4 月にグループホームを那覇市安謝の閑静な住宅地に開設した安謝高齢者複合施設は、2020 年 6 月 1 日に 2 ユニット 18 床の「生協グループホーム安謝」となりました。認知症の要介護高齢者が共同生活居住において、家庭的な環境と地域住民との交流の下で住み慣れた環境での生活が安心して継続できるように支援しています。また地域密着型の特性を活かし、その人らしさを求めた個別支援にも取り組んでいます。これからも地域に根差した事業所を目指していきます。

小規模多機能ホーム・石川にじの家

所長：**山内　忍**
開所：2013 年 2 月
従業員：12 名
所在地：うるま市石川
東山本町 1-19-18

石川にじの家は今年で 10 年目を迎えました。

少人数の家庭的な雰囲気が特徴で、利用者の生活スタイルに合わせて「通い・訪問・宿泊」の 3 つのサービスを組み合わせて利用することができます。開所より数年は通い・宿泊の利用者が多数でしたが、一人暮らしや高齢者世帯等の相談も増えて訪問のニーズも高まっています。

地域との関わりも重要な役割として、東山祭りでの出店や保育園、ボランティアとの交流等にも取り組んできました。介護が必要になっても「住み慣れた地域で安心して暮らしたい」の想いを大切に、「地域に根差した事業所」になれるよう頑張っていきます。

生協ケアセンター

所長：**小濱　華恵**
開設：2018 年 4 月
従業員：12 名
所在地：豊見城市字
　　真玉橋 593-1

生協ケアセンターは 2018 年 4 月 1 日に那覇市古波蔵（協同にじクニリック）より、豊見城市のとよみ生協病院別館に拠点を移しました。名称も「生協総合ケアセンター」から「生協ケアセンター」へと変更し、訪問看護ステーションにじ・訪問介護ステーションにじとして 2 事業の活動を行っています。

生協ケアセンターでは「利用者・家族がその人らしく安心して生活できるよう、多職種連携に努め支援を行う」ことを理念に、主に南部地域で生活する方を対象に、在宅生活を支えるための看護・介護サービスの提供を行っています。

1 日でもながく、自分らしく在宅での生活を継続することができるよう、多職種と連携し、専門的な視点で支援することが私たち訪問看護・訪問介護の役割だと思っています。

生協訪問看護ステーションなないろ

所長：**大城　真千子**
開設：2021 年 1 月
従業員：4 名
所在地：沖縄市美里
1-31-15　7 階

生協訪問看護ステーションなないろは、2021 年 1 月 1 日中部協同病院の 7 階に沖縄医療生協の中部地域では初の訪問看護ステーションとして開設された事業所です。

開設の目的は沖縄医療生協のめざす無差別平等の地域包括ケアの実現と在宅医療の強化でこれまで南部地域 1 か所であった訪問看護ステーションを中部地域にも設置し地域包括ケアの要とされる訪問看護を拡大し、在宅医療をさらに強化していくことです。職員は看護師 4 名と少人数の事業所ですが、沖縄医療生協の理念のもと「誰もが住み慣れた地域やご自宅で健康でその人らしくくらすことができるよう尊厳を大切に、寄り添い、支える」を理念とし日々奮闘しています。また、開設間もない事業所ですが、沖縄医療生協開設 50 周年を機にこれまで先輩たちが築きあげてこられた看護の原点に立ち返り、暮らしの場で困っている人に寄り添い、「いのちとくらしを看る看護」をめざし職員一同力を合わせ頑張っていきたいと思います。

那覇市地域包括支援センター古波蔵

所長：**上原　亜希子**
開設：2013 年 4 月
従業員：10 名
所在地：那覇市古波蔵
4 丁目 7 番 5 号
古波蔵アパート 1 F

那覇市地域包括支援センター古波蔵は、沖縄医療生活協同組合が 2013 年度に那覇市地域包括支援センターの委託を受け開設、介護予防支援事業所を併設しています。保健師、社会福祉士、主任ケアマネジャー、認知症地域支援推進員兼生活支援コーディネータ、ケアプランナー等 10 名の職員で運営しています。包括支援センターの業務内容は①介護予防ケアマネジメント　②総合相談　③権利擁護　④包括的・継続的ケアマネジメント　⑤認知症地域支援事業等で、高齢者が自分らしく住み慣れた地域で暮らし続けるための支援機関となっています。

那覇市リハビリふれあいデイサービス

理学療法士：**根間　誠**
開設：2017 年 4 月
従業員：3 名
所在地：豊見城市字真玉橋
593-1

リハビリふれあいデイサービス事業は、那覇市から委託を受けて実施する介護予防事業です。沖縄医療生協では２０１６年から２０２２年の現在まで約７年当事業を継続しています。対象の地域高齢者は、様々な身体的課題や生活課題を抱え、生活上自立はしていますが、思うように活動できない方々です。那覇市内に設けられた集いの場所で理学療法士・看護師・介護福祉士の三職種がリハビリ教室を実施し、それぞれの専門性を活かし関わることで、利用者の課題改善と自分らしい生活が送れるよう取り組んでいます。年に一回の事業報告会にて、那覇市役所職員と意見交換を交えながら今現在も事業の発展に努めています。

介護福祉士と利用者の集団体操場面

医療生協本部

人事総務部長：**照屋　智恵**
従業員：28 名
所在地：豊見城市字真玉橋
593-1 8 階

本部はとよみ生協病院 8 階に事務所を構え、専務理事を筆頭に 5 部署、職員 28 名で業務を行っています。組織全体の事業と運動を統括する役割を持ち、法務、労務、教育、経営等の管理と実務を担っています。また、生協法人として地域組合員の活動を支援し、健康づくりやまちづくりに取り組んでいます。組織方針や総代会及び理事会の決定を、事業所や地域に伝え実践に移す舵取り役です。

創立から 50 年、9 名の職員、1,521 名の組合員は、1,700 名の職員、10 万人弱の組合員へと発展しました。診療所から始まった医療活動は、3 病院、6 診療所をはじめ、介護事業所など 15 事業所を数え、急性期医療から在宅迄幅広い医療・介護サービスを提供するに至っています。

地域の医療と介護を守るため奮闘する事業所を支え、職員の生活を守り、地域組合員と共に居心地のいいまちづくりを進めることが本部職員の役割です。目まぐるしく変化する社会情勢に、柔軟に、迅速に対処できるよう、日々学習し力量向上に努めています。

わったぁ支部

■ 北部ブロック ■

運営委員長
喜屋武　宗信

伊江島支部

伊江島支部は 2004 年 3 月結成で 18 年目になり、組合員数は 224 名(2022 年 3 月末) です。

2006 年から医療生協の組合員健診が開始され、当時はまだ特定健診が始まっていないころで普段健診を受けることが少ない島の人たちに大いに喜ばれ、組合員も一気にふえました。

しかし、残念ながら健診車の廃車に伴い組合員健診がなくなってしまってからは、医療生協とのかかわりも停滞してしまいました。今後の希望としては健診車が島に来ることです。

運営委員長
豊島　晃司

なご支部

辺野古にある名護の支部として、運動にどう関わっていくかやっと論議が出来始めたと感じています。医療生協なご支部は辺野古浜テント当番の毎週月曜の 4 週を受け持ち、北支部は最終月曜日を受け持ちしています。

支部運営委員会は比較的若い方もおられバランスのとれた構成になっています。女性の比率を増やし、支部長は女性に。私の願いです。

運営委員長
東江　英明

名護北支部

名護北支部は、2015 年 4 月に名護支部が 3 支部（なご支部、屋部支部、名護北支部）に分割され発足しました。

タニュー（多野岳）を眼下に、羽地内海、辺野古大浦湾、国頭半島、本部半島や東シナ海～太平洋を一望できる、旧羽地村を中心に活動している支部です。

健康講話、ピクニックなどを取り組んでいます。活動・取り組みを担う一番の課題は、後継者づくりです。

健康講話：名護市健康増進課と共催
特定検診を受けよう　ｓｔｏｐ重症化

名護北支部運営委員

運営委員長
長山　豊守

屋部支部

名護市の人口は 63, 644 人、屋部地域は嘉津宇岳の麓に位置する集落で人口 12 , 678 人 6 , 211 世帯になっています。宇茂佐区の 90ha の区画整理事業で、名護市内に隣接して、名護市内より人口が急速に移動して増加している地域です。

屋部支部は組合員が 411 名の小さい支部で、2016 年 3 月に名護支部より分離して 5 年になります。旧屋部村の地域で、うんさの森区は北部農林高校後の区画整理事業区域内で名護市で一番大きな自治会になっています。そして、宇茂佐区、屋部区、旭川区、中山区、山入端区、安和区、勝山区、の 8 区で構成されています。

運営委員長
金城　正治

大宜味支部

大宜味支部は2009年に結成し、2022年3月現在で組合員数は229です。

これまでの取り組みとしては、健康チェックや筋トレ教室、健康講話などを行いました。

大宜味支部といえば大正琴と言えるくらい大正琴サークルが活発で新沖縄協同病院の開所祝いや大宜味支部の新春のつどいなどでは大活躍しています。しかし、組合員高齢化が進み後期高齢者向けの筋トレ教室の開催や、行政ではできない医療生協ならではの活動をする必要があります。

北部ブロックの取り組み

北部ブロック・やんばる協同クリニック第3回所長杯グラウンドゴルフ大会

■ うるまブロック ■

運営委員長
玉城　直樹

石川支部

石川支部は 2004 年に結成し、2022 年 3 月現在で 915 人の組合員がいます。

石川支部は昨年の夏ごろから、石川川の美化活動に取り組み始めました。回を重ねるごとに参加者も増えその中で、新しい仲間や班を結成することができました。

今後も支部活動の見える化活動を行い、ふれあい活動を通して仲間ふやしにつなげたいと思います。

さらに活動が前進すれば、地域の団体にも働きかけて桜まつりの開催、子供たちや老人クラブの歌や踊りの発表会、愛好会などの作品展示会の催しなど、年中石川川でイベントができればいいと思います。

2019 新春親子凧作り大会

運営委員長
山田　義富

うるま具志川北支部

うるま具志川北支部 2012 年 3 月 30 日に発足し 11 年目を迎えました。支部の組合員数は 1629 名で運営委員数は 7 名です。

2020 年度から全世界を震撼させている新型コロナウイルス感染症は今なお猛威をふるい続け、医療生協活動の自粛期間が続き、さらに支部事務所の撤去などもあり活動に大きく影響してしまいました。しかし、2022 年から新たな拠点事務所も構えることができ支部活動を再開させる準備も整いました。日本国憲法を守り、平和・くらし・安心の社会保障をめざす支部活動を進めていきます。

運営委員長
友寄　和子

うるま具志川南支部

沖縄医療生協50周年おめでとうございます。これまで、地域医療に貢献された医療従事者の皆様に心より感謝申し上げます。

うるま具志川南支部では、地域のレク体操教室やレクダンスなどのつながりで多くの組合員ふやしを行ってきました。その他、料理会やフレイル学習会などもっと支部事務所を活用した取組みもすすめ、お互いに顔の見えるまちづくり、つながりを目指していきたいと思います。2030 年ビジョン平和でだれもが安心して住み続けられる社会を皆で実現しましょう。

運営委員長
伊保　妙子

与勝支部

与勝支部は 2009 年に結成されました。2022 年 3 月現在で組合員数は 556 名です。

与勝支部は、楽しく運動し、いきいき生活をめざし、毎週水曜日の自彊術（ラジオ体操に似た全身運動）や毎月の運営委員会前にスクエアステップを行って脳トレを図るなど、体と脳を活性化させる取り組みを行っています。

そのほかにも映画観賞会や防災体験教室などの学習会も取り入れ楽しく活動しています。

うるまブロックの取り組み

合同新春のつどい 2019.1.19

原水禁平和行進団交流懇親会 2018.6

与勝支部支部運営委員会にて 2020.10

石川支部まちかど健康チェック

第 5 回生協子ども健康まつり
石川支部凧作りコーナー 2019.3.31

■ 中部・浦添・西原ブロック ■

沖縄がんじゅう支部

運営委員長
遠藤　祐美

1988 年に発足した『沖縄市支部』は支部分割を経て『沖縄がんじゅう支部』となりました。現在 4,296 人の組合員が『地域住民とともに健康で住みよいまちをつくる』を目標に様々な活動に取り組んでおります。

健康をつくる活動としては、健康ウォークやグラウンドゴルフに取り組み、併せて組合員同士の交流を図っています。これからも組合員・地域・企業と連携し、豊かなくらしを守る活動の輪を大きく広げていきます。

運営委員長
前宮　徳男

沖縄市東南支部

沖縄東南支部は、2013 年沖縄市支部が分割して発足しました。支部はその名の通り沖縄市の東南地域に位置し、風光明媚な泡瀬干潟が広がる景勝地で活動しています。会議は、毎月第二木曜日の支部運営委員会を軸に、医療情勢などを学習し「全国四課題」にもとづく組合員や出資金増やしの行動計画を重視し、意識的に取り組みを進めています。地域内の自治会や事業所等と連携した健康チェック、「支部ニュース」等の発行に力を入れています。

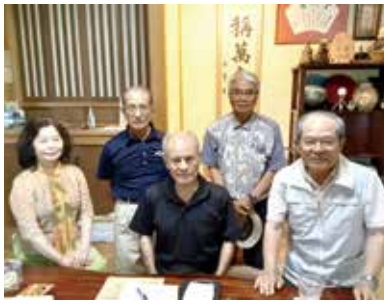
運営委員長
伊佐　眞政

読谷支部

読谷支部は結成されて 17 年目になります。組合員は 1,300 人ほど、班は 4 班あり、毎月第一金曜日に支部運営委員会を開催しています。健康づくりや全国四課題、地域の問題、平和の問題などを取り組んでいます。

コロナ感染以前は、毎月 1 回農協ゆんた市場前で、まちかど健康チェックを実施していました。産廃問題では村ぐるみの闘いに発展させ勝利した経験もあります。「組合員・出資金」ふやしでは毎年表彰されています。課題として班活動の活性化、健康づくりについて村とのタイアップを高めること等です。

2019 年度まちかど健康チェック



2015 年新春のつどい

運営委員長
本永　悦子

ちゃたん支部

ちゃたん支部は結成から2年を迎えました。700名近くの組合員と4つの班がありますが、コロナ禍で思うような取り組みができていません。そんな中、地域の組合員、中部協同病院職員、とよみ生協病院調理師の協力を得て子ども食堂を立ち上げました。子ども食堂も3年目に入り、コロナ禍であっても毎月開催してきました。子どもたちの未来のために、これからも活動を続けていきたいと思います。そして、支部の4つの班、各々が楽しく活動できることが今一番の願いです。

こども食堂「すまいるカフェ北谷」

運営委員長
當眞　嗣一

西原支部

「西原町に組合員のよりどころ支部を結成！」と2008年4月の医生協だよりに掲載されて14年が経ちました。当時7名の組合員が準備会を進め、毎週のように医療生協の学習会を開催、いろいろな要求のもと班も結成されました。96歳の組合員さんからの「待ちかんていしていたよ。」との声には、すごく期待されていたのを強く感じました。結成総会では伊集理事長による後期高齢者医療制度についての講演もあり、参加者からは制度のひどさにワジワジーの声があがったようです。現在、組合員数1,304人、774世帯と大きく成長しました。しかし、今の世の中を考えると県民の健康、暮らしを良くしていく課題がいっぱいです。

出来ることから進んでいきたいです。

ティーダ班

新春みかん狩りピクニック 2020.2.2

運営委員長
宮良　信博

宜野湾支部

宜野湾支部は 2005 年 4 月に結成され今年で 17 年を迎えました。平和活動や健康企画などに取り組み、組合員も着実に増え 2022 年 3 月末に 2,164 人となりました。この 2 年は支部委員の個別事情にコロナ禍が重なり集まることさえ難しい状況が続いていますが、5 月に何とか運営委員会を再開できました。地道に、できるところから少しずつ頑張っていきます。

運営委員長
西平　守伸

浦添きた支部

浦添きた支部は浦添市の東部と北西部に広がる大きな地域で活動しています。浦添協同クリニックを活動拠点として、新型コロナが発生するまでは、クリニックや自治会館などで健康教室を開いていましたが、現在は休止中です。それでも運営委員でチームを組んで高齢の組合員宅を訪問し、必要に応じて名義変更などを取り組んでいます。平和の問題でも浦添島ぐるみ会議に個々人で参加して、辺野古新基地建設許さない活動を頑張っています。

運営委員長
仲西　常幸

浦添みなみ支部

当支部は、2010 年に「浦添支部」（1993 年結成）が 2 分割されて誕生した支部です。

この間、医療生協の様々な活動や取り組みを浦添協同クリニックと連携して積極的に進めてきましたが、支部組合員の高齢化や新型コロナによって活動の自粛や休止を余儀なくされました。しかし今、コロナ発生から 3 年が経過し、世の中がウィズコロナの流れになる中、支部運営委員会を再開しました。会議は活動を進める心臓部であり、定期開催をめざします。

■ 那覇ブロック ■

運営委員長
丸山　治美

首里東支部

首里東支部は 2014 年 3 月に西支部、東支部に分割して発足しました。現在の東支部の組合員数は2800名余りです。これまでの主な支部活動は、新春のつどい、健康教室、手配り者交流会、ピクニック、グラウンドゴルフ大会参加等でした。特に健康教室は好評で、今はコロナ禍で休止していますが、早期の再開が期待されています。

また、運営委員会の web 会議導入、支部ニュースの発行、手配り者の高齢化による見直し、活動の拠点づくりにも取り組んでいます。これからも地域の組合員とのつながりを大事に、医療生協の思いを広げながら支部活動を進めていきたいと思います。

運営委員長
渡久地　栄子

首里西支部

首里西支部は 2014 年に結成され、8 年目を迎えます。組合員は約 1500 名を超え、医療生協だより手配りは配布者 19 名 233 部となっています。

この間、コロナ感染症拡大の影響により、なかなか活動ができない状況にあります。

コロナ以前はコープ店舗で、まちかど健康チェック（年 6 回）を実施、辺野古新基地建設反対座り込み行動・集会への参加等を行ってきました。今後、少しずつでも医療生協の活動が前進できるようにしていきたいと思います。

運営委員長
仲本　政幸

那覇支部

那覇支部は 1988 年 3 月に結成され現在に至ります。エリア内に那覇民主診療所があり支部運営を支えていただいています。所属する班は10班あり、健康班会や音学班会、プログラミング班会など多彩な活動を行っています。東日本大震災の避なん者の班もあり班員の要望から避なん者健診が実現しました。支部全体の取り組みとして毎年2月に新春イチゴ狩りを開催し多い年には60人を超える参加者があり喜んで頂いています。支部の課題は組合員の高齢化で医療生協だよりの手配り数が年々減少しており、若い仲間を増やすことが求められています。これからも一人一人が活き活きと生活できるより良い社会の実現をめざし活動していきます。

運営委員長
永山　真知子

那覇南支部

那覇南支部は 2010 年に結成され、12 年目を迎えます。組合員は約 2900 名を超え、医療生協だより手配りは配布者 16 名 1283 部となっています。

この間、コロナ感染症拡大の影響により、なかなか活動ができない状況にあります。

コロナ以前は地域との交流を目的にたまり場を利用して懇談、交流などを積極的に行っていました。

今後、少しずつでも医療生協の活動が前進できるようにしていきたいと思います。

運営委員長
名嘉座　安子

真和志西支部

真和志西支部は、毎月の運営委員会を寄宮の宮城区公民館で開催しています。新型コロナウイルスが大流行し、医療従事者がその対応で奮闘している頃には各事業所にミカンを届けました。コロナ禍で一昨年から手配り者交流会が開催できなくなりましたが、手配り者の協力に感謝しマスクやタオルを配布してきました。組合員が 6 千名を超すマンモス支部となり、今後は支部を分割してもっと地域に密着した医療生協活動ができるようにする事が課題です。

運営委員長
我如古　るみ子

真和志あがり支部

真和志あがり支部は、識名、繁多川、真地、上間地域を受け持つ支部で、3,254 世帯 4,033 名の組合員が所属する支部となります。真和志あがり支部に登録している班は 20 班有り、殆どが踊りやグラウンドゴルフなどの趣味の班となっています。現在の運営委員は 5 名で一緒に頑張っていただける運営委員を随時募集しているところです。

支部運営委員写真

支部ピクニック

運営委員長
玉城　薫

真和志みなみ支部

真和志みなみ支部は那覇市国場・仲井真地域を受け持つ支部で組合員世帯が約 2,000 世帯、組合員数が約 2,600 人の地域となります。

真和志みなみ支部には 8 つの班があり、仲の良い仲間同士が集まる班や子供の貧困問題が取り上げられる中で結成された子ども食堂を運営する班などが活動をしています。これまで支部行事としてグラウンドゴルフやピクニック、歴史散策（フィールドワーク・学習）など企画しながら組合員活動を進めてきましたが、コロナ禍の中で組合員の集える活動ができていない状況が続いています。現在は活動再開へ向けて支部運営委員会で計画の議論を進めているところです。

2014 年度 真和志みなみ支部グラウンドゴルフ

運営委員長
池間　たみ子

小禄北支部

2010 年、小禄支部が 3 分割され小禄北支部が結成されました。分割後も小禄北、小禄南、小禄西の 3 支部合同で協力し、新春のつどい・ピクニック・健康チェック活動等を取り組んでいます。2014 年 4 月に組合員のつどいの場として「にじのひろば」を開設し、総会や班会、支部運営会議などが取り組みやすくなりました。2015 年より、3 支部合同による子ども学習支援活動をにじのひろばにて開始、2017 年には健康づくりの取り組みとして、那覇市住民主体通所型サービス事業「はつらつ健康教室」を運営しています。医療生協の理念を常に振り返り、組合員が安心して幸せに暮らせるよう、支部運営委員はSDG sも意識しています。今後は担い手づくりが大きな課題となっています。

運営委員長
宮城　春美

小禄南支部

赤嶺光子さん、上原太郎さんを中心に支部を結成して 26 年です。
班活動では、上原光子さん宅を解放して看護師による血圧測定、健康相談、健診車が来ての集団健診などを行い、それらを機に小禄支部が結成されました。2010 年（平成 22 年）に小禄北・小禄南・小禄西の 3 支部に分割しました。

現在、小禄南支部では月 1 回、密を避けながら班会を行い、もやしの根っこ取りなどをしながらお互いの健康についてユンタクをしています。また、組合員の赤嶺キクさんの戦争体験談では、同じ組合員である大仲さんが絵を描き紙芝居にして子どもたちに届けました。
コロナが収まり、いろいろな集まりができるようになりたいですね。

運営委員長
高良　初子

小禄西支部

約 53 年くらい前だったと思いますが、地域の議員さんから豊見城村に民主的な病院、わったー病院ができるので協力してほしいと話があり、「1口 1ドル、各家庭から病院建設協力のための出資をお願いする。」との説明を受けました。当時、私自身まだ二十代、何ができるか良く分からないまま議員さんたちと二組ずつ組を作り地域を一軒一軒周り、出資のお願いをして回りました。ある家ではカンパと勘違いされることもありました。

ある日、父に呼ばれて「お前は家々を回ってお金を集めていると聞いたが、どういう事なのか説明しなさい！若い娘が何のためのお金集めか？」と怒鳴られました。私は父にできたばかりのパンフを見せて、「これから昼も夜も安心して受診ができる病院をつくるために、皆様に協力をお願いして回っている。」「男ばかりでは話が固すぎるため、若い娘が一緒だと 1 口が2口になり、雰囲気も和らぐのではと思い、病院建設のお手伝いをしている。」と説明しました。

父は「よし分かった。自分も 5ドル出資するが、今手持ちがないのでお前が立て替えてくれ。」と理解してくれました。当時の 5ドルは大金、あとで返してくれると思っていましたが、未だに立て替えたまま。父は二十年前に天国へ旅立ちました。その後出資金はどこへ？長男に名義変更されたそうです。

那覇ブロックの取り組み

2019 小禄三支部合同新春のつどい

2019 年 WHO 健康チェック：小禄三支部

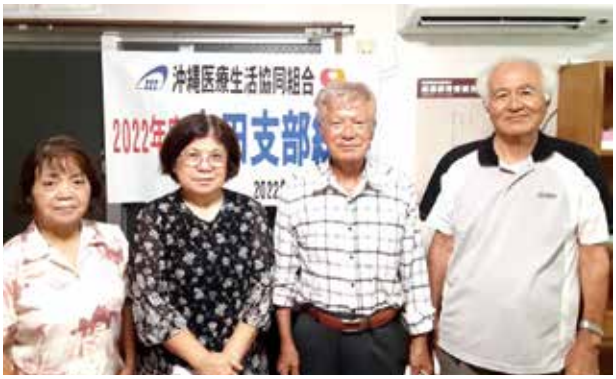
■ 豊見城ブロック ■

運営委員長
福元　孝

上田支部

2008 年に豊見城支部 6 分割して上田支部が誕生しました。今年で 14 年になります。

これまで、支部独自の取り組みとして① 90 歳以上の組合員さん宅へのお元気ですか訪問②本部町へのミカン狩りバスツアー③ジョン万次郎の歩いた宿道をたどるバスツアー④組合員が集まっての新年会などがあります。そのほか、豊見城ブロックとしての取り組みとして、①グラウンドゴルフ大会②芸能発表の場となる「新春のつどい」③まちかど健康チェック等の取り組みがあります。これからも、楽しい企画を実施して、組合員を増やしていきたいです。



2019.11.16 バスツアー

運営委員長
儀間　盛朝

伊良波支部

伊良波支部は、2008 年に豊見城支部の分割でスタートしました。伊良波小学校区を主に活動をしています。組合員が 1041 人、9 班、9 人の支部運営委員で支部活動を展開しています。医療生協だよりと伊良波支部ニュースは、657 部を 33 名でほぼ全世帯に届けています。

「伊良波支部ニュース」は支部発足から毎月発行。コロナ禍の前は、明るい陽光のもとで毎年支部ピクニックなど楽しい行事などを行ってきました。これからはフレイル予防など健康づくりも展開していきたいと計画しています。

2019.10.31 介護学習会

運営委員長
赤嶺　吉信

座安支部

座安支部は豊見城市の西地域、座安小学校区と豊崎小学校区の地域で活動しています。座安支部は 2008 年 12 月に結成され、今年で 14 年目を迎えます。年 1 回支部総会を開催し、日常的には支部運営委員会を中心に活動をとりくんでいます。

支部は、班会を開催し、健康づくりや平和活動、社会保障をよくする活動、医療生協の機関紙「医療生協だより」の組合員への手配り活動などを行っています。

また、沖縄医療生協や豊見城ブロックが企画するWHO世界健康ウォークや子ども健康まつり、新春のつどい、まちかど健康チェック、核兵器廃絶をめざす県内平和行進への参加、そして、辺野古への新基地建設に反対する活動、医療・介護、子ども医療費の無料化をめざすとりくみなど社会保障の改善を求める活動等をとりくんでいます。支部は「健康をつくる　平和をつくる　いのち輝く社会をつくる」、医療生協の理念を掲げて、健康づくりを通じて、くらしとまちづくりに貢献する活動をすすめています。

2018.11.10 バスツアー

運営委員長
照屋　つぎ子

とみしろ支部

とみしろ支部は市・県営団地が中心ですが、地域には、医療生協設立にかかわった先輩たちも多く、医療生協への信頼度は大きく、大病したり、夜間の救急などは活用しているとの声も聞かれます。しかし、病院へ行くにはバスで乗り換えしなければならない不便さもあって、なかなか利用しにくい地域となっています。高齢者や子供連れの住民からはバスの配置が求められています。組合員訪問をすると、50 年来の組合員も多く、涙を流して設立当時の話をされ、歓迎します。

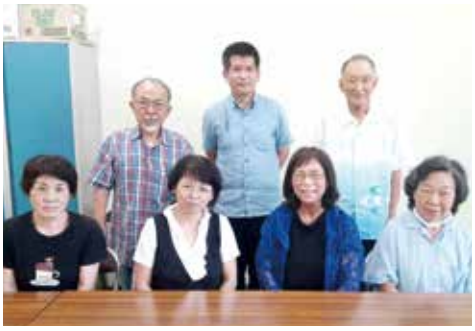
コロナで班活動ができない期間となり、絵手紙や三線など一部継続していますが、以前のようにグラウンドゴルフや紫陽花ツアー、辺野古新基地建設反対などをしていきたいと思います。

小さい支部ですが、みんなで頑張って 2 回の全国四課題達成、通信教育もグループ学習で行っています。50 周年の今年は、新しいとよみ生協病院建設のためにも、組合員ふやし・増資に頑張ります。

運営委員長
新垣　龍治

とよみ支部

とよみ支部は、とよみ生協病院がある真玉橋と根差部、高安の一部が活動範囲です。職員と組合員さんの協力で医療生協だよりの手配り配布を増やしてきました。組合員宅訪問にも定期的に取り組んでいます。班活動はうたごえ、筋トレ、三線などの班があります。とよみ生協病院組合員利用室が新型コロナ感染予防の為利用できなくなり、活動を休止している班もあります。新しく建て替えられる病院にも組合員利用室の設置を期待しています。



2017.1.22 とよみ・長嶺支部合同ピクニック

運営委員長
宮里　美恵子

長嶺支部

長嶺支部は、2008 年に豊見城支部を 6 分割し、長嶺小学校区を単位として結成されました。

「筋トレ・三線・台湾民俗舞踊・うちなーロで語てい遊ばな・布ぞうり等」多彩で活発で、「毎回の班会の呼びかけ文を考えるのも楽しい」と班会を学べる場としても集うことを楽しみにしている支部です。運営委員の中には、地域の中で平和運動や自治会、学校のボランティア活動等で頑張っているのも実に頼もしい人達です。

2017.1.22 とよみ・長嶺支部合同ピクニック

■ 南部ブロック ■

運営委員長
新里　昇

与那原支部

与那原支部は 2006 年に結成され、17 年目を迎えます。与那原での組合員は約 1200 名を超え、医療生協だより手配りは配布者 9 名 93 部となっています。

この間、体調不良や諸事情により運営委員の減少やコロナ感染症拡大の影響により、なかなか活動ができない状況にあります。2022 年度に運営委員 1 名を増やしました。今後、活動を広げていければと思います。

コロナ以前は南部ブロックでの遊覧船ツアーの参加や商業施設での健康チェックなどとりくみました。2021 年度は南部ブロックのグラウンドゴルフ大会にも参加しています。今後、少しずつでも医療生協の活動が前進できるようにしていきたいと思います。

運営委員長
名嘉　正勇

南風原支部

私は 2020 年 3 月 30 日に南風原支部を 2 分割し、新しい南風原支部として出発した新支部運営委員長です。

1997 年の 1 月に南風原支部を結成した初代支部運営委員長の名嘉正順さん達の先輩に学んでいきたいと思います。今はコロナ禍で感染対策をしながら月1回のカラオケ班会や通信教育を集団で受け学習をしています。2022 年度の支部総会では先輩達から医療生協の生い立ちや歴史を組合員の学習の場をとの提案がありました。50 周年を新しい出発として「無差別平等」の医療が地域で花開く支部活動を行っていきたいと思います。

運営委員長
秋山　幹雄

南風原南星支部

1997 年 1 月に全県で 11 番目に結成した南風原支部を 2020 年 3 月 30 日に 2 分割をして 44 番目の支部として誕生しました。南星中学校区（津嘉山、喜屋武、照屋、本部、山川、神里）を地域として活動しています。津嘉山班はコロナ禍の活動は自粛していますが、これまでは月1回班会を開いて、骨密度測定、「認知症予防」「変形性膝関節症」などのテーマで病院から職員に講師を依頼し取り組んできています。今後地域に根ざした支部活動に取り組んでいきたいと思います。

運営委員長
親川　幸隆

南城市知念支部

南城市知念支部は1993年に結成され、30年目を迎える歴史のある支部です。支部の組合員は約 560 名を超え、医療生協だより手配りは配布者 12 名 110 部となっています。2017年の南城市支部（佐敷、玉城、大里）の結成と同時に、知念支部を南城市知念支部と名称を変更しました。

ここ数年はコロナ感染症の影響により、運営委員会が開催されていません。

コロナ以前はピクニックや九州・沖縄ブロック組合員活動交流集会の派遣なども行ってきました。コロナ禍では手配り者にマスクと消毒液を配布し喜ばれています。

コロナが収まり、以前のような支部活動ができればと思っています。

運営委員長
玉寄　勝光

南城市支部

沖縄医療生協創立 50 周年、めざましく発展したと感慨深い想いです。

創立の頃の医療は病院が少なく県民の暮らしも貧しい中、大病とはいかなくても医者にかかることもままならない復帰の頃に、いち早く沖縄医療生協はつくられました。豊見城に完成した沖縄協同病院は県民から大きな期待を集めたことを覚えています。

佐敷で医療生協といえば率先して活動した故宮城睦善（津波古出身）さんが浮かびます。当時沖縄医療生協が毎年 1 回佐敷でも健診車で医師や看護師をともない組合員の健診を津波古の公民館で行なわれました。その準備等を積極的になさっておりました。貧しい暮らしの中でも沖縄医療生協の組合債を引き受けて頑張っていました。このような活動が 40 年前にあった事を思い出します。当時の知念村では親川さん（元立法院議員、県議会議員）の出身地の志喜屋区出身の方々の活動している様子がいろいろ浮かびます。このように各地域の功労者が尽力したおかげで今日の沖縄医療生協の発展につながりました。

2018.10 秋の健康チェック（大里アトールにて）

運営委員長
金城　強

やえせ支部

1　支部結成の経過

やえせ支部の組合員数は 2,949 名ですが、生協だよりの手配り数は 457 部を 30 名で配布しています。支部結成の経緯については、最初は港川班だけしかなかったが、志多伯班が結成され、その後、生協だよりの「手配り・仕分け班」がつくられ、3つの班となり 2013 年 3 月にやえせ支部が結成されました。

2　主な活動と年間行事

①毎月一回は、支部運営委員会を開き、方針と計画にもとづいて活動してきたが、コロナ禍で会議は延期や中止を余儀なくされている状況でした。

②支部独自の行事としては、毎年 12 月にパークゴルフ大会を行い、その後に親睦交流を深めるため忘年会も開催してきました。

③南部ブロックのグラウンドゴルフ大会にも積極的に参加しています。

④組合員の加入促進として、地域別に高齢者宅を訪問して、名義変更の手続きをすすめたり、増資の取り組みも行ってきました。

⑤健康まつりにも積極的に参加し、「漆喰シーサーづくりコーナー」のお手伝いをしました。

⑥生協だよりの手配り者も増やし、現在は地域だけで 17 名が参加していますが、一部の方は 50 部以上の配布もおり、配布者を増やす事が課題になっています。

3　今後の課題として

①班の活動を活発にして参加者を増やすことと、新しい班を結成する事。

②支部独自のニュースの発行で組合員の交流を図り、情報を共有すること。

③年間計画を見直し、自主的に楽しい支部活動を展開していく。

運営委員長
上原　千津美

糸満支部

1978 年に糸満協同診療所が開所しました。より身近に医療生協があります。

先人達の努力や地域組合員のおかげで約 8,300 人が加入しました。

私たち糸満支部は毎月第二木曜日に運営委員会を開催し、四課題の取り組みや平和活動（辺野古基地反対へのスタンディング行動）、フードパントリーにも力を入れて進めています。

医療関係に関わっている運営委員がいるのが強みです。コロナ禍の厳しい活動ですが「創立 50 周年」を盛り上げていきましょう。

運営委員長
浦崎　哲男

糸満南支部

糸満南支部は 2011 年 1 月に支部分割によって結成されました。支部運営会議も毎月開催するようにしていますが、委員の参加が少なく中止にする場合もあります。

2021 年度支部総会では豊崎にオープンした「かりゆし水族館」の見学や骨密度測定を用いた班会等を予定していましたが、コロナ禍により実現できませんでした。支部運営委員は高齢化し南部ブロックのグラウンドゴルフ大会、ボーリング大会にも残念ながら参加はできませんでした。

今後はコロナも徐々に落ち着いてきたので、久しぶりに支部の皆さんが気軽に参加できるような行事を企画していきたいと思います。

運営委員長
前田　潤

糸満東支部

糸満東支部は糸満支部分割で 2018 年に結成され、4 年目を迎えます。組合員は約 1800 名を超え、医療生協だより手配りは配布者 13 名 233 部となっています。

沖縄戦終焉の地に立つ支部として平和活動を積極的に取り組みます。

この間、コロナ感染症拡大の影響により、なかなか活動ができない状況にあります。

コロナ以前は南部ブロックでの遊覧船ツアーへ参加しました。2021年度は南部ブロックのグラウンドゴルフ大会にも参加しています。今後、少しずつでも医療生協の活動が前進できるようにしていきたいと思います。

糸満東支部結成総会

南部ブロック取り組み

遊覧船ピクニック 2019.10.27

運営委員長
具志堅　高子

みやこ支部

みやこ支部は結成されて 4 年目を迎えました。

結成後はまちづくり推進部の協力を得ての活動でしたが思うようには進みませんでした。

ここ 2 年ほどコロナ禍で集まれない中、みやこ支部ではオンラインの強みを生かし、念願の支部事務所が決まったことでほぼ毎月運営委員会や班会も開催する事ができています。

2021 年度は四課題の目標を全て達成しました。班会は 14 班に増え「フレイル予防リーダー養成講座」も開催しました。

今年度は身近なところからできる健康づくりの活動に着実に取り組んでいきたいと思います。

運営委員長
翁長　孝夫

八重山支部

八重山支部は 2017 年に結成され、5 年目を迎えます。組合員は約 380 名を超え、医療生協だより手配りは配布者 5 名 58 部となっています。

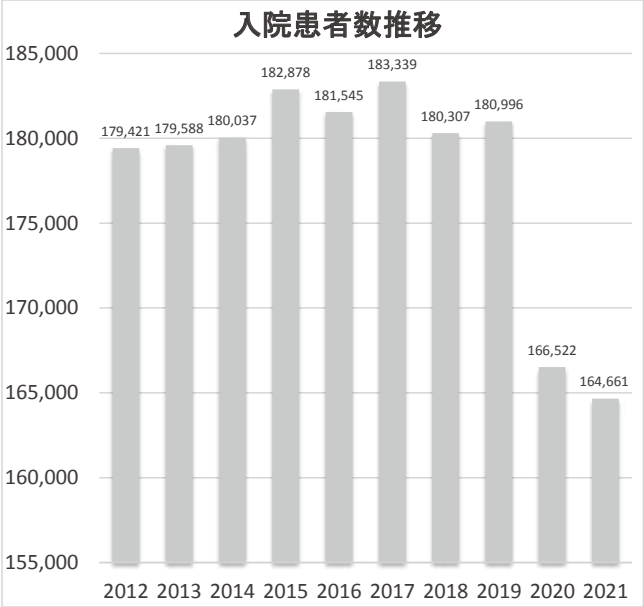
事業所の無い離島支部として活動を模索しながら運営しています。

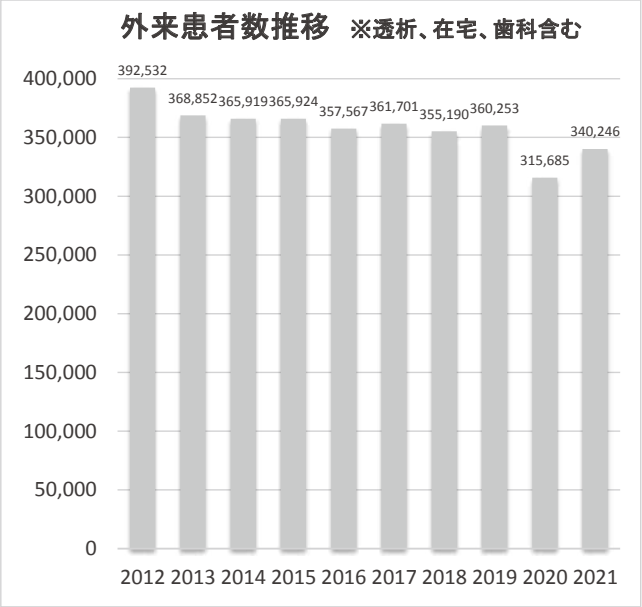
この間、コロナ感染症拡大の影響により、なかなか活動ができない状況にあります。

コロナ以前は商業施設で健康チェックなどを行いました。今後、少しずつでも医療生協の活動が前進できるようにしていきたいと思います。

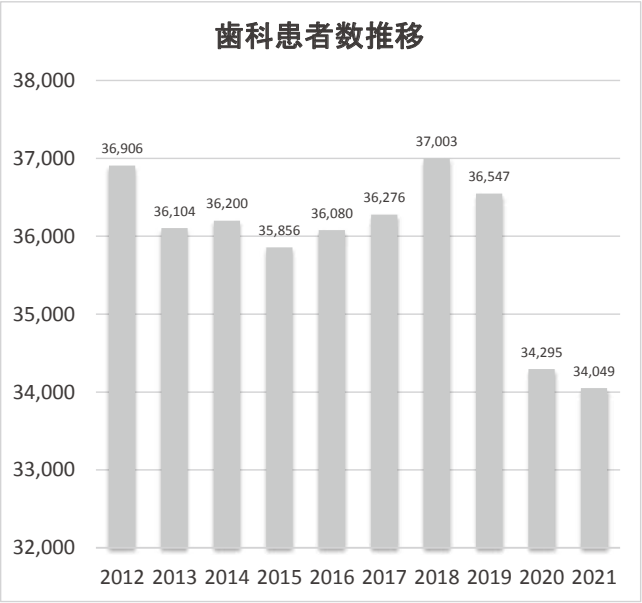
八重山支部結成総会

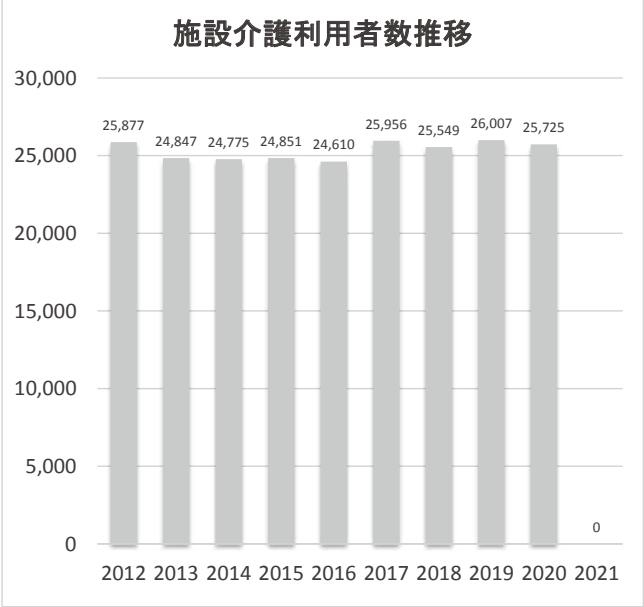
資料・年表編

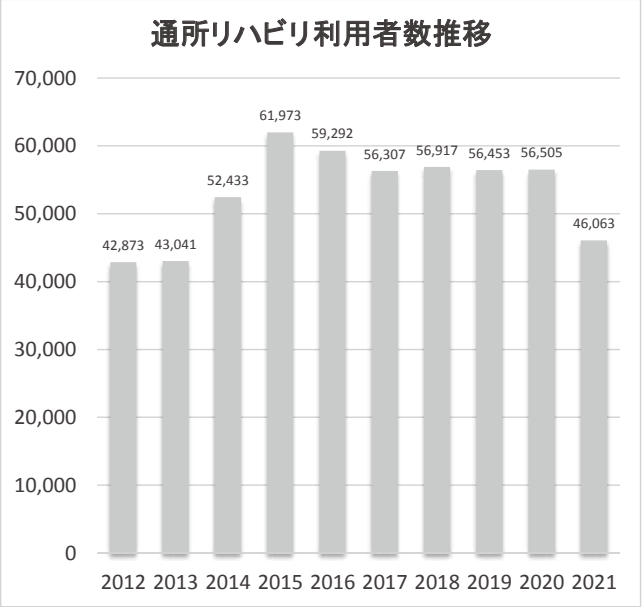

入院患者数推移
185,000
180,000
175,000
170,000
165,000
160,000
155,000
179,421
179,588
180,037
182,878
181,545
183,339
180,307
180,996
166,522
164,661
2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021

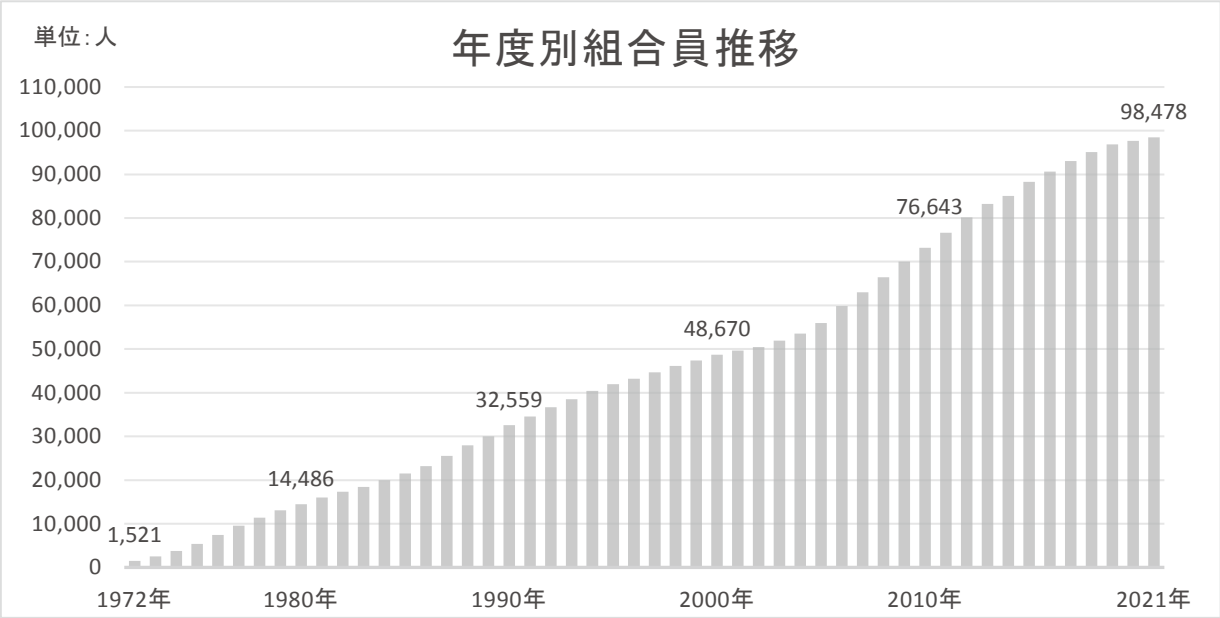

外来患者数推移　※透析、在宅、歯科含む
400,000
350,000
300,000
250,000
200,000
150,000
100,000
50,000
0
392,532
368,852
365,919
365,924
357,567
361,701
355,190
360,253
315,685
340,246
2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021

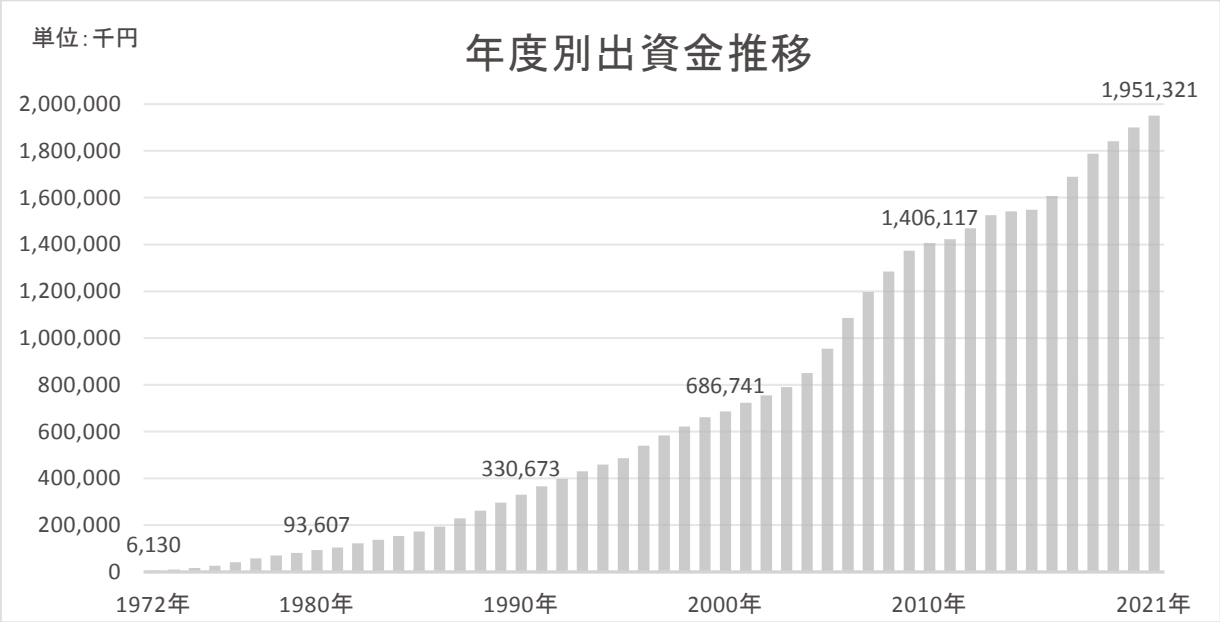
在宅患者数推移
20,000
18,000
16,000
14,000
12,000
10,000
8,000
6,000
4,000
2,000
0
15,974
17,436
18,008
17,476
12,808
16,186
15,936
15,907
16,924
16,112
2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021


歯科患者数推移
38,000
37,000
36,000
35,000
34,000
33,000
32,000
36,906
36,104
36,200
35,856
36,080
36,276
37,003
36,547
34,295
34,049
2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021


施設介護利用者数推移
30,000
25,000
20,000
15,000
10,000
5,000
0
25,877
24,847
24,775
24,851
24,610
25,956
25,549
26,007
25,725
0
2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021


通所リハビリ利用者数推移
70,000
60,000
50,000
40,000
30,000
20,000
10,000
0
42,873
43,041
52,433
61,973
59,292
56,307
56,917
56,453
56,505
46,063
2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021

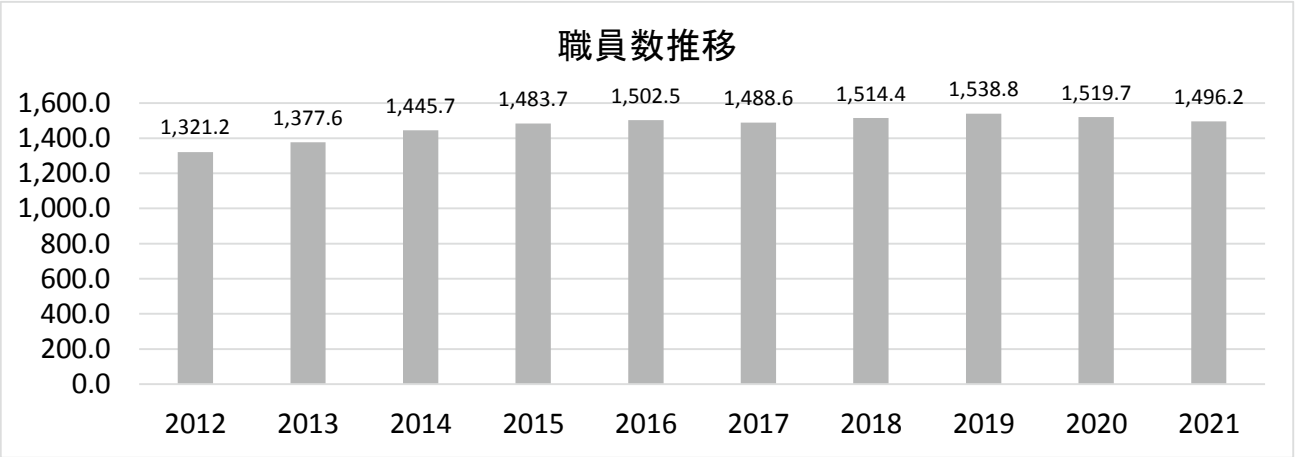

単位：人
年度別組合員推移
110,000
100,000
90,000
80,000
70,000
60,000
50,000
40,000
30,000
20,000
10,000
0
1,521
14,486
32,559
48,670
76,643
98,478
1972年
1980年
1990年
2000年
2010年
2021年


単位：千円
年度別出資金推移
2,000,000
1,800,000
1,600,000
1,400,000
1,200,000
1,000,000
800,000
600,000
400,000
200,000
0
6,130
93,607
330,673
686,741
1,406,117
1,951,321
1972年
1980年
1990年
2000年
2010年
2021年

単位：千円
年間事業収益推移
16,000,000
14,000,000
12,000,000
10,000,000
8,000,000
6,000,000
4,000,000
2,000,000
0
2,267,182
5,456,018
9,344,244
12,695,289
14,773,307
1972年
1980年
1990年
2000年
2010年
2021年

職員状況表

職種・区分	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
医科医師	109.0	107.5	114.7	118.2	122.2	129.5	136.0	138.4	135.6	132.7
歯科医師	5.2	5.2	5.2	5.9	5.9	5.8	5.7	5.6	5.6	5.6
正看護師	463.7	470.1	483.5	478.8	490.9	485.5	510.8	526.4	531.7	519.4
准看護師	67.2	60.4	51.4	46.1	40.1	34.2	25.1	23.1	20.8	14.5
保健師	7.0	5.8	6.0	6.9	6.9	7.0	7.0	7.0	7.0	6.9
助産師	13.0	13.6	13.8	15.0	16.0	15.0	16.7	18.9	15.4	14.4
看護補助者	48.2	63.8	92.6	112.7	112.4	105.4	105.9	106.5	101.0	91.2
検査技師	29.7	31.9	33.5	36.8	35.6	39.5	40.1	42.2	41.0	43.0
放射線技師	19.9	19.6	20.6	19.6	20.5	20.6	20.6	20.6	21.6	22.6
薬剤師	17.5	19.5	17.0	18.7	21.7	23.7	25.2	23.7	29.3	27.3
作業療法士	34.9	34.0	36.8	37.0	41.5	41.3	41.8	45.0	43.0	42.0
理学療法士	50.0	53.0	53.0	51.0	55.0	58.0	60.1	62.0	64.0	64.6
言語聴覚士	15.0	17.0	16.0	18.0	18.0	17.0	18.0	18.0	19.0	18.1
介護福祉士	56.4	74.6	89.8	83.2	99.3	103.3	94.1	87.2	75.8	75.1
介護士	15.8	16.0	16.5	22.3	44.3	41.1	41.5	35.3	20.4	19.8
救急救命士	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8	3.0	3.0	3.0	3.0
その他医療技術者	59.4	45.9	52.9	54.7	34.1	33.2	35.3	39.3	39.8	43.7
管理栄養士	9.0	9.0	9.0	9.0	10.5	14.2	15.2	13.5	15.8	16.3
調理師	19.7	19.7	20.8	22.1	20.5	23.3	21.8	22.7	24.5	24.5
食用部門その他	12.1	9.9	11.2	11.5	11.8	11.5	13.1	9.7	7.9	8.0
歯科技工士	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
歯科衛生士	13.1	14.6	13.9	15.8	15.8	14.9	15.2	15.2	14.8	15.3
事務	164.0	177.5	180.9	188.5	188.9	190.6	191.0	205.6	212.7	214.4
組織担当者	8.0	9.0	8.0	8.0	8.0	8.0	7.0	7.5	6.0	6.0
医療ｿｰｼｬﾙﾜｰｶｰ	16.9	16.0	15.0	16.0	18.0	14.5	13.0	17.5	18.0	19.9
ｹｱﾏﾈｰｼﾞｬｰ	16.0	16.8	17.3	17.6	17.6	17.6	18.2	14.8	15.8	14.2
その他職員	47.6	64.2	63.3	67.2	44.1	30.1	31.0	28.1	28.2	31.7
計	**1,321.2**	**1,377.6**	**1,445.7**	**1,483.7**	**1,502.5**	**1,488.6**	**1,514.4**	**1,538.8**	**1,519.7**	**1,496.2**
平均年齢	41.4歳	41.40歳	41.60歳	42.00歳	42.00歳	43.10歳	43.03歳	43.07歳	43.00歳	45.00歳
平均在職年数	8.0年	7.4年	7.80年	8.00年	8.00年	8.10年	8.06年	8.08年	8.10年	9.00年



沖縄医療生活協同組合歴代理事名簿

1972 年 8 月沖縄医療生活協同組合発起人発足

発起人

赤崎一成　伊波廣定　上原太郎　内村敏雄　我如古盛仁　儀間竹子　金城正治　黒潮隆　島袋博美
平良ヨシ　玉城正治　当間恵子　當真嗣隆　仲西常雄　西銘宜一　比嘉愛子　比嘉恒雄
前原穂積　真喜屋武　真境名元盛　松茂良政子　宮城正雄　宮平良得　屋良博一

発起人代表　　真喜屋武

1972 年 10 月 1 日　沖縄医療生活協同組合創立総会

理事長　　真喜屋武
理　事　　内村敏雄　我如古盛仁　島袋博美　平良ヨシ　玉城正治　名嘉功和　仲西常雄　西銘宜一
松茂良政子　真境名元盛　宮城正雄　屋良博一
監　事　　宮平良得　吉村拓

1974 年 8 月　第 2 回定期総代会

理事長　　真喜屋武
専務理事　名嘉功和
理　事　　内村敏雄　我如古盛仁　島袋博美　平良ヨシ　玉城正治　玉城勝治　西銘宜一　松茂良政子
真境名元盛　宮城正雄　屋良博一
監　事　　嘉陽宗盛　宮平良得

1975 年 8 月　第 3 回定期総代会

理事長　　真喜屋武
専務理事　名嘉功和
理　事　　運天ヨシ　大城信子　我如古盛仁　国吉真弘　島袋博美　平良ヨシ　玉城勝治　玉城正治
當真嗣州　仲西常雄　西銘宜一　松茂良政子　真境名元盛　宮城正雄　山里将進
監　事　　嘉陽宗盛　宮平良得

1977 年 6 月　第 5 回定期総代会

理事長　　真喜屋武
専務理事　名嘉功和
理　事　　赤嶺吉信　新垣繁信　伊波豊　我如古盛仁　神谷亀精　新城均造　島袋博美　玉城勝治
玉城正治　當真嗣州　仲西常雄　仲本政浩　西銘宜一　真境名元盛　宮城康夫　宮城正雄
山里将進
監　事　　嘉陽宗盛　宮平良得

1979 年 5 月　第 8 回定期総代会

理事長　　真喜屋武
専務理事　名嘉功和
理　事　　赤嶺吉信　新垣繁信　新垣哲也　伊波豊　上原稔　我如古盛仁　神谷亀精　玉城勝治
玉城正治　當真嗣州　仲西常雄　仲本政浩　西銘宜一　真境名元盛　宮城康夫　宮城正雄
山里将進　湧川和夫
監　事　　嘉陽宗盛　宮平良得

1981 年 5 月　第 11 回定期総代会

理事長　　真喜屋武
専務理事　名嘉功和
理　事　　赤嶺吉信　東江正隆　新垣繁信　新垣哲也　伊波豊　上原稔　我如古盛仁　小松篤夫
佐事安夫　玉城勝治　玉城正治　仲田精伸　仲西常雄　仲本政浩　西銘宜一　真境名元盛
宮城康夫　湧川和夫
監　事　　嘉陽宗盛　宮平良得

1983 年 5 月　第 13 回定期総代会

理事長　　真喜屋武
専務理事　名嘉功和
理　事　　赤嶺吉信　東江正隆　新垣繁信　新垣哲也　伊波豊　石川栄子　大城節子　嘉陽宗儀
我如古盛仁　神谷亀精　賀数藤子　佐事安夫　玉城勝治　玉城正治　仲田精伸　仲西常雄
西銘宜一　真境名元盛　前原秀子　宮国茂子　山里将進　屋良敏男
監　事　　嘉陽宗盛　嵩原康夫

1985 年 5 月　第 16 回定期総代会

理事長　　島袋博美
専務理事　名嘉功和
理　事　　赤嶺吉信　東江正隆　安里ヨシ子　新垣繁信　新垣哲也　伊波豊　大城節子　我如古盛仁
神谷亀精　賀数藤子　佐事安夫　玉城勝治　玉城正治　仲田精伸　仲西常雄　西銘宜一
真境名元盛　前原秀子　松茂良政子　宮国茂子　山里将進　屋良敏男
監　事　　嘉陽宗盛　嵩原康夫

1987 年 5 月　第 18 回定期総代会

理事長　　島袋博美
専務理事　名嘉功和
理　事　　赤嶺吉信　東江正隆　安里ヨシ子　新垣繁信　新垣哲也　伊波豊　上原スミ　大城節子
我如古盛仁　賀数藤子　佐事安夫　瀬長恒雄　玉城勝治　玉城正治　仲里尚実　仲田精伸
仲西常雄　西銘宜一　真境名元盛　前原秀子　宮城生慎　宮国茂子　山里将進　屋良敏男
与儀洋和
監　事　　嘉陽宗盛　嵩原康夫

1989 年 5 月　第 20 回定期総代会

理事長　　島袋博美
専務理事　名嘉功和
理　事　　赤嶺吉信　東江正隆　安里ヨシ子　新垣繁信　新垣哲也　伊波豊　上原スミ　大兼秀子
賀数藤子　佐事安夫　瀬長恒雄　高良初子　玉城勝治　仲里尚実　仲田精伸　仲西常雄
西銘宜一　西銘純恵　真境名元盛　前原秀子　宮城生慎　宮国茂子　山里将進　屋良敏男
与儀洋和
監　事　　嘉陽宗盛　嵩原康夫

1992 年 3 月　第 24 回定期総代会

理事長　　仲西常雄
副理事長　名嘉功和
専務理事　玉城勝治
理　事　　赤嶺吉信　東江正隆　安里ヨシ子　新垣潔　新垣繁信　新垣哲也　新垣梨律子　伊波豊
上原すみ　大兼秀子　賀数藤子　神谷亀精　瀬長恒雄　高良初子　仲田精伸　西銘宜一
西銘純恵　西銘圭蔵　真栄田義晃　真境名元盛　仲里尚実　宮城生慎　宮国茂子　山里将進
監　事　　嘉陽宗盛　嵩原康夫

1993 年 5 月　第 25 回定期総代会

理事長　　仲西常雄
副理事長　名嘉功和　仲田精伸
専務理事　玉城勝治
理　事　　赤嶺吉信　東江正隆　安里ヨシ子　新垣潔　新垣繁信　新垣哲也　新垣梨律子　上原すみ
大兼秀子　神谷亀精　瀬長恒雄　高良初子　名嘉功和　仲里尚実　仲西常幸　西銘宜一
西銘圭蔵　比嘉和男　真栄田義晃　真境名元盛　宮城生慎　宮国茂子　山里将進　山里昌毅
監　事　　嘉陽宗盛　嵩原康夫

1995 年 5 月　第 27 回定期総代会

理事長　　仲西常雄
副理事長　仲田精伸
専務理事　玉城勝治
理　事　　赤嶺吉信　東江正隆　新垣潔　新垣繁信　新垣哲也　新垣安男　新垣梨律子　上原すみ
親川仁志　神谷亀精　具志堅佐栄　小谷良信　城間進次　新城均造　瀬長恒雄　高良初子
田仲末子　仲里尚実　仲西常幸　西銘宜一　西銘圭蔵　比嘉政敏　真境名政子　真境名元盛
宮城生慎　山里昌毅　与儀洋和
監　事　　嘉陽宗盛　嵩原康夫

1997 年 5 月　第 29 回定期総代会

理事長　　仲西常雄
副理事長　新垣繁信　玉城勝治　仲田精伸
専務理事　新垣哲也
理　事　　赤嶺吉信　新垣繁信　新垣安男　新垣梨律子　大島隆義　親川仁志　親川幸隆　神谷亀精
小谷良信　新城均造　高嶺朝広　高良初子　田仲末子　玉城勝治　名嘉正順　仲里尚実
仲西常幸　西銘宜一　西銘圭蔵　比嘉政敏　比嘉隆　真境名政子　真境名元盛　宮城生慎
山里昌毅　与儀洋和　与那修
監　事　　井上むつき　嘉陽宗盛　嵩原康夫

1999 年 5 月　第 32 回定期総代会

理事長　　新垣繁信
副理事長　仲田精伸
専務理事　新垣哲也
理　事　　赤嶺吉信　新垣安男　伊波宏保　大島隆義　親川幸隆　神谷亀精　小谷良信　瀬長理一郎
高良初子　田仲末子　玉城栄史　玉那覇盛善　名嘉正順　仲里尚実　仲西常雄　仲西常幸
中村喜美江　西銘宜一　西銘圭蔵　原国政裕　比嘉政敏　比嘉努　真境名政子　真境名元康
宮城生慎　屋良節子　山里昌毅　与儀洋和　與那嶺幸子
監　事　　井上むつき　嘉陽宗盛　嵩原康夫

2001 年 5 月　第 34 回定期総代会

理事長　　新垣繁信
副理事長　仲田精伸
専務理事　新垣哲也
理　事　　赤嶺吉信　新垣安男　伊集唯行　伊波宏保　伊波秀彰　上原祥典　親川幸隆　神谷亀精
小谷良信　佐久川明美　潮平寛信　瀬長理一郎　高良初子　田仲末子　玉那覇盛善
名嘉正順　仲里尚実　仲田精伸　仲西常幸　中村喜美江　仲程正哲　西銘宜一　西銘圭蔵
原国政裕　比嘉政敏　真境名政子　真境名元康　宮里達哉　宮城生慎　屋良節子　山里昌毅
与儀洋和　與那嶺幸子
監　事　　井上むつき　高良正一　嵩原康夫

2003 年 5 月　第 36 回定期総代会

理事長　　伊集唯行
副理事長　西銘圭蔵　原国政裕
専務理事　新垣哲也
理　事　　赤嶺吉信　新垣安男　伊波宏俊　伊波宏保　嘉数進　親川幸隆　神谷亀精　小谷良信
座波政美　新里吉彦　瀬長理一郎　高良初子　田仲末子　玉那覇盛善　知念幸枝　名嘉正順
仲西常幸　中村喜美江　西銘宜一　比嘉政敏　比嘉努　降旗邦生　平安山良尚　真境名政子
真境名元康　宮国茂子　屋良節子　山里昌毅　与儀洋和　與那嶺幸子
監　事　　井上むつき　高良正一　嵩原康夫

2005 年 5 月　第 39 回定期総代会

理事長　伊集唯行
副理事長　西銘圭蔵　原国政裕
専務理事　新垣哲也
理　事　赤嶺吉信　新垣安男　伊波宏俊　伊波宏保　大城絹江　親川幸隆　小谷良信　座波政美
城間愛子　新里吉彦　田仲末子　玉城利夫　嵩原康夫　知念幸枝　當真嗣州　仲西常幸
仲本政浩　西銘宜一　比嘉政敏　比嘉努　降旗邦生　前田馨　真境名元康　宮国茂子
屋良節子　屋良博一　山里昌毅　与儀洋和
監　事　井上むつき　高良正一　知念正雄

2007 年 5 月　第 42 回定期総代会

理事長　伊集唯行
副理事長　新垣哲也　西銘圭蔵
専務理事　真境名元康
理　事　新垣安男　伊波宏俊　伊波宏保　大城郁男　大城絹江　賀数藤子　喜久本朝善
喜瀬慎全　金城誠一　城間愛子　新里吉彦　田中秀子　田場典正　玉城利夫　嵩原康夫
知名定光　知花盛考　當真嗣州　名嘉座安子　仲西常幸　比嘉政敏　比嘉努　福里時子
前田馨　宮国茂子　屋良節子　屋良博一　山里昌毅　与儀洋和
監　事　井上むつき　高良正一　知念正雄

2009 年 5 月　第 44 回定期総代会

理事長　伊集唯行
副理事長　大城郁男　西銘圭蔵
専務理事　真境名元康
理　事　伊波宏俊　伊波宏保　上原昌義　大城絹江　賀数藤子　香村英俊　喜瀬慎全　佐久川正一
城間愛子　新里吉彦　高嶺朝広　田中秀子　田場典正　玉城利夫　玉城栄史　玉城全一郎
嵩原康夫　知花盛考　當真嗣州　当間智恵子　名嘉共道　名嘉座安子　仲西常幸　仲程正哲
仲本政幸　比嘉努　福里時子　前田馨　屋良博一
監　事　井上むつき　大城謙　高良正一

2011 年 6 月　第 46 回通常総代会

理事長　上原昌義
副理事長　大城郁男　西銘圭蔵
専務理事　真境名元康
理　事　伊泊広二　伊波宏俊　大城一俊　大城絹江　賀数藤子　香村英俊　城間愛子　新里則雄
新里吉彦　平良宗潤　高嶺朝広　田場典正　玉城利夫　玉城栄史　玉城全一郎　知花盛考
當真嗣州　当間智恵子　名嘉共道　名嘉座安子　仲西安子　永山真知子　仲程正哲
仲本政幸　名護宏泰　荷川取直美　福里時子　外間貞明　前田馨
監　事　井上むつき　大城謙　高良正一

2013 年 6 月　第 48 回通常総代会

理事長　上原昌義
副理事長　大城郁男
専務理事　真境名元康
理　事　伊泊広二　伊波宏俊　内村敏雄　大城一俊　大城真千子　賀数藤子　香村英俊　神山藤義
城間愛子　新里吉彦　平良宗潤　高嶺朝広　玉城栄史　玉城全一郎　知花盛考　照屋智恵
名嘉共道　名嘉座安子　仲西安子　永山真知子　長山豊守　仲程正哲　荷川取直美
比嘉努　外間貞明　前田馨　宮良信博　横矢隆宏　湧田廣
監　事　井上むつき　大城謙　高良正一

2015 年 6 月　第 50 回通常総代会

理事長　　上原昌義
副理事長　大城郁男
専務理事　比嘉努
理　事　　秋山幹雄　伊泊広二　稲福勉　伊波宏俊　上原健　内村敏雄　大城一俊　大城真千子
賀数藤子　香村英俊　神山藤義　喜瀬和美　城間愛子　新里昇　砂川淳子　平良宗潤
高嶺朝広　玉城栄史　玉城全一郎　玉城安信　知花盛考　津田智弘　照屋智恵　名嘉座安子
仲程正哲　永山真知子　長山豊守　外間貞明　宮良信博　横矢隆宏
監　事　　大城謙　高良正一　仲西常幸

2017 年 6 月　第 52 回通常総代会

理事長　　上原昌義
副理事長　大城郁男
専務理事　比嘉努
理　事　　秋山幹雄　伊泊広二　稲福勉　上原健　内村敏雄　大城真千子　賀数藤子　嘉数浩明
香村英俊　神山藤義　岸本清　城間愛子　新里昇　鈴木淳市　平良宗潤　高嶺朝広　玉城栄史
玉城全一郎　玉城安信　知花盛考　照屋智恵　仲程正哲　名嘉座安子　永山真知子　長山豊守
西仲ゆかり　西平守伸　藤田義明　外間貞明　宮良信博　横矢隆宏
監　事　　阿部克己　大城謙　山里昌毅

2019 年 6 月　第 54 回通常総代会

理事長　　上原昌義
副理事長　大城郁男
専務理事　比嘉努
理　事　　秋山幹雄　安里嗣淳　伊計ノブ子　伊泊広二　上原健　内村敏雄　大城真千子　大城恵
嘉数浩明　香村英俊　神山藤義　岸本清　喜瀬和美　鈴木淳市　平良宗潤　高嶺朝広
玉城全一郎　玉城安信　玉寄勝光　知花盛考　照屋智恵　名嘉座安子　永山真知子　長山豊守
西仲ゆかり　比嘉勉　藤田義明　外間貞明　宮良信博　横矢隆宏
監　事　　阿部克己　田尻洋章　當間知恵子　山里昌毅

2021 年 6 月　第 56 回通常総代会

理事長　　上原昌義
副理事長　大城郁男　横矢隆宏
専務理事　比嘉努
理　事　　赤嶺光男　秋山幹雄　安里嗣淳　新垣哲治　伊計ノブ子　伊泊広二　上原健　内村敏雄
大城恵　大嶺自章　香村英俊　神山藤義　川上初美　岸本清　金城宏乃　具志純子　高嶺朝広
玉城和美　玉城全一郎　玉寄勝光　知花盛考　照屋智恵　當山留美子　名嘉座安子
永山真知子　長山豊守　外間貞明　宮平守　宮良信博
監　事　　阿部克己　田尻洋章　當間知恵子　山里昌毅　屋良節子

沖縄医療生活協同組合設立趣意書

わたくしたち、働くものは毎日のいとなみのなかで、さまざまな悩みや苦しみをもっています。通貨切りかえによる物価高騰の余波は庶民の台所を圧迫しつづけており、軍事基地は日米共同管理の下で再編強化され県民のいのちや、くらしが脅かされています。なかでも私達が一番困るのは病気です。

復帰にともない健康保険が適用されたとはいえ病気になると何かとお金がかかります。また国民健康保険がまだ実施されていないため約6割の県民は病気のさいの苦しみは依然として深刻です。たとえ実施されたにしても数千円の保険料を納めなければならず、それでも病気の時はさらに3割前後の額を払わなければなりません。

また、現在のこれらの健康保険制度では、予防のための健康診断や注射などはできませんし新しい薬や治療法は使えないなど、さまざまの制限があります。

一方、沖縄における慢性的な医師・医療従事者不足・医療施設の不足に対し政府はその責任を回避してさえおります。

私達は貧富の差別なく、地域の別なく、現代の最高の医療によって生命と健康を守る権利があります。また、そうなるように不断に努力しなければならない義務があります。

今日健康だからといって明日もそうだとは誰が保障できるのでしょうか。広い意味において私達の生命や健康は私達自身の力で守らなければいけません。

私達が常日頃本当に望んでいる医療機関とは次のようなものだと思います。

1. 家庭及び地域の健康管理に協力し、病気を未然に防ぐために積極的な役割を果たすことができる病院。
2. 営利主義でない病院。
3. 緊急の場合は時間外でもみてもらえ、必要な時は往診も行なってくれる病院。
4. 日常親身になって治療や生活相談にものってくれ、ふだん着のままで気がねせずにいける病院。
5. どんな身分・階層の人でも差別されず、平等によい医療がうけられる病院。
6. 医師をはじめ、医療従業員が真剣で親切で良心的な医療をおこなえる病院。
7. みんなの意見や要望で診療内容がよくなり、安心してかかれる病院。
8. さまざまの医療生活問題をみんなと一緒に考え行動を共にする病院。

ということです。これらのことをおこなえる「病院」として70年の末に民主診療所が多くの有志の力により那覇市松尾に誕生し、数々の医療活動がなされてきました。しかし手狭まであり、立地条件も悪くさらに「友の会」などのささえる体制の上でも不十分な面が多々ありました。

みなさん、私達はわれわれ庶民大衆のますます強くなってくる医療への要求をかんがみ、現在の民主診療所の成果や教訓をふまえ、労働者・農漁民・勤労市民・老人や婦人・子供の立場にたった親切で、よい医療をますます発展させるために協同の力による健康や生活を守る組織「医療生活協同組合」を設立することにしました。

そして、その力で今の「民主診療所」を発展的に引きつぎ、当面それを充実強化し、ゆくゆくは沖縄各地にこのような民主的医療機関をふやしていこうと考えています。そうすることによって沖縄の医療機関を私達庶民大衆の立場にたたせ、並びに私達の生命や健康生活を守る保障をみんなの力で一つ一つつくりあげていきたいと考えます。

この趣旨にご賛同され沖縄医療生活協同組合に多数の方が御加入下さいますようお願いいたします。

昭和47年8月

沖縄医療生活協同組合　発起人一同

代表　真喜屋　武

沖縄医療生活協同組合発起人会

代表発起人・真喜屋	武	（民診事務長）	那覇市壷屋町76番地の1
発起人・宮城	正雄	（団体役員）	宜野湾市字大山991
西銘	宜一	（公務員）	大里村字嶺井506番地
内村	敏雄	（団体役員）	那覇市首里寒川町1-25
赤崎	一成	（商業）	〃　字安里80番地
我如古盛仁		（農業）	〃　字真地216番地
比嘉	愛子	（団体役員）	浦添市字安波茶89番地
儀間	竹子	（商業）	那覇市字安謝240番地
松茂良政子		（洋裁）	〃　泊2丁目25の1番地
真境名元盛		（修理工）	〃　字真嘉比233番地
宮平	良徳	（地方公務員）	〃　字松川49番地
屋良	博一	（事務員）	〃　字真地426番地
黒潮	隆	（市会議員）	〃　字与儀195番地
前原	穂積	（団体役員）	〃　首里儀保町4の79
金城	正治	（事務員）	〃　石嶺町4の339の1
當真	嗣隆	（臨床検査技師）	〃　首里石嶺町4丁目93番地
上原	太郎	（農業）	〃　字具志51番地
仲西	常雄	（医師）	浦添市字宮城170番地
島袋	博美	（医師）	那覇市字松尾79番地
平良	ヨシ	（家事）	糸満市字真栄里2049番地
玉城	正治	（農業）	那覇市字国場134
伊波	廣定	（県会議員）	〃　泊2丁目28番地の2
比嘉	恒雄	（団体書記）	〃　若狭3丁目3番地78
砂川	澄子	（労務）	〃　字壷川299番地
当間	恵子	（家事）	〃　山下町1丁目116番地

年　　表

年	月	医療生協のあゆみ	月	県内外
1970	12	・12 月 14 日　沖縄民主診療所を那覇市松尾の旧波平産婦人科あとに開設〔職員　9 人、診療科目（内科・小児科）、午前外来、午後往診、夜間外来〕 ・初日患者数　6 人、2 日目患者数　10 人、3 日目患者数　0 人（雨天） 《最初の月の 1 日平均患者数　8 人》 ・資金：全国カンパ 2,101,482 円（現地カンパも多額） ・首里農協から 1 万ﾄﾞﾙ借入れ	12	12 月 20 日　深夜のコザ市で米兵の交通事故処理をめぐって群衆が決起し、米人の自動車約 70 台を焼き払う（コザ事件）
1971	1	《1 月の 1 日平均患者数　20 人前後》 ・部会活動（組織、教宣、学習）開始 ・往診が増え始める。症例検討会始める ・「診療所だより」第 1 号発行	1	米軍の毒ガス移送
	3	・那覇市国場で「友の会」結成		
	4	・被爆者医療相談はじまる		
	5	《5 月 1 日平均患者数　40 人》 ・医労協準備会としてメーデーに参加	5 6	沖縄返還協定反対ゼネスト 沖縄返還協定、日米で同時に調印
	7	・医療相談活動はじまる ・コザ看護学生との懇談はじまる ・夏期実習（1 週間）はじまる		
	8	・被爆者訪問 ・診療時間変更→午後の診療開始		
	9	・第 1 回那覇市老人健診はじまる		
			10	那覇大綱挽 50 年ぶりに復活
			11	沖縄返還協定反対ゼネスト 医師会、歯科医師会、薬剤師会が国保問題で保険医総辞退を迫る
1972	1	《1 月の 1 日平均患者数　60 人》 ・被爆者調査活動はじまる		
			2	那覇市与儀の米軍ガソリンタンク撤去される
	3	・那覇市老人健診　500 人受診		
	5	・ドル切換えにより、友の会費 1 口 2 ﾄﾞﾙを 1,000 円とする	5	施政権返還
			6	新知事に革新統一の屋良朝苗氏当選
	8	・沖縄医療生活協同組合発起人会発足し、代表に真喜屋武を選任		
	10	・沖縄医療生活協同組合、創立総会開催（とまり病院建設予定される） ・理事長に真喜屋武選出	10	国民健康保険実施
1973	1	・医療生協専務理事に名嘉功和就任		
	2	・往診の増加に伴い遠隔地、深夜往診が増える 《1 日平均患者数　100 ～ 120 人》待ち時間が問題となる	2	琉大国立移管後初の学生募集
	3	・寝たきり老人健診にとりくむ ・病院建設の計画規模が大きくなり、泊の予定地では狭く、土地探しはじまる	3	米軍大敗北、ベトナムより撤退
	4	・一般産業合同労組民診分会結成 ・高血圧患者会結成		
	5	・第 1 回定期総代会開催 ・原爆被爆者一般疾病指定医療機関となる ・名嘉功和、事務長兼任	5	復帰記念若夏国体 石油ショック、全国に広がる
	6	・組合員健診はじまる		
	7	・医師会加盟に伴い、救急当直実施		
	8	・県内初の職業病（全軍労労働者（ｷｰﾊﾟﾝﾁｬｰ）頸肩腕症候群）認定		
	10	・医療生協、創立 1 周年記念祝賀パーティ （組合員 2,027 人、出資金 804 万円）		
	11	・那覇市老人健診実施 ・豊見城村老人健診実施	11	那覇市前島の琉海ビル工事現場で大陥没事故
	12	・病院敷地、豊見城村真玉橋に決定 ・医療生協班 47 班に増える ・印刷労働者の鉛健診はじまる		

年	月	医療生協のあゆみ	月	県内外
1974	3	・「沖縄の民医連病院建設をすすめる医師、医学生、医療従事者の集い」が京都山崎の宝寺で行われ、40 人が参加		
		・糖尿病患者会結成		
	4	・医療生協組織部専従職員 5 人配置される。病院化に向けて職員研修はじまる。5 人の看護婦を他県の民医連に派遣		
		・第 2 回定期総代会開催し、沖縄医療生協長期 10 ヵ年計画を決定	8	ニクソン大統領、ウォーターゲート事件により辞任
	11	・腎臓病患者会結成		
1975	3	・沖縄県保健医療福祉事業団の 4 億円融資決定		
	4	・沖縄協同病院起工式	4	フォード大統領、ベトナム戦争の終結を宣言
			7	沖縄国際海洋博覧会（本部町）開幕
	8	・第 3 回定期総代会開催		
	10	・年金福祉事業団の 5 億円融資決定		
	12	・喘息患者会結成		
1976	3	・沖縄協同病院落成（3 月 22 日開院） 院長：島袋博美　事務長：西銘宜一　婦長：前原秀子 標榜科目：内科、小児科、外科、歯科　ベッド数：139 床 指定：国民健康保険、健康保険、生活保護	3	反戦地主会「沖縄における公用地の暫定使用法」は違憲だとして那覇地裁に提訴
	4	・沖縄民主診療所の新体制 (所長：山里将進　事務長：伊波豊　婦長：垣花和子)		
	5	・沖縄協同病院、労働災害保険指定病院となる		
		・沖縄協同病院、患者送迎バス運行開始（真玉橋⇔病院）		
		・沖縄協同病院、原爆被爆者一般疾病指定医療機関となる		
			6	平良幸市革新県政誕生
	9	・第 4 回定期総代会開催		
	10	・沖縄協同病院、結核予防法指定病院となる		
1977	2	・沖縄協同病院、特定疾患治療研究指定病院となる		
	4	・沖縄協同病院、開設 1 周年記念第 1 回健康まつり開催し、組合員 3,500 人余が参加		
			5	復帰協解散
			6	戦争犠牲者 33 回忌　平和宣言
			7	6 月の県内失業率 7.7%（総理府統計局発表）
	8	・第 5 回定期総代会開催		
		・訪問看護の制度化をめざし 4 地域（松尾、樋川、二中前、楚辺）の寝たきり患者の実態調査実施		
		・沖縄民主診療所移転建設準備会結成		
	9	・第 1 回医療活動交流集会開催		
	10	・沖縄協同病院院長に仲西常雄就任		
		・沖縄協同病院、在宅患者家族の会（だるま会）結成		
		・沖縄協同病院、リウマチ患者会（のぞみの会）結成	11	健保改悪反対、老人医療費有料化反対沖縄県実行委員会結成（9 団体）
1978	1	・沖縄協同病院、人工透析室開設		
	2	・健診車（かりゆし 1 号）購入		
	3	・沖縄協同病院で初の心臓手術に成功		
	4	・沖縄協同病院、県内で初めての夜間透析開始	4	沖縄赤十字病院古波蔵に移転
		・沖縄協同病院、育成医療指定病院となる（腎疾患、心疾患）		
		・第 1 回保健大学開講		
	5	・糸満協同診療所、開設 (所長：上原稔　事務長：前田美佐子　婦長：垣花和子)		
		・第 2 期保健大学開講		
		・第 6 回定期総代会開催		
	6	・組合員 10,000 世帯突破	6	県道 104 号封鎖実弾砲撃演習続く
	8	・第 1 回医療生協盆おどり（後に城岳公園盆踊り大会となる）開催	7	交通方法変更（7・30 ナナサンマル）
		・沖縄県民医連結成　会長：山里将進		
	9	・沖縄協同病院、糖尿病患者会（かりゆし会）結成		
			10	県立平和記念資料館開館
	11	・寝たきり患者の第 2 次実態調査実施		
		・寝たきり患者会（だるま会）初のピクニック		
	12	・かりゆし号伊江島へ（初めての離島健診）	12	西銘保守県政誕生

年　表

年	月	医療生協のあゆみ	月	県内外
1979	1	・沖縄民主診療所、那覇市泉崎に移転、那覇民主診療所に改名 ・第 7 回臨時総代会開催　沖縄協同病院第 2 期工事決定		
			2	米原子力巡洋艦入港
	3	・沖縄協同病院第 2 期工事着工 ・第 1 回医療生協文化祭典開催		
	4	・那覇民主診療所所長に屋冨祖夏樹就任		
	5	・訪問看護の制度化を那覇市に陳情 ・第 8 回定期総代会開催		
	6	・沖縄協同病院、慢性疾患管理室開設 ・糸満協同診療所、夜間診療開始	6	南部徳洲会病院開院 北大東村で女医殺害事件
	8	・沖縄協同病院、外科夜間外来開始		
			10	琉大医学部設置
	12	・第 9 回臨時総代会開催し、組合債利率変更を決定		
1980	3	・沖縄協同病院、第 2 期工事病棟部門完成、新病棟へ移転	3	豊見城中央病院開院 那覇市立病院開院
	5	・第 10 回定期総代会開催　沖縄協同病院の 3 期工事決定		
	6	・沖縄協同病院、ICU 室開設		
			8	県教育委員会、主任制度実施を決定
	9	・沖縄協同病院、産婦人科開設 ・日本生協連医療部会九州・沖縄ブロック組合員研修会沖縄開催 ・糸満地域、第 1 回ゲートボール大会開催		
	11	・沖縄協同病院、CT（全身用コンピューター X 線装置）導入 ・沖縄協同病院、2 期工事落成祝賀会	11	日弁連と沖縄弁護士会、無国籍児の実態調査に乗り出す
	12	・那覇民主診療所、開設 10 周年　記念祝賀会 《沖縄協同病院 1 日平均患者数 400 人突破》	12	真玉橋クリニック開院
1981			2	伊江島の民家に米軍が銃撃
	3	・糸満協同診療所所長に喜納初子就任		
	4	・那覇民主診療所所長に国吉和昌就任	4	浦添総合病院開院
	5	・沖縄協同病院、心臓血管外科・眼科・皮膚科開設 ・第 11 回定期総代会開催	5	県内失業者 3 万人突破
	6	・老人医療費有料化反対医療生協総決起集会開催	6	厚生省、診療報酬を改定（医療機関は打撃を受け、その後倒産するところも現れる）
	7	・沖縄協同病院、救急告示指定病院となる・沖縄協同病院、8 階病棟オープン	7	臨時行政調査会（土光会長）第 1 次答申を鈴木首相に提出。医療福祉への攻撃露骨
	8	・沖縄協同病院、入院助産施設に指定される ・組合員 15,000 世帯突破		
	9	・沖縄協同病院、特二類基準看護承認される 《沖縄協同病院 1 日平均患者数 500 人突破》		
1982	1	・新春のつどい、各地で盛大に行われる（那覇、豊見城、糸満、知念、真和志）	1	中国残留孤児の中に県出身者次々現る
	2	・組合員健診シンポジウム開催	2	中頭病院開院
			3	北谷病院開院
	4	・1 人暮らし、寝たきり老人実態調査始まる ・那覇民主診療所健康文化センター開設（3 階） ・第 1 回糸満地域ピクニック ・豊見城高等学校校医に委嘱される（仲西常雄院長） ・新卒看護婦研修制度スタート		
	5	・第 12 回定期総代会開催	5	復帰 10 周年、「平和の島をつくる 5・15 県民大会」に 25,000 人の県民参加
	6	・医療生協設立 10 周年記念ゲートボール大会 76 チーム 700 人が参加 ・第 2 回軍縮国連特別総会代表派遣（山里昌毅労組委員長）アメリカの入国は拒否され、ボン集会に参加 ・沖縄協同病院小児の喘息（風の子会）結成 ・九州沖縄ナース研修会、真玉橋で開催 ・第 1 回歯の健康まつり		
	7	・沖縄協同病院全床（365 床）オープン		
	8	・1 人暮らし、寝たきり老人実態調査終了	8	南西航空機石垣空港着陸失敗、炎上
	9	・第 5 回喘息児サマーキャンプ（風の子会）実施 ・医療生協、創立 10 周年記念式典及び文化祭典開催（那覇市民会館）		文部省が社会科教科書にある日本軍の県民虐殺の項を削除し、抗議起こる
			11	中曽根内閣発足
			12	全日自労建設一般と一般産業労が組織統合

年	月	医療生協のあゆみ	月	県内外
1983			1	岩手県沢内村議会、60 歳以上の老人医療費の無料制継続を決議
	2	・医療生協駅伝大会開催 ・第 1 回看護工夫展開催	2	老人保健法実施　老人医療を有料化 「老人医療と福祉をよくする沖縄県実行委員会」結成。委員長に仲西常雄院長
	3	・沖縄協同病院、心臓血管センター開設 ・入院患者へのアンケートをまとめ、職員応対「満足」の回答 78％	3	「沖縄教公二法」事件で最高裁が 6 被告の上告を棄却
	4	・那覇民主診療所、糸満協同診療所地域組合員、沖縄協同病院を集団見学	4	老人医療無料化復活要求署名活動開始
	5	・第 13 回定期総代会開催		
	6	・糸満協同診療所所長に仲田精伸就任	6	米海兵隊と自衛隊が沖縄上陸大演習
	7	・沖縄協同病院医事業務のコンピューター化スタート ・那覇民主診療所歯科で障害児の全身麻酔治療に成功		
	8	・ウィークデーの毎日夜間透析開始		
	11	・医療保険大改悪反対医療生協決起集会	10	健保大改悪反対沖縄闘争本部設置
1984	4	・那覇民主診療所所長に山里将進就任 ・中部地域の病院建設推進委員会のもとで、沖縄市を中心に各地域で医療懇談会はじまる ・糸満協同診療所、医療生協組合員の実態調査を実施	2	県医労協結成
	5	・那覇民主診療所、組合員健診に歯科健診を取り入れる ・健保改悪反対を訴えて毎日街頭宣伝 ・那覇民主診療所の慢性疾患管理患者 2 年で 1,000 人突破	5	全国看護協会総会でも健保改悪反対を決議
	6	・3 月 1 日からの薬価改定（大幅引き下げ） ・第 63 回沖縄県医師会医学総会に医療生協から 21 演題で参加。数年来常に最多演題数を保つ ・糸満協同診療所、第 1 回健康教室開講	6	全日本民医連主催「6・20 健保改悪阻止・国民医療を守る民医連中央決起集会」東京 3,300 人
	7	・第 14 回定期総代会開催	7	沖縄県医労協、医療生協主催「7・4 健保改悪反対決起集会」開催
	9	・沖縄協同病院の CT 検査、3 年間で 1 万件突破		
	10	・第 15 回臨時総代会開催　赤字克服、中部協同病院建設、強化月間方針等を決定		「健保改悪」強行採決（10 月 1 日実施、本人 10 割給付が 1 割自己負担に）
	11	・増刊「中央公論」（保存版）が 1985 病院読本を特集、都道府県別「地域の一流病院 1,017 案内」の中で沖縄協同病院を紹介 ・中部協同病院建設推進委員会開催		
	12	・医療生協主催　第 1 回ゲートボール県大会（豊見城高校）		
1985	1	・那覇民主診療所 3 階で健康講話会開催		
	3	・医療生協反核本島縦断駅伝大会 ・沖縄医療生協の病院診療所・非核宣言発表		
	5	・第 16 回定期総代会開催し、理事長に島袋博美就任		
	6	・沖縄協同病院喘息患者会（はつらつ会）発足 ・医療生協の医療経営は 2 期工事以後 3 年間で 4 億 7 千万円の累積赤字をかかえていたが、経営改善努力の結果、黒字決算となる	6	自民党と厚生省、生協活動の規制策動を強化
	7	・中部地域で「歯のまつり」開催		
	9	・糸満協同診療所、診療時間を 1 時間延長 ・医療生協「しらさぎ保育園」の新園舎が豊見城村根差部に完成	9	糸満地域の「くらしと健康を守る市民の会」、糸満市の国保税値上げに反対陳情活動、60％値上げをやめさせる
	11	・沖縄民医連運動 15 周年記念式典と文化祭典開催（那覇市民会館） ・糸満協同診療所、高血圧患者会結成		
1986	3	・医療生協、県医療福祉財団から借りていた 4 億円と利息の返済を完了		
	4	・沖縄協同病院 10 周年記念第 2 回健康まつりを開催し、2,500 人が参加（豊見城高校グラウンド）	4	国民医療を守る県連絡会結成
	5	・中部協同病院の起工式、1,400 人余の参加で盛大に開催		
	6	・那覇民主診療所、医事にコンピューター導入 ・第 17 回定期総代会開催		
	7	・琉大大学会館で「民医連の医療と研修を考える医学生のつどい」を開催し、医学生 25 人が参加		
	10	・全日本民医連呼吸器シンポジウム沖縄開催（自治会館） ・沖縄民医連社保学校開講		
	11	・熊本で開催された「第 1 回九州沖縄地区医学生のつどい」へ沖縄から 5 人が参加		

年　表

年	月	医療生協のあゆみ	月	県内外
1987	1	・沖縄協同病院高血圧患者会「でいごの会」結成	1	厚生省「国民医療総合対策本部」設置。医療費抑制を口実に医療制度の抜本的改悪をすすめるのがねらい
			2	沖縄医療生協労組に組織変更
	3	・しらさぎ保育園、開園 10 周年祝賀会		
		・中部協同病院落成式、祝賀会 2,500 人余で盛大に開催		
	4	・中部協同病院開院　院長に仲里尚実就任	4	医療機関への監督、規制強める「地域医療計画」沖縄県でも策定進む
	5	・第 18 回定期総代会開催		
		・中部協同病院、外来患者 150 人突破	6	厚生省の国民医療総合対策本部中間報告、長期入院患者の追い出しなど 4 つの改悪計画
	7	・第 1 回県連学術集会		
	9	・中部協同病院、物療を始める	9	自民党、マル優廃止を強行
		・沖縄協同病院送迎バス待合所設置（真玉橋側）		
	10	・中部協同病院、、生協強化月間成功をめざす第 1 回大観月会に 600 人が参加		
		・糸満支部結成		
	11	・沖縄協同病院糖尿病患者会（かりゆし会）10 周年記念祝賀会（記念誌も発行）	11	県医労連結成
1988	1	・中部協同病院、慢性疾患グループ活動スタート		
		・看護対策委員会、4 月までに 40 ～ 50 人の看護婦が必要と対策を強化		
		・医療生協、便の潜血検査を組合員健診に導入して大腸がんの早期発見早期治療を図る		
		・中部協同病院、入院患者 100 床突破		
	2	・糸満協同診療所の公設市場内「血圧測定」4 年を経過		
	3	・沖縄協同病院薬局に自動錠剤分包機導入	3	沖縄市知花の金城さん（45 歳）、生活保護を拒否した行政当局への抗議の自殺
		・中部協同病院、訪問看護を開始		
		・沖縄市支部結成		
		・具志川支部結成		
		・那覇支部結成		
	4	・中部協同病院、心臓血管外科外来開始		
	5	・沖縄協同病院、泌尿器科診療開始		
		・中部協同病院、末期ケアーを考える会発足		
	6	・第 19 回定期総代会開催		
	7	・中部協同病院、初の高血圧教室開催	9	消費税粉砕県民集会
	10	・第 17 回民医連全国青年ジャンボリー沖縄開催（ムーンビーチ）		消費税粉砕国民集会（東京 17 万人）
	11	糸満協同診療所 10 周年記念式典及び祝賀会（記念誌発行）	11	革新統一の親泊康晴市長圧勝
1989			1	「地域医療計画」知事に答申される 病床規制はじまる
	2	・健診車（かりゆし 1 号）稼働 10 年、受診者延べ 2 万人余		
		・豊見城支部結成		
	3	・糸満協同診療所、組合員加入と増出資金共に 2 年連続目標達成	3	3・19 全国一斉基地行動沖縄県集会（安保の見える丘）
		・看護婦対策委員会、「組合員にも声かけて看護婦採用の情報を！」と呼びかける		
		・「医療生協だより 96 号」中間施設づくり提起		
			4	消費税実施（3%）
	5	・第 20 回定期総代会開催		
			6	民間総婦長会発足
			7	那覇市、国保税 20％値上げを決める窓口に異議申し立て殺到
	9	・中部協同病院看護研究グループ、末期ケアの学習会開催		
		・沖縄協同病院 7 階病棟の 70 歳以上の患者さんの敬老会開催		
		・劇団銅鑼の「燃える雪」沖縄公演　4,093 人が観劇		
	10	・腎移植推進月間、献腎街頭キャンペーン（沖縄県、医師会、患者会共催）に参加		
		・中部協同病院、歯科開設		
		・中部協同病院、高血圧患者会結成		
			11	国民医療を守る県連絡会、「国民医療の改善を求める全県キャラバン」実施。全市町村と県に陳情

年	月	医療生協のあゆみ	月	県内外
1990	1	・沖縄医療生協理事長名で「本島長崎市長に対するテロ暴力を厳しく糾弾し関係当局へ厳正な調査を」要請する（内閣総理大臣その他宛）	1	厚生省「21 世紀をめざした今後の医療供給体制のあり方」をまとめる医療機関のランク付、差別医療の方針
	2	・沖縄協同病院産婦人科 10 周年記念行事の一つとして「赤ちゃん同窓会」開催 ・県連医療ソーシャルワーカー部結成		糸満市民の会が国保税値上げ反対で市長に陳情
	3	・医療生協組合員加入 3 万人目に糸満市国吉の真栄里保さん	3	診療報酬改定、老人診療報酬に定額払い方式を採用
			4	豊見城村くらしと健康を守る会（準備会）、国保加入への保険証交付を要求して村長交渉
	5	・第 21 回定期総代会開催		
	6	・中部協同病院、病院の夕食時間を 5 時から 6 時に変える ・沖縄協同病院 5 階病棟で患者、職員の作品展開催 ・沖縄協同病院に MRI（磁気共鳴画像診断装置）導入 ・沖縄協同病院構内に立体駐車場設置	7	民間病院総婦長会の看護婦増員県議会請願採択される
	8	・沖縄協同病院リウマチ患者会「のぞみの会」10 周年記念誌発刊祝賀会開催 ・沖縄協同病院第 1 回知念森（ちにんむい）盆おどりの夕べ開催	8	豊見城村くらしと健康を守る会結成
	9	・沖縄協同病院慢性疾患管理 10 周年記念祝賀会開催	9	国民医療を守る沖縄県連絡会主催「医療法を考えるシンポジウム」開催
	10	・全国一斉に医療生協強化月間スタート （組合員と職員の統一行動で 1 日で 80 世帯の拡大） ・中部協同病院、沖縄市の国保手帳未交付者の訪問アンケート調査を実施		沖縄県労連結成
			11	大田昌秀革新沖縄県知事誕生
1991	1	・湾岸戦争に反対して 4 院所で緊急抗議集会開催	1	米軍を主体とする多国籍軍がイラク空爆を開始
	2	・特別強化月間とりくむ（2 月、3 月）　1 カ月間で組合員 456 世帯を拡大	2	全国植樹祭、糸満市米須での開催を決定
				県立沖縄看護学校落成
	3	・第 22 回臨時総代会開催　第 2 次長期 5 カ年計画を採択。定款変更（総代会を年 2 回、前期・後期に開催を決める） ・保健大学を「保健学校」に名称変更して再開	3	「慰霊の日」存続決定
	4	・那覇支部第 1 回健康まつりを開催し、300 人が参加 ・渡嘉敷島に班結成		
	5	・糸満協同診療所所長に仲程正哲就任 ・医療生協、健康管理部設置 ・第 23 回定期総代会を開催し、第二次長期 5 カ年計画決定、専務理事に玉城勝治就任		
			6	長崎県の雲仙普賢岳東斜面で火砕流が続発
			8	那覇市議会「那覇市個人情報保護条例」全会一致で可決（92 年 4 月施行） 自治省、沖縄県の人口が 1,241,387 人と発表
	9	・沖縄協同病院で透析患者用送迎バス運行 ・沖縄協同病院、政府管掌健康保険成人病予防検診委託施設指定される ・首里支部結成	9	沖縄市の渡名喜元完さん（106 歳）が男性長寿日本一となる
			10	海部首相退陣を表明
	11	・雲仙普賢岳災害に医療支援はじめる ・第 3 回健康まつりを開催し、5,500 人が参加（豊見城総合グラウンド） ・全日本民医連糖尿病シンポジウム沖縄開催（豊見城中央公民館）	11	宮沢内閣発足
	12	・中部協同病院 1 日外来患者数 250 人突破	12	ソ連邦消滅
1992	1	・各地域恒例の組合員「新春のつどい」首里、浦添地域でもはじめて開催	1	老人医療費の「無料化」を求める研究討論集会、公開シンポジウムを沖縄で開催（県内外から 1,000 人参加）
	3	・第 24 回定期総代会（前期）開催 ・那覇支部結成	3	老人医療費無料化を求める新聞意見広告に 2,000 人が応募
	4	・糸満協同診療所所長に島袋隆就任	4	診療報酬改悪
	5	・第 24 回定期総代会（後期）開催し、首里に診療所建設を決定		
			8	不況深刻化、大型景気対策発動
	10	・医療生協、創立 20 周年　記念式典開催（2 部は郷土芸能）	10	自衛隊をカンボジアへ派遣

年　表

年	月	医療生協のあゆみ	月	県内外
1993	2	・第 25 回定期総代会開催		
	3	・真和志支部結成		
		・浦添支部結成		
		・沖縄協同病院に健診室開設		
	4	・沖縄協同病院院長に仲田精伸就任		
		(理事長に仲西常雄就任)	7	北海道南西沖地震
	7	・沖縄協同病院で人工呼吸器の助成を県に陳情	9	台風 13 号猛威、久米島で被害
			10	沖縄全県でウリミバエ根絶
1994	2	・第 26 回定期総代会開催		
	3	・真和志支部、那覇支部、小禄地域が合同で「春の大ピクニック」開催		
		・知念支部結成		
	4	・那覇地域で第 1 回社保学校開催		
	6	・全国組合員交流集会に沖縄から 11 人が参加	6	村山政権誕生
	7	・首里協同クリニックの起工式と祝賀会開催		
	9	・「かりゆし 1 号」→「成人病健診車」購入		
	10	・班長、総代の宿泊研修会開催	10	入院給食が患者負担へ
		・沖縄協同病院、オーダリングシステム導入		
			11	知事選で大田氏が再選
	12	・那覇民主診療所に老人デイケア開設		消費税 5%へ
		・組合員 40,000 世帯に到達		
1995	1	・首里協同クリニック開設　所長に長堂朝圭就任	1	阪神大震災死者 5,500 人余
		・阪神大震災の支援に職員 14 人派遣		
	2	・第 27 回定期総代会開催（前期）		
		・中部協同病院に骨密度測定装置導入		
	3	・医療生協と民医連で 26 市町村議会に「国保改悪反対」の陳情	3	オウム真理教地下鉄サリン事件発生
	4	・糸満協同診療所の所長に嵩原安彦就任		
		・首里協同クリニックに老人デイケア開設		
	5	・第 27 回定期総代会開催（後期）し、老健施設建設用地の購入を決定	5	1 万 7 千人が「米軍普天間基地」包囲行動
			6	「平和の礎」が完成
	7	・沖縄協同病院で脳外科 24 時間救急を開始		
	8	・中部協同病院にリウマチ外来開設	8	県公文書館が開館
	9	・沖縄協同病院「救急医療功労」で県知事と豊見城村消防本部から表彰	9	米兵による少女暴行事件発生
		・沖縄医療生協シンボルマークが決定	10	少女暴行事件糾弾県民総決起大会に 85,000 人余参加
			11	第 2 回世界のウチナーンチュ大会開催 村山内閣総辞職
1996	1	・小禄支部結成	1	北海道トンネル崩落事故
	3	・沖縄協同病院、開設 20 周年	2	普天間基地返還で合意
		・訪問看護ステーション「とよみ」開設　所長に照屋智恵就任		
	4	・沖縄協同病院　心療内科外来開設	4	O157 食中毒で死亡者
		・沖縄協同病院　医療安全整備委員会発足		
	5	・第 28 回定期総代会開催		
			7	基地問題問い県民投票　地位協定見直しと基地整理縮小賛成 89%
	11	・中部協同病院に老人デイケア開設	11	沖縄都市モノレール着工 狂牛病問題、ヨーロッパでパニック
	12	・沖縄協同病院にリハビリ外来開設		
1997	1	・沖縄協同病院に老人デイケア開設		
		・南風原支部結成		
	2	・「医療大改悪反対、消費税増税ストップ、厚生省汚職徹底究明 2・14 中央大集会」	2	屋良朝苗氏死去
	4	・那覇民主診療所所長に津嘉山貞夫就任	4	米軍用地特措法改正
		・糸満協同診療所所長に上原幸盛就任		
		・首里協同クリニック所長に高嶺朝広就任		
		・沖縄協同病院で「病院利用委員会」発足		
		・医療生協那覇支部と那覇民商の共催で「市場健康チェック」開催		
		・中部協同病院で「病院利用委員会」発足		
	5	・第 29 回定期総代会を開催し、専務理事に新垣哲也就任		

年	月	医療生協のあゆみ	月	県内外
1997			6	臓器移植法が成立
	7	・医療生協「健康宣言家族」をとりくむ	7	喜屋武真栄氏死去
		・「平和を守る三者協（医療生協、民医連、医療生協労組）」海上基地建設反対で辺野古現地へ激励行動		
	8	・第 20 回城岳公園盆踊り大会を開催し、2,000 人余が参加	8	エルニーニョ異常気象
	10	・第 10 回中部地域大観月会を開催し、1,000 人余が参加		
		・「海上基地建設反対、医療改悪許すな」10・21 県民集会		
	11	・医療生協設立 25 周年記念「第 4 回健康まつり」開催		
	12	・豊見城支部事務所を開設	12	海上基地建設で名護市住民投票
1998			2	長野冬季五輪開催
	3	・第 1 回沖縄医療生協学校開催		
	4	・糸満協同診療所が新装移転		
	5	・第 30 回定期総代会開催	5	5・17 米軍普天間基地県民大包囲行動(16,000 人)
			7	小渕政権誕生
	9	・訪問看護ステーション「いずみ」開設　所長に仲島律子就任		
	10	・浦添協同クリニック開設　所長に諸見川純就任		
		・沖縄協同病院透析室、開設 20 周年祝賀会		
			11	稲嶺恵一知事誕生
				沖縄県失業率 9.2％を記録
1999	2	・第 31 回臨時総代会開催	2	臓器移植法による初の脳死移植
	4	・世界保健デー 4・7 街角健康チェック実施（662 人が健康チェック）	4	沖縄尚学高校が春の甲子園で優勝
		・中部協同病院院長に原国政裕就任		
		・那覇民主診療所所長に上原和博就任		
	5	・那覇市在宅介護支援センター「泉崎」開設　所長に城間愛子就任	5	新ガイドライン法成立
		・第 32 回定期総代会を開催し、理事長に新垣繁信就任		
		・中部協同病院、49 床を療養型病棟に転換		
	6	・老健施設「かりゆしの里」開設　所長に仲里尚実就任		
		・中部協同病院で院外処方箋発行		
	7	・沖縄市在宅介護支援センター「美里」開設　所長に比嘉節子就任		
	8	・名護支部結成	8	国旗国歌法成立
	9	・外来電子カルテシステム自社開発	9	東海村で国内初の臨界事故
	10	・沖縄協同病院で「更年期外来」開始		
2000	1	・沖縄協同病院で集中治療室（ICU) 改装移転		
			2	米大統領にブッシュ氏
			3	ロシア大統領にプーチン氏
	4	・沖縄協同病院付属とよみ診療所を開設　所長に又吉嘉伸就任	4	介護保険制度スタート
		・沖縄協同病院、「臨床研修指定病院」を取得		
		・医療生協居宅介護支援事業所開設（9 事業所）		
		・ホームヘルプサービス事業所開設（3 事業所）		
		・中部協同病院、一部カルテ開示開始		
			5	小渕首相死去
	6	・第 33 回定期総代会開催	6	雪印食中毒
		・「ジャンプ 2000 大阪虹のつどい」に沖縄から 91 人が参加		
		・仲西常雄医師、衆院選出馬	7	三宅島噴火
	7	・「患者の権利とカルテ開示」の大学習会開催		「人間の鎖」で嘉手納基地包囲行動（25,000 人余参加）
				沖縄サミット開催　守礼の門の二千円札発行
	9	・沖縄協同病院構内駐車場整備、有料化へ	9	シドニー五輪開催
	10	・沖縄協同病院に「心療科」開設	10	65 歳以上も介護保険料徴収
			11	2000 年日本平和大会 in 沖縄開催
				沖縄のグスク群が世界遺産登録
				那覇市 32 年ぶり保守市制になる
	12	・那覇民主診療所、開設 30 周年		医療過誤多発

年　表

年	月	医療生協のあゆみ	月	県内外
2001	1	・那覇民主診療所、開設 30 周年記念祝賀会		
	2	・沖縄協同病院にマルチスライス CT 装置を導入		
	4	・「医生協だより」→「沖縄医療生協だより」へ題字、色、発行日変更	4	小泉内閣発足
	5	・第 34 回定期総代会開催		
		・首里協同クリニック所長に知念巧就任		
	6	・九州・沖縄ブロック組合員交流研修会を沖縄で開催 （10 生協から 360 人参加）		
	8	・名護支部で保健学校スタート	9	国内初の狂牛病発生 米中枢同時多発テロ
	10	・中部地域で第 1 回健康まつりを開催し、1,000 人余が参加	10	米のアフガン報復攻撃 瀬長亀次郎氏死去
	11	・沖縄協同病院に「耳鼻咽喉科」開設	11	第 3 回世界のウチナーンチュ大会開催
	12	・浦添地域で第 1 回健康まつり開催		ハンセン氏病訴訟で県内患者も補償
2002	3	・沖縄協同病院、高性能のアンギオ（血管撮影）装置導入	3	看護婦→看護師へ変更
		・明るいまちづくり、「夢マップ」講習会開催		
	4	・浦添協同クリニック所長に上間進就任	4	豊見城村が市に昇格　具志川村と仲里村の合併で久米島町となる
		・中部協同病院付属美里診療所開設（往診専門）　所長に幸地英子就任		
	5	・第 35 回定期総代会開催	5	「医療改悪反対」県民集会
	6	・「まちづくり ing 全国交流集会」（神戸）へ 26 人参加		
		・第 1 回 2 級ヘルパー養成事業開始し、25 人受講		
	9	・沖縄医療生協設立 30 周年記念講演会　講師：三上満氏		
	10	・沖縄医療生協設立 30 周年記念レセプション	10	本土復帰 30 年を迎える
		・沖縄医療生協設立 30 周年記念第 5 回健康まつりへ 1 万人が参加		北朝鮮の拉致被害者 5 人帰国
		・医療生協組合員 50,000 世帯達成		泡瀬沖合の埋め立て着工
		・新垣繁信（歯科医師）が沖縄県知事選挙出馬		
			11	国営沖縄記念公園内に「美ら海水族館」オープン
	12	・沖縄医療生協設立 30 周年記念「赤ひげ」公演に 1,450 人余が参加		
		・「わったあ病院」ビデオ完成。発売		
2003			2	県社保協、乳幼児医療費助成で県へ要請
	3	・第 2 回医療生協学校 28 人が修了	3	イラク攻撃反対県民大会　与儀公園
		・新沖縄協同病院敷地購入		
		・医療生協、創立 30 周年祝賀会		
	4	・第 2 回組合員活動交流集会開催	4	健康保険本人・家族原則 3 割負担に
		・臨床研修病院群プロジェクト群星が発足		
	5	・第 36 回定期総代会を開催し、理事長に伊集唯行就任		
		・浦添協同クリニック利用委員会発足		
	6	・第 2 回ホームヘルパー養成講座開始		
	7	・九州、沖縄ブロック組合員交流研修会の成功をめざす「演芸の夕べ」開催（中部地域）		
	8	・医療生協初の「夏休み親子平和バスツアー」開催	8	沖縄都市モノレール「ゆいレール」開通
	12	・健康づくりプロジェクト開始		
2004			1	陸上自衛隊がイラクへ派遣
	2	・第 37 回臨時総代会開催		
	3	・伊江島支部結成		
		・第 3 回組合員活動交流集会開催		
	4	・首里協同クリニック所長に喜久本朝善就任	4	4・15 年金改悪反対、全国統一行動
	5	・第 38 回定期総代会開催	5	5・16 普天間基地包囲行動
	6	・中部協同病院　増改築記念祝賀会	7	基地建設阻止座り込み 100 日集会
	8	・米軍ヘリ墜落事故で内閣総理大臣、外務大臣、防衛大臣、県当局に抗議と申し入れ	8	沖縄国際大学に米軍大型輸送ヘリコプターが墜落・炎上
	9	・協同にじクリニック起工式		米軍ヘリ墜落糾弾、普天間基地即時無条件撤去緊急集会
	10	・グラウンドゴルフ大会開催	9	宜野湾市民大会
		・WHO 世界ウォークイベント		
	11	・医療生協　辺野古の座り込み行動開始		
	12	・石川支部結成		
		・中部協同病院、透析室開設		
		・「新病院建設について」職員集会（沖縄都ホテル）		

年	月	医療生協のあゆみ	月	県内外
2005	2	・協同にじクリニック開設　所長に屋富祖夏樹就任 ・生協総合ケアセンター開設	2	辺野古で座り込み 300 日集会 憲法改悪・大増税反対・平和と社会保障を守れ 2・25 県民集会
	3	・国場にじハウス開設 ・第 4 回組合員活動交流集会開催		
	4	・しらさぎ保育園閉園		
	5	・第 39 回定期総代会開催 ・宜野湾支部結成	5 6 7	5.15 普天間基地包囲行動 改正「介護保険法」が成立 金武町実弾射撃訓練反対県民集会
	8	・班会テーマ・班活動発表会 ・沖縄協同病院で外科救急開始	8	辺野古ボーリング調査阻止座り込み 500 日集会
	10	・WHO 世界健康ウォークを開催		
	11	・新沖縄協同病院群建設基本構想（案）組合員討論集会 ・読谷支部結成	11 12	普天間基地即時閉鎖・撤去、基地の県内移設に反対する県民総決起集会 新基地建設反対海上パレード （56 隻 300 人参加）
2006	1	・読谷支部、初の健康ウォーク開催	1	米軍機墜落糾弾 1・23 抗議集会
	3	・第 5 回組合員活動交流集会開催 ・与那原支部結成	3	新基地建設反対県民総決起大会（35,000 人が結集）
	4	・沖縄協同病院院長に西銘圭蔵就任 ・中部協同病院院長に与儀洋和就任 ・協同にじクリニック所長に又吉嘉伸就任 ・那覇市地域相談センターにじ開所	4	南部医療センター・こども医療センター開院 介護保険制度、ホテルコスト徴収へ
	5	・第 40 回定期総代会開催	5	許すな基地強化　5・25 緊急県民大会
	6	・沖縄協同病院機能評価認定	6	第 5 次医療制度改悪
	8	・沖縄協同病院 30 周年記念講演＆ライブ開催 ・医療生協初のボランティア学校開催		
	9	・第 1 回全県グラウンドゴルフ大会		
	10	・デイサービスとよみ開設　施設長に山里良枝就任 ・WHO 世界健康ウォークを開催 ・医療生協のホームページ開設	10	パトリオット配備反対 10・21 県民大会
	11	・沖縄協同病院に皮膚科開設	11	仲井真弘多知事誕生
	12	・第 41 回臨時総代会開催 ・医療生協　辺野古座り込み行動 2 周年記念学習、交流会		
2007	3	・第 6 回組合員活動交流集会開催		
	4	・中部協同病院、開設 20 周年	4	4・28 キャンプシュワブ基地包囲行動
	5	・第 42 回定期総代会を開催し、専務に真境名元康就任 ・沖縄協同病院統合型電子カルテ運用開始 ・沖縄協同病院 7 対 1 入院基本料算定用件取得 ・ISO9001 認定（中部協同病院、那覇民主診療所、糸満協同診療所、首里協同クリニック、浦添協同クリニック、協同にじクリニック、かりゆしの里、本部）	5 6	消費生活協同組合法が改正される 改憲手続法（国民投票法）成立 5・13 嘉手納基地包囲行動 沖縄戦の歴史歪曲を許さない県民大会
	7	・首里協同クリニック所長に宮城道夫就任	7	参院選・革新糸数慶子氏当選
	8	・那覇民主診療所所長に嘉陽信子就任 ・第 30 回城岳地域盆踊りの夕べ開催	9	教科書検定意見撤回を求める県民大会開催 11 万 6 千人が参加
	9	・協同にじクリニック所長に仲西常雄就任 ・第 2 回全県グラウンドゴルフ大会開催		安倍首相辞任、政権投げ出し
	10	・中部協同病院 20 周年記念「演芸の夕べ」へ 700 人余が参加	11	日米軍事同盟打破、基地撤去「日本平和大会 in 沖縄」開催
	12	・新沖縄協同病院建設起工式・記念祝賀会 ・中部協同病院 20 周年記念レセプションへ 200 人余が参加	12	後期高齢者医療制度の中止・撤回を求め各地でシンポジウムや学習会、講演会開催
2008	1	・中部協同病院 20 周年記念誌発行		
	3	・第 7 回組合員活動交流集会開催 ・西原支部結成	3	米兵の事件事故に抗議する 3.23 県民大会開催
	4	・老健施設「かりゆしの里」所長に伊集唯行就任 ・沖縄協同病院、DPC 対象病院へ ・組合員健診が「特定健診」に基づく「健康づくり健診」に変わる	4	後期高齢者医療制度実施

年　表

年	月	医療生協のあゆみ	月	県内外
2008	5	・第 43 回定期総代会開催		
		・糸満協同診療所、開設 30 周年記念祝賀会		
		・米海兵隊員が中部協同病院に侵入、器物損壊事件発生、沖縄署に告訴		
		・那覇民主診療所歯科、協同にじクリニック歯科と統合へ		
	6	・沖縄協同病院、小児科医は白衣から、かりゆしウェアへ変更		
	7	・組合員証がカード式に変わる	7	辺野古新基地建設反対 7・17 緊急県民集会
	8	・介護ウェーブのつどい開催	8	沖縄民医連 30 周年記念レセプション開催
	9	・第 3 回全県グラウンドゴルフ大会開催	9	福田首相辞任・政権投げ出し
		・沖縄協同病院、県内で 6 番目の内科教育病院に認定される		
	10	・中部協同病院、救急医療関係功労者知事表彰	10	キャンプハンセン早朝抗議 3 周年集会
		・浦添協同クリニック、開設 10 周年記念祝賀会		
		・WHO 世界健康ウォークを開催		
	11	・第 6 回沖縄医療生協健康まつり開催	11	原潜寄港許すな！反対集会
		・沖縄協同病院、午前午後とも院外処方箋調剤になる		
	12	・豊見城支部解散（座安・伊良波・上田・とみしろ・とよみ・長嶺支部結成）		
2009	2	・与勝支部結成	1	産科医療補償制度始まる
	4	・大宜味支部結成		
	5	・沖縄協同病院　落成祝賀会（古蔵中学校体育館）	5	裁判員制度スタート
		・第 44 回定期総代会開催		
		・首里協同クリニック所長に島津光邦就任		
	6	・沖縄協同病院、古波蔵へ新築移転し、院長に仲程正哲就任		
		・とよみ生協病院開設、院長に高嶺朝広就任	7	改正臓器移植法（脳死は人の死）が成立
		（10 対 1 入院基本料、回復期リハビリ病棟入院料　85 床）		
		・かりゆしの里、開設 10 周年記念祝賀会		皆既日食
	7	・第 32 回組合員交流研修会 in 沖縄開催	9	自公政権から民主党鳩山政権になる
	10	・安謝高齢者施設開設、施設長に大城貴子就任		
		・とよみ生協病院、リニューアル工事開始		
		・WHO 世界健康ウォークを開催		
2010	3	・生協本部、とよみ生協病院 8 階へ移転		
		・デイサービスとよみ、とよみ生協病院 7 階へ移転		
		・小禄支部解散（小禄北支部・小禄南支部・小禄西支部結成）		
		・浦添支部解散（浦添きた支部・浦添みなみ支部結成）		
	4	・那覇支部を分割して那覇南支部結成	4	普天間基地移設反対県民大会開催
		・とよみ生協病院、3 階に入院透析治療室開設（18 床）		
	5	・第 45 回通常総代会開催（定期→通常に変更）		
		・美里高齢者施設開設、施設長に稲嶺清美就任	6	小惑星探査機「はやぶさ」帰還
		・真和志支部解散（真和志みなみ支部、真和志あがり支部、真和志西支部結成）		鳩山首相、辞任（普天間基地移設迷走）
	7	・伊集唯行医師、参院選出馬		菅内閣発足
		・日本医療福祉生活協同組合連合会創立総会開催（7/6）		沖縄赤十字病院、与儀に新築移転
	10	・日本医療福祉生活協同組合連合会事業開始（10/1）		
		・無料低額診療開始		
		・医療生協、安全・安心推進研究会開催	8	興南高校、甲子園春夏連覇
		・WHO 世界健康ウォークを開催		
	11	・組合員加入用紙変更		
	12	・糸満支部を分割して、糸満南支部結成		
2011	3	・第 3 回文化祭典開催（豊見城中央公民館）	3	東日本大震災死者・不明者約 2 万人
				東電福島第一原発事故で深刻な放射能汚染
	4	・やんばる協同クリニック開設、所長に島津光邦就任		民医連、東日本大震災支援に 3/14 から派
		・首里協同クリニック所長に伊集唯行就任		遣開始
	5	・とよみ生協病院、ISO 認定		
		・沖縄協同病院、病院機能評価更新認定		
	6	・第 46 回通常総代会開催、理事長に上原昌義就任	6	日米地位協定の改定を求める県民大会開催
	7	・老健施設「かりゆしの里」施設長に西仲ゆかり就任	7	TV・地デジ移行
		・沖縄協同病院、365 日リハビリテーション開始		
	8	・沖縄協同病院、外来心臓リハビリテーション開始	8	菅首相辞任
	9	・沖縄協同病院、血管撮影装置 2 号機稼働開始	9	民主党、野田内閣発足
	10	・WHO 世界健康ウォークを開催	11	健康保険証カード化
	11	・沖縄医療生活協同組合 40 周年記念事業実行委員会立ち上げる	12	防衛局が辺野古環境影響評価書を県庁に強
		（健康まつり、祝賀会、講演会、記念誌）		制搬入

年	月	医療生協のあゆみ	月	県内外
2012	3	・具志川支部解散（うるま具志川南支部・うるま具志川北支部結成）		
			6	日米両政府、危険な米軍輸送機ＭＶ 22 オスプレィの普天間配備を発表
	4	・グループホーム安謝開設		
	6	・第 47 回通常総代会開催	7	ロンドン五輪開幕
		・沖縄協同病院、HCU を開設		「さよなら原発 10 万人集会」東京
				抗議の中オスプレイ 12 機岩国基地へ陸揚強行
				「原発廃炉・再稼働反対」20 万人国会包囲
			8	消費税増税を柱とする社会保障・税一体改革関連法 8 法案が民主、自民、公明等の賛成多数で成立（14 年 8%、15 年 10%）
	9	・協同にじクリニック所長に上間進就任	9	オスプレイ配備反対県民大会
		・浦添協同クリニック所長に嘉数健二就任		
	10	・医療生協、創立 40 周年		
		・とよみ生協病院にて東日本第震災避難者検診を実施		
	11	・中部協同病院、開設 25 周年	11	「オスプレイ配備撤回！米兵による凶悪事件糾弾！御万人大行動」に 3000 人
2013	2	・小規模多機能ホーム石川にじの家、開設	1	全 41 市町村長や県議会各会派が署名した「建白書」を携え、復帰後最大の上京要請となる「東京行動」
	3	・沖縄医療生協、創立 40 周年　記念祝賀会開催	3	南ぬ島石垣港開港
		・やえせ支部結成		
		・沖縄市支部解散（沖縄がんじゅう支部・沖縄がじゅまる支部結成）		
	4	・那覇市地域包括支援センター古波蔵開設	4	政府の主権回復・国際社会復帰式典に抗議する『4・28「屈辱の日」沖縄大会』で 1 万人を超える参加者
	5	「医・食・住・環境」の再生をめざすシンポジウムを JA 沖縄・県医師会・民医連と共催で開催	5	嘉手納基地所属 F15 戦闘機が国頭村沖に墜落
	6	・第 48 回通常総代会開催		返還地の沖縄市サッカー場から枯葉剤を製造していた米企業の名前が入ったドラム缶が見つかる
		・生協にじっこ保育園開園		
	10	・とよみ生協病院 透析センター、開設	8	嘉手納基地所属の HH60 救難ヘリがキャンプ・ハンセン内に墜落炎上し、ダム汚染を懸念して取水停止
		・かりゆしの里施設長に永山孝就任		
	11	・沖縄医療生協が厚生労働大臣表彰を受賞	11	県外移設を掲げて当選した県関係の自民党国会議員 5 氏がへ
			12	特定秘密保護法が可決、成立
				石垣市の白保根田洞窟遺跡で 2 万 6 千年前の人骨が見つかり国内最古を更新
2014	1	・那覇民主診療所、新築移転	1	国家安全保障局発足
		・国場にじハウス開所（那覇診有料老人ホームへ）		名護市長選挙、稲嶺ススムさん再選
	2	・石川にじの家、開設 1 周年	2	南城市玉城のサキタリ洞遺跡から国内最古の貝製装飾品を発見、人骨も同時に見つかり人類の活動痕跡としても国内最古
	3	・福島こども保養プロジェクト	3	座間味、渡嘉敷両村の慶良間諸島が国立公園に指定される
		・首里支部解散（首里東支部・首里西支部結成）		
	4	・沖縄協同病院が JCEP（卒後臨床研修評価機構）の認定を受ける（5 月 1 日より開始）	4	与那国町にて陸上自衛隊沿岸監視部隊の駐屯予定地の起工式が開かれる
				消費税 8%へ
	6	・第 49 回通常総代会開催		韓国旅客船「セウォル号」沈没、304 人死亡・行方不明
	7	・かりゆしの里施設長に大宜見辰雄就任	7	集団的自衛権行使の閣議決定
	8	・沖縄協同病院の夜間慢患（内科）外来がとよみ生協病院へ移転	8	広島市で豪雨に伴う土砂災害、74 人死亡
	9	・糸満協同診療所、移転祝賀会	9	御嶽山が噴火、57 人死亡、6 人行方不明
		・中部協同病院、平成 26 年度救急医療功労者厚生労働大臣受賞		
	11	・辺野古座り込み 10 周年行動	11	「県民は屈しない！みんなの思い一つに！10・9 県民大行動」3800 人集まる
				11・16 沖縄県知事選挙　翁長雄志知事誕生
				衆議院選挙　オール沖縄候補 1 区～ 4 区全員当選
			12	特定秘密保護法施行

年　表

年	月	医療生協のあゆみ	月	県内外
2015	1	・首里協同クリニック、開設 20 周年 ・かりゆしの里施設長に喜納初子就任	1 2	伊良部島と宮古島を結ぶ「伊良部大橋」開通 「辺野古への新基地建設工事強行に抗議する」県民集会約 2800 人
	2	・協同にじクリニック、開設 10 周年 ・沖縄協同病院で DMAT 発足	3	「止めよう辺野古新基地建設！美ら海を守ろう！県民集会・海上行動」3900 人
	3	・沖縄医療生協子ども健康まつりをコープおきなわと共催 800 人余が参加	4	県内最大の売り場面積を持つイオンモール沖縄ライカムが開店
	4	・名護支部解散（なご支部・名護北支部・屋部支部結成） ・第 1 回子ども健康まつりを開催、800 人が参加	5	「うちな～んちゅ　うしぇ～てぃないびらんど～　歴史に残る県民大会！」に 35,000 人
	6	・デイサービスとよみ、とよみ生協病院の通所リハビリへ移行 ・第 50 回通常総代会開催	8	米軍 H60 ヘリ、伊計沖で墜落 戦争法反対国会前 12 万人、全国 1000 か所
	7	・沖縄医療生協専務理事に比嘉努就任	9	知事訪欧、国連人件理事会で演説
	10	・首里協同クリニック所長に新垣安男就任	10	マイナンバー制度がスタート
	11	・糸満協同診療所、新築移転 1 周年記念を祝う会	11	知事と国の「辺野古新基地建設攻防」が法廷闘争に突入、国が代執行訴訟を起こす
	12	・糸満市と「見守りちゃーびら隊協定」を締結		パリ同時多発テロ発生、死者 120 人以上
2016	1	・新春シンポジウムにて映画監督の三上智恵氏の講演会 601 人参加	1	沖縄県企業局は北谷浄水場の水源である河川等から PFOS・PFOA が検出されたと発表 沖縄本島で初めて降雪観測、名護市と久米島でみぞれを観測 高浜原発再稼動（3 月停止）
			2	沖縄の子どもの貧困率 29.9％、全国を 2 倍近く上回る TPP 協定、正式合意
	3	・沖縄協同病院、開設 40 周年	3	女性暴行殺害事件で元海兵隊軍属の被告を逮捕
	4	・沖縄協同病院 DMAT 熊本地震初出動 ・かりゆしの里施設長に國仲美奈子就任	4 5	熊本地震 「元米兵による残虐な蛮行糾弾！犠牲者を追悼し米軍の撤退を求める緊急県民集会」4000 人 オバマ米大統領、広島初訪問
	5	・石川にじの家、開設 3 周年記念文化行事	6	沖縄県議会議員選挙、翁長政権を支える与党 27 議席に躍進 『「在沖海兵隊の撤退」を求めて 6 万 5 千人終結し事件に抗議！』県民大会
	6	・第 51 回通常総代会開催 ・沖縄協同病院の物療室がとよみ生協病院へ移転診療	7	参議院選挙にて伊波洋一氏が現職大臣に 10 万票差をつけて圧勝
	7	・真和志みなみ支部に子どもサポートチーム古波蔵班結成し、子ども食堂を開始	8	2020 東京五輪の追加種目に沖縄発祥とされる「空手」など 5 競技を承認 伊方原発再稼動
			9	本島東沖に AV8B ハリアー戦闘攻撃機が墜落
	10	・沖縄協同病院が病院機能評価 3rdG:Ver1.1 を取得 ・医療生協本部まちづくり推進部を設置	10	東村高江にてヘリパッド工事に抗議する市民に対して大阪府警派遣の機動隊員から「土人」発言
	11	・協同にじクリニック所長に東盛靖就任	12	名護市安部の海岸にオスプレイが墜落、6 日後には飛行再開 嘉手納基地内で P8A 対潜哨戒機が前輪破損の重大事故
2017	1	・中部協同病院、旧中頭病院へ仮移転 ・那覇市地域包括支援センター古波蔵、協同にじクリニック 2 階へ移転	1	うるま市伊計島の農道に普天間所属 AH1Z 攻撃ヘリが不時着 米大統領にトランプ氏就任
	3	・南城市支部結成 ・沖縄医療生協とコープおきなわが「事業および地域活動の協力に関する協定書」を調印	3	マレーシア国際空港で金正男暗殺事件 金武町中川区と宜野座村城原区の境界線付近で米軍機 UH1 ヘリが、吊り上げていた複数のタイヤを落下
	4	・中部協同病院、開設 30 周年 ・離島での支部づくりに向けて、宮古島・石垣島で医療懇談会を開催 ・那覇市総合事業（住民主体型通所サービス補助金事業）で小禄はつらつ健康教室を開講 ・協同にじクリニック所長に仲嶺均就任	4	安倍首相が憲法 9 条改憲を発表
	6	・とよみ生協病院が日本看護協会カンゴサウルス賞を受賞 ・第 52 回通常総代会開催	6	大田昌秀元知事が死去 高江座り込み 10 周年報告会

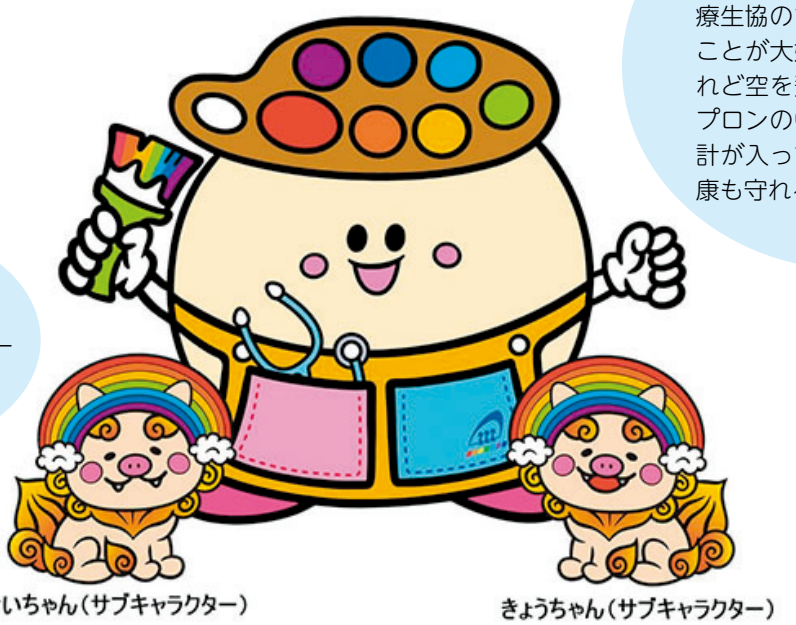
年	月	医療生協のあゆみ	月	県内外
2017			7	韓国大統領に文在寅氏就任
			8	「辺野古に新基地を造らせない県民大会」45,000 人
				森友・加計問題に共謀罪成立
	9	・沖縄協同病院が平成 29 年度救急・防災フェアにて医療機関表彰	10	東村高江の民間地で CH53E 大型輸送ヘリが炎上
	11	・八重山支部結成	12	普天間第二小学校の校庭に CH53E 大型輸送ヘリの窓が落下
	12	沖縄医療生協 40 番目の八重山支部結成総会		宜野湾市内の保育園の屋根から CH53 ヘリの部品が見つかる
2018	1	・沖縄医療生協が「おきなわ花と食のフェスティバル 2018」に健康チェックで参加		
		・「2018 初夢やんばるシンポジウム・新春のつどい」を開催		
	2	沖縄医療生協が豊見城市・豊見城社会福祉協議会「地域見守り隊活動」協定へ参加		
	3	・みやこ支部結成		
		・糸満南支部解散（糸満南支部・糸満東支部結成）		
	4	・生協ケアセンター開所	4	陸自「イラク日報」が発見され公表
		・かりゆしの里施設長に原国政裕就任		
	5	・医療生協平和活動委員会主催「組合員が語る戦争体験を聞く会」を開催		
		・糸満協同診療所、開設 40 周年		
	6	・第 53 回通常総代会開催	6	働き方改革関連法が成立
	7	・第 41 回九州沖縄ブロック組合員交流研修会 in おきなわを開催		「18 歳成人」改正民法成立
		・沖縄協同病院でドクターカー運用開始	7	「カジノを含む統合型リゾート（IR）実施法」成立
		・沖縄県中小企業基盤強化プロジェクトへ株式会社 SORA アカデミーサポートと株式会社ダイコーとともに「外国人・海外透析患者の受入れ基盤整備プロジェクト」で参加（中国語講座などを実施）	9	玉城デニー氏・沖縄県知事選初当選
	10	・浦添協同クリニック、開設 20 周年		
	11	・沖縄協同病院の慢患外来を協同にじクリニックへ移転	10	東京・豊洲市場 開場（築地市場は 83 年の歴史に幕を下ろした）
		・協同にじクリニック所長に横矢隆宏就任		
2019	1	・浦添協同クリニック、開設 20 周年祝賀会	2	沖縄県・米軍普天間飛行場の名護市辺野古移設に伴う埋め立ての賛否を問う県民投票にて反対票 7 割を占める
	2	・協同にじクリニック所長に上原和博就任		
	3	・第 5 回生協子ども健康まつりで 3800 人余の参加		
	4	・生協ケアセンター、開設 1 周年	4	皇太子徳仁親王殿下が第 126 代天皇即位 新元号「令和」へ
		・かりゆしの里施設長に當山雅樹就任		
	6	・とよみ生協病院、開設 10 周年	6	G20 サミット日本初開催（大阪）
		・第 54 回通常総代会開催		浦添市立浦西中学校へ米軍ヘリコプターからゴム製部品が落下
	7	・美里ハウスを社会福祉法人沖縄にじの会へ移管		
	8	・協同にじクリニック歯科で無料・低額診療事業を開始		
		・コープおきなわと共催で宮古島戦跡めぐりを開催		
	9	・こくみん共済 COOP 沖縄主催の「ぼうさいカフェ in なんじょう」へ健康チェックで参加		
	10	・沖縄協同病院院長に伊泊広二就任	10	消費税率が 8% → 10% へ
	11	・新中部協同病院開院、内覧会・祝賀会		沖縄・世界文化遺産「首里城」焼失
		・辺野古座り込み 15 周年行動		
2020			1	国内で初の新型コロナ感染を確認
				米海軍の MH60 ヘリコプターが那覇市から東に 170 ｋｍの公海上に墜落
	3	・ちゃたん支部結成	3	新型コロナ感染拡大により選抜高校野球大会・初の中止へ
		・南風原支部解散（南風原支部・南風原南星支部結成）		
				新型コロナ感染拡大により東京五輪・パラリンピック史上初の延期
	4	・入職式　コロナ感染防止の為事業所毎の分散開催	4	全国へ緊急事態宣言発令
		・中部協同病院にて門前トリアージ・コビット（発熱）外来を開始		
	6	・安謝高齢者複合施設のデイサービスと有料老人ホーム安謝ハウスを閉鎖し、生協グループホーム安謝へ移行		
		第 55 回通常総代会開催　コロナ感染症対により縮小開催	7	レジ袋の有料化がスタート
	8	・沖縄医療生協 LINE 開始	8	安倍首相辞任表明
		・医療福祉生協連の第 8 回 24 時間蓄尿塩分調査へ 43 人が参加		米軍嘉手納基地所属 F15 戦闘機の部品落下
			9	菅首相就任・新内閣発足

年　表

年	月	医療生協のあゆみ	月	県内外
2020	10 11 12	・FM なはラジオ番組「沖縄医療生協　にじのひろば」を開始 ・沖縄協同病院の嘉手川豪心医師が日本排尿機能学会で学会賞を受賞 ・やんばる協同クリニックで無料・低額診療事業を開始 ・那覇民主診療所、開設 50 周年	10	アニメ映画「鬼滅の刃」国内最速で興行収入 100 億円突破
2021	1 2 4 6 8 9 11	・訪問看護ステーションなないろ、開設 ・理事会オンライン会議開始 ・入職式　分散開催 ・やんばる協同クリニック、開設 10 周年 ・介護老人保健施設かりゆしの里を社会福祉法人沖縄にじの会へ移管 ・生協だよりにてフードパントリー活動の協力よびかけ開始 ・第 56 回通常総代会開催　緊急事態宣言下で縮小開催 ・組合員特典の利用を拡大して施設と提携開始 ・理事へタブレット端末配布 ・沖縄協同病院外来にてコロナ抗原カクテル療法を開始 ・沖縄協同病院が令和 3 年度那覇市政功労者表彰・那覇市制 100 周年記念特別表彰式にて特別感謝状を受賞 ・第 19 回 WHO 世界健康ウォーク＆ SDG ｓクリーン活動	1 2 7 8 9 10 11	「大学入学共通テスト」初実施 バイデン米大統領就任 「新型コロナワクチン」の国内接種開始 「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」世界自然遺産登録 「北海道・北東北の縄文遺跡群」世界文化遺産登録 「東京五輪」開催 「東京五輪」沖縄の喜友名諒が空手型・初代王者へ 新型コロナ国内感染者数が累計 100 万人突破 「まん延防止等重点措置」適用 変異ウイルス「デルタ株」流行 うるま市の民間病院で国内最大規模のクラスター発生 政府「デジタル庁」発足 小笠原諸島付近の海底火山の噴火で発生したとみられる大量の軽石が沖縄本島に漂着 菅内閣総辞職 岸田内閣発足 玉城デニー知事・辺野古埋め立て変更申請不承認 普天間飛行場所属の垂直離着陸輸送機 MV22 オスプレイ離陸時に、宜野湾市野嵩の民家敷地内へステンレス製の水筒を落下
2022	1 3 4 6 7 10	・全支部へタブレット端末配布 ・「新とよみ生協病院建設を成功させる組合員のつどい」を開催 ・入職式　分散開催 ・生協グループホーム安謝、開設 10 周年 ・糸満協同診療所所長に長谷川千穂就任 ・第 57 回通常総代会開催　コロナ感染対策で縮小開催 ・名誉院長、名誉診療所長任命 ・新とよみ生協病院、地鎮祭 ・沖縄医療生協、創立 50 周年 ・沖縄医療生協のシンボルマーク、リニューアル ・沖縄医療生協のマスコットキャラクターが誕生	 2 6 5 7 8 9 10	 新型コロナ国内感染者数　累計 500 万人突破 ロシアのウクライナ侵攻 伊江村の民間地に米軍のパラシュートが落下 国頭村宜名真の牧草地に米海兵隊 CH53 大型輸送ヘリが不時着 沖縄復帰 50 周年 東村の海岸で FA18E の燃料タンクが投棄される 金武町で銃弾により民家の窓ガラスが割られる 安倍元首相銃撃事件 第 2 次岸田内閣が発足 玉城沖縄県知事、再選 安倍氏国葬 天皇皇后両陛下 即位後初の沖縄訪問

「ニージー」
頭の上に乗っているパレットで大きな画用紙いっぱいに医療生協のすてきな未来を描くことが大好き。手足は短いけれど空を飛ぶことができ、エプロンの中には聴診器と体温計が入っていて、みんなの健康も守れるように頑張るぞ！

「せいちゃん、きょうちゃん」
沖縄の守り神シーサーと医療生協の虹を合わせました



マスコットキャラクター

シンボルマーク

50 周年バッチ

編 集 後 記

創立 50 周年の節目の年を迎え、ここに記念誌を発刊できましたこと、ご協力いただいた皆様に感謝いたします。

1972 年、施政権返還で沖縄県の日本復帰が実現した年の、10 月 1 日に沖縄医療生協が創立されました。戦後の劣悪な生活環境と医療状況の中で、誰でも安心して診てもらえる医療は、県民の切実な願いでした。

今回の記念誌作成にあたり、40 周年記念誌を参考にしながら 2012 年からの「10 年の軌跡」を振り返りました。

介護事業所の開設から診療所の新築移転、病院建替え等の施設展開、島しょでの支部誕生など活動を前進させてきました。こうした中、2020 年 2 月から新型コロナウイルス感染が国内でも広がり始めました。これまでの日常生活や社会活動を大きく変えてしまうなか、私たちは多くの組合員や職員の力を結集し、地域医療を支える大きな役割を果たしました。

大きな時代の変化のなか、組合員ならびに職員と共に 10 年 20 年先の未来を築きながら、地域の皆さんの期待に応えるべく医療生協が発展していくよう、全力で取り組んでいきます。

＜記念誌編集委員会＞
委 員 長　外間貞明
事務局長　山城健一
実行委員　赤嶺守一　大城真千子　玉城徹　知念清香　仲底洋乃　真喜屋奈美

「健康と平和、いのち輝く社会をめざして50年　うまんちゅとともに未来をひらく」
創立50周年（1972 ～ 2022）

2023 年 3 月 31 日　発行
編集　沖縄医療生活協同組合
〒 901-0294　沖縄県豊見城市字真玉橋 593 番地の 1　8 階
TEL：098-856-3107　　FAX：098-850-7990
表紙デザイン　株式会社 GREAT
印刷　製本　　丸正印刷株式会社

沖縄医療生活協同組合

〒901-0294 豊見城市字真玉橋593番地の１（とよみ生協病院8階）
TEL.098-856-3107　FAX.098-850-7990